

1710迄 (1555件)

- 1701年-08:00|インドネシア/オランダ | |||<就任>モルッカ諸島オランダ 総督「Pieter Rooselaar」(~1706年)
- 1701年-07:00|カンボジア | |||<即位>カンボジア王国国王「チェッタ4世」(3回目~1702年)
- 1701年-06:00|プータン | |||<就任>プータン摂政「ガワンツェリン」(~1704年)
- 1701年-05:30|インド | |||<死去>ハンスタ 国統治者(ラジャ・サーヒブ)「ウダ イムシ」2世
- 1701年-05:30|インド | |||<就任>コーチン国統治者(マハラジャ・ガナカダラ・コウイラテ・イカリカル)「ラマウ アルマ6世」(~1721年10月没)
- 1701年-05:30|インド | |||<就任>シタマウ国ラジャ「ケショ・ダス」建国(~1748年没)
- 1701年-05:30|インド | |||<就任>ダスハラ国ラジャ「ハド マフ・デ・オ・ハニ」(~1753年)
- 1701年-05:30|インド | |||<就任>ナヤガル国ラジャ「ラムチャンドラ・シン・マンダッタ」(~1730年)
- 1701年-05:30|インド | |||<就任>ナラガル国ラジャ「ヒマット・チャンド」(~1705年)
- 1701年-05:30|インド | |||<就任>ナルシンプル国ラジャ「コチャリ・ハリチャンド・ン・モハトラ」(~1723年)
- 1701年-05:30|インド | |||<就任>ハンスタ 国統治者(ラジャ・サーヒブ)「ウ イルシムシ」1世(~1716年没)
- 1701年-05:30|インド | |||<就任>ヒンドル国ラジャ「ハガハット・シン・ナレントラ」(~1733年)
- 1701年-05:30|インド | |||<就任>ホンチ国ラジャ「アフト・ウル・リサ・ク・カーン」(~1747年没)
- 1701年-05:30|インド | |||<就任>ムガル帝国カミール総督「イブラヒム・カーン」(1回目~1706年)
- 1701年-05:00|モルデイグ | |||<即位>イストラ朝スルタン「Ali7世 Kula Ran Muiy」(~同年)⇒「Ibrahim Mudzhiruddine M uthey Ran Mani Loka」(~1704年)
- 1701年-05:00|パキスタン | |||<即位>カホラ朝君主「Mian Yar Muhammad」(~1719年)
- 1701年-05:00|トルクメニスタン/ウズベキスタン | |||<即位>ヒヴァ・ハン国第21代ハン「アル・ムハマト」(~1702年)
- 1701年-04:00|ジョージア | |||<即位>イメリティ王「ゲリア公マミア」(~1702年)
- 1701年-03:00|スーダン | |||<即位>ダフル・スルタン国スルタン「ム・サイフ・ン・スレイマン」(1回目~1704年頃)
- 1701年-03:00|エリトリア/トルコ | |||サキンとマツワのサンジヤクがヒジャーズ 州に併合される
- 1701年-02:00|ラトビア | |||<就任>ケルラント・ゼムガレン公国政府議長「フリート・リヒ・フォン・ブラッケル」(~1703年)
- 1701年-02:00|ラトビア | |||<就任>ケルラント・ゼムガレン公国摂政「エリサベス・ゾフィー・ヘルツォーギン・フォン・ブランデンブルク」(~1702年)
- 1701年-02:00|モザンビーク/ポルトガル | |||<就任>モザンビーク、ソファラ、リオス・テ・クアマ、モノモタパ 総司令官「ジョアン・ロドリゲス・ダ・コスタ」(1回目~1704年)
- 1701年-02:00|ラトビア/スウェーデン | |||ドゥナンゲン、ピルテンをスウェーデンが占領(1705年から1706年にかけてロシア占領により中断~1709年)。
- 1701年-01:00|フランス | |||<死去>リニー伯「Madeline-Charlotte」
- 1701年-01:00|スペイン | |||<就任>第9代アルバ 公「アントニオ・アルバレス・デ・トレド・イ・グスマン」(~1711年)先代の子
- 1701年-01:00|フランス | |||<就任>ヌール公・モルテン伯「フィリップ」2世(~17231202死去)
- 1701年-01:00|フランス | |||<就任>リニー伯「Charles-Francis」(~1719年)
- 1701年-01:00|イタリア | |||<即位>ピオンビノ公「Ippolita」(~17331229死去),「Gregorio」共同統治(~1707年)
- 1701年-01:00|クロアチア | |||<即位>ホルヒツァ大公「マルコ・ハリッチ」(~1704年)
- 1701年-01:00|ドイツ | |||<即位>メクレンブルク=シュトレリツ公「アドルフ・フリートリヒ2世」アドルフ・フリートリヒ1世の息子(~17080512死去)
- 1701年-01:00|ルクセンブルク/フランス | |||ルクセンブルク をフランスが占領(~17130626)
- 1701年 00:00|カナダ | |||<即位>アシャンティ王「オエイ・トウトウ」カナダで建国
- 1701年 00:00|カナダ | |||アシャンティ王オエイがデングキア王国を破る
- 1701年 03:00|仏領ギアナ/フランス | |||<就任>ギアナ知事「Pierre Eleonore de la Ville」(4期目~17050805)
- 1701年 04:00|グレナダ/フランス | |||<就任>グレナダ 総督代行「サン＝ルイ騎士団ピエール・ギョント・ラ・ロッシュ・ギヨン」(~同年)⇒「ラ・モット卿ジョゼフ・ド・ブローック」(~1708年没)
- 1701年 04:00|BES諸島/イギリス | |||<就任>ババ 島副司令官代理「Jacob Leverock」(⇒1702年副司令官)
- 1701年 04:00|マルティニーク/フランス | |||<就任>フランス領アンティル総督「Charles d'Esnots de Forbonest」(~10月死去)
- 1701年 04:00|サン・マルタン/フランス | |||<就任>フランス領サン・マルタン副王「Louis Cacqueray」(~1702年)
- 1701年 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス/アンティグア・バブーダ | |||イングランド 植民地セントクリストファー及びネイビスはアンティグアの直接統治下(~1704年)
- 1701年 06:00|アメリカ/イギリス | |||<就任>イギリス領ニューヨークおよびニュージャージー 総督「エドワード・ハイト」(~1708年)
- 1701年 06:00|アメリカ/イギリス | |||<就任>イギリス領ベニヤ植民地総督「アンドルー・ハミルトン」(~17030420死去)
- 1701年1月2日-01:00|モコ | |||<就任>モコ公「アントニオ(=アントワヌ1世)」(~17310220没)
- 1701年1月3日-01:00|モコ | |||<死去>モコ公「ルイジ」(=ルイ1世)
- 1701年1月14日-09:00|日本|茨城県水戸市|元禄13年12月6日|<死去>前水戸藩主「徳川光圀」73歳(誕生:寛永5(1628)0610)義公と諡される
- 1701年1月15日 00:00|カナダ/ドイツ | |||<改称>ブランデンブルク=ゴールト=コースト⇒プロイセン・ゴールト=コースト
- 1701年1月15日 00:00|カナダ/ドイツ | |||<就任>プロイセン・ゴールト=コースト司令官「エイトリアン・グロップ」(~1704年)
- 1701年1月15日-09:00|日本|福島県二本松市|元禄13年12月7日|<死去>陸奥二本松藩100700石「丹羽長之」⇒翌年2月3日、長男「丹羽秀延」が継ぐ(⇒享保13年5月5日(17280612)死去)
- 1701年1月16日-05:00|モルデイグ | |||<死去>モルデイグ・スルタン「ムハマト」2世
- 1701年1月16日-05:00|モルデイグ | |||<即位>モルデイグ・スルタン「アリ7世」(同年没)
- 1701年1月16日-01:00|イタリア | |||<死去>アントニオ・トラッキ、イタリアの作曲家(生年1634年)
- 1701年1月18日-02:00|リトアニア/ドイツ | |||メムルはプロイセン王国(⇒18710118からドイツ)の一部

1710迄 (1555件)

- 1701年1月18日-01:00|ドイツ| |||ブランデンブルク選帝侯フリードリヒ3世はプロシヤのケーニヒスベルクにおいて戴冠し、プロシヤ国王フリードリヒ1世となった(-1713)
- 1701年1月29日-09:00|日本|長崎県長崎市|元禄13年12月20日|<深掘事件>未明、佐賀鍋島領深堀の武士数10人が浜町の高木邸に侵入/長崎の町年寄で代物替会所の頭取・高木彦右衛門とその一統7人を討ち取る
- 1701年2月3日-09:00|日本|東京都墨田区|元禄13年12月25日|大火の後浅草から深川へと移動した、江戸における通矢の殿堂三十三間堂の普請が出来上がる
- 1701年2月8日-09:00|日本|茨城県結城市|元禄14年|<加増>下総結城藩1万石「水野勝長」+3000石⇒13000石(⇒元禄16(1703)年、5000石加増され18000石)
- 1701年2月8日-09:00|日本|群馬県高崎市|元禄14年|<加増>上野高崎藩52000石「松平輝貞」+1万石⇒62000石(⇒宝永1(1704)年12月26日、1万石加増され72000石)
- 1701年2月8日-09:00|日本|群馬県沼田市|元禄14年|柿平銅山(利根村)、開発される
- 1701年2月8日-09:00|日本|千葉県柏市|元禄14年|<加増>下総船戸藩1万石「本多正永」+5000石⇒15000石(⇒元禄16(1703)年1月11日、沼田藩2万石へ加増移封)
- 1701年2月8日-08:00|中国| ||清・康熙40年|<即位>(チベット)ゲシ・ハン王「テンジン・ワンパル」(~1703年)
- 1701年2月8日-09:00|日本| ||元禄14年1月|<刊行>西澤一風「寛濶曾我物語」
- 1701年2月18日-09:00|日本|東京都千代田区|元禄14年1月11日|<就任>老中「稲葉正通」(~宝永4年8月2日)
- 1701年3月2日-09:00|日本|長崎県長崎市|元禄14年1月23日|暁、長崎本石灰町より出火。丸山、寄合町が全焼、遊女町も類焼、記録類がほとんど焼失
- 1701年3月4日-09:00|日本|大阪府大阪市天王寺区|元禄14年1月25日|<死去>契沖(62歳)真言宗の僧、国学者、歌人
- 1701年3月10日-03:00|イタリヤ/トルコ| |||<就任>パース・ワリス「アリ・パシヤ」(~17030927)
- 1701年3月10日 00:00|マン島/イギリス| |||<就任>マン島知事「James Cranston」(~1702年)
- 1701年3月15日 05:00|日本|三重県桑名市|元禄14年2月6日|<桑名元禄14年の大火-野村騒動>未刻(14時ごろ)、今一色町から出火、烈風にあおられて延焼、城下町から城内へ、本丸の天守閣を始め、二の丸、三の丸から外曲輪に至るまで焼失/町家1456軒と全体の8割近くが焼失、侍屋敷70軒、寺社6か所が焼失
- 1701年3月19日 00:00|イギリス| |||<死去>3代ブリッジウォーター伯「ジョン・エジヤートン」
- 1701年3月19日 00:00|イギリス| |||<就任>4代ブリッジウォーター伯「スコープ・エジヤートン」(⇒17200618初代ブリッジウォーター公~17450111死去)
- 1701年3月19日-01:00|アルバニア| |||アルバニア、テヘラン県で地震(M6.4)死者300人
- 1701年3月20日-09:00|日本|秋田県秋田市|元禄14年2月11日|<立藩>久保田新田藩(1)1万石「佐竹義都」久保田藩より分与(⇒享保5(1720)年11月27日、隠居)
- 1701年3月20日-09:00|日本|秋田県秋田市|元禄14年2月11日|<立藩>久保田新田藩(2)2万石「佐竹義長」久保田藩より分与(⇒享保3(1718)年9月6日、隠居)
- 1701年3月20日-09:00|日本|福島県相馬市|元禄14年2月11日|<交替>陸奥中村藩6万石「相馬昌胤」隠居⇒養子「相馬叙胤」が継ぐ(⇒宝永6(1709)年6月5日、隠居)
- 1701年3月22日-09:00|日本|三重県桑名市|元禄14年2月13日|桑名城内堀より出火し、赤須賀、伊賀町に延焼し武家屋敷60軒も焼失し、武器や諸道具、記録も殆どが灰燼に帰する
- 1701年3月23日-01:00|ベルギー| |||<就任>ベルギー総督「ヤン・ファン・ブロッホフェン・クラフ・ファン・ベルゲイ」(~17041007)
- 1701年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「アルフォンソ・トシーニ」「フランチェスコ・モラッチ」
- 1701年4月2日 00:00|イギリス| |||<死去>ノーフォーク公・アランデル伯・ノーリッチ伯「ハンリー・ハワード」
- 1701年4月2日 00:00|イギリス| |||<就任>ノーフォーク公・アランデル伯・サリ伯・ノーリッチ伯「トマス・ハワード」先代の甥(~17321223死去)
- 1701年4月4日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿代行判事「ダブリン大司教カリス・マッシュ/トマス・伯爵ハンリー・ハミルトン/マウント・アレクサンダー伯爵ヒュー・モンゴメリー」(~9.18)
- 1701年4月12日-09:00|日本|滋賀県彦根市|元禄14年3月5日|<交替>近江彦根藩30万石「井伊直興」隠居⇒次男「井伊直通」が継ぐ(⇒宝永7(1710)年7月26日、22歳で死去)
- 1701年4月15日-01:00|イタリヤ/トルコ| |||ベネチア、ロレンツォ・ソランツォによるトルコとの通商協定
- 1701年4月21日 02:00|日本|東京都千代田区|元禄14年3月14日|<赤穂事件>巳の下刻(午前11時半過ぎ)、浅野内匠頭長矩(赤穂藩主)が江戸城中松之廊下で高家筆頭吉良上野介義央に刃傷に及ぶ/長矩は綱吉の命で直ちに切腹/35歳(誕生:寛文7(1667)0811)
- 1701年4月22日-09:00|日本|兵庫県赤穂市|元禄14年3月15日|<死去改易>浅野長矩。江戸城にて吉良義央に対して刃傷沙汰を起こしたため、即日切腹(35歳)播磨赤穂藩主
- 1701年4月25日-09:00|日本|埼玉県深谷市|元禄14年3月18日|<死去>武蔵岡部藩22250石「安部信友」(64歳)⇒6月29日、長男「安部信峯」が継ぐ(⇒弟「信方」に2000石を分知し20250石⇒宝永3年5月21日(17060701)死去)
- 1701年4月29日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督「ベンジヤミン・ベネット大佐」(1期目~1713年)
- 1701年5月 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>バハマ植民地総督「エリア・ハスケット」(~10.5)
- 1701年5月6日-09:00|日本|福井県敦賀市|元禄14年3月29日|敦賀川向表町から出火、180軒焼失
- 1701年5月8日 00:00|イギリス| |||<死去>第3代リンツ伯「ロバート・バーティ」
- 1701年5月8日 00:00|イギリス| |||<就任>第4代リンツ伯「ロバート・バーティ」(⇒17061221リンツ伯候⇒17150726兼アンカスター=ケステイガン公~17230726死去)
- 1701年5月15日-01:00|イタリヤ/オーストリア| |||スペイン継承戦争勃発。プリンス・オイゲン率いるオーストリア軍が北イタリヤに進撃
- 1701年5月18日-09:00|日本|福島県二本松市|元禄14年4月11日|<死去>丹羽光重(81歳)前陸奥二本松藩主

1710迄 (1555件)

- 1701年5月19日-05:30|インド/デンマーク| |||<就任>デンマーク領東インド諸島(トランケバル)司令官「アント・レアス・アント・レア」(~同年) ⇒「ミッケル・グスト・セン・クロネ」(~1702年7月)
- 1701年5月23日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦:1701/5/12|イギリスの海賊キッドが絞首刑に処せられる(誕生:1650)
- 1701年5月23日-09:00|日本|岡山県備前市|元禄14年4月16日|備前岡山藩の庶民教育機関の閑谷学校が完成
- 1701年5月24日-09:00|日本|愛媛県松山市|元禄14年4月17日|松山城下長町より出火し、西風強く大火となり136軒類焼
- 1701年5月30日 00:00|イギリス| |||<死去>ハンティントン伯「テオフィロス・ヘイスティングス」
- 1701年5月30日 00:00|イギリス| |||<就任>ハンティントン伯「ジョージ・ヘイスティングス」(~17050222死去)
- 1701年6月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Biykli Mehmed Pasha」(2期目~同年) ⇒「Arslan Muhammad Pasha ibn al-Mataraji」(1期目~1702年)
- 1701年6月 00:00|イギリス| |||<死去>5代アバコン伯「チャールズ・ハミルトン」
- 1701年6月 00:00|イギリス| |||<就任>6代アバコン伯「ジェームズ・ハミルトン」先代の又従兄弟(~17341128死去)
- 1701年6月7日-01:00|イタリア| |||<就任>シエーナ共和国トージェ「フェデリコ・デ・フランキ」(~17030607)
- 1701年6月9日-01:00|フランス| |||<死去>ウァロア公・オルアン公・ヌール公・モンパンス公「フィリップ1世」脳卒中で死亡60歳
- 1701年6月9日-01:00|フランス| |||<就任>ヌール公「フィリップ2世」(~17231202死去)
- 1701年6月9日-01:00|フランス| |||<即位>ウァロア公・オルアン公・モンパンス公「フィリップ2世」(~17231202死去49歳)
- 1701年6月11日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ総督「Balthasar Coyett」(~1706年)
- 1701年6月12日-04:00|レユニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島司令官「Jean-Baptiste de Villers」(~17090805)
- 1701年6月12日 00:00|ポルトガル| |||<就任>マテウス総督「Joao da Costa de Ataide e Azevedo」(~17040308死去)
- 1701年6月23日 00:00|イギリス| |||<昇格>第10代アガイル伯「アチルド・キャンベル」⇒初代アガイル公兼キンタイアロン侯・キャンベル＝コウアル伯(~17030925死去)
- 1701年6月23日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦6月12日|カトリック教徒をイギリス国王と認めないという王位継承法が制定され、前国王ジェームズ2世の息子ジェームズ・エドワードが王位継承権者から外される
- 1701年6月24日 00:00|イギリス| |||<死去>初代タナーガイル伯「フォート・グレイ」
- 1701年6月24日 00:00|イギリス| |||<昇格>2代アナンデイル＝ハートフェル伯「ウィリアム・ジョンストン」⇒アナンデイル侯(~17210114死去)
- 1701年6月24日 06:00|アメリカ| |||フランス人キャデラック、デトロイトを建設
- 1701年6月30日-09:00|日本|茨城県水戸市|元禄14年5月25日|<石直し>常陸水戸藩28万石「徳川綱条」⇒35万石(幕府より領内の墾田7万石を本領とすることが許可される⇒享保3(1718)年9月11日、63歳で死去)
- 1701年7月10日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領マチュセッツ湾直轄植民地総督代理「総督評議会」(~17020611)
- 1701年7月18日 04:00|BES諸島/イギリス| |||<就任>セント・ユースティウス島司令官「Isaac Lamont」(1期目~1704.6)
- 1701年7月19日-09:00|日本|千葉県佐倉市|元禄14年6月14日|<移封>越後高田藩103000石「稲葉正往」⇒下総佐倉藩102000石(⇒宝永4(1707)年8月2日、隠居)
- 1701年7月19日-09:00|日本|新潟県上越市|元禄14年6月14日|<移封>下総佐倉藩67850石「戸田忠真」⇒越後高田藩67850石(⇒宝永7(1710)年閏8月15日、下野宇都宮藩67850石に移封)
- 1701年7月21日 00:00|カリブ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カリブ諸島総司令官「Miguel Gonzalez de Otazo」(~1705.8死去)
- 1701年7月24日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「崔錫鼎」(~10.31)
- 1701年7月25日-09:00|日本|京都府京都市|元禄14年6月20日|<元禄14年夏、京都大雷雨>(19日~)京都では当時、大雨が降り、鴨川が氾らんして洪水となっていた/辰巳の刻(午前8時から10時ごろ)雷が西七条から鹿が谷周辺に多く落ち、洛中では仙洞御所、二条城、大納言大徳寺公金の屋敷、六角堂などに落ちて多くの人が気絶したり、不幸にも死亡した/中には洪水の犠牲になった人もいた
- 1701年7月31日 00:00|イギリス| |||<死去>ウァリック伯・ホランド伯「エドワード・リッチ」
- 1701年7月31日 00:00|イギリス| |||<就任>ウァリック伯・ホランド伯「エドワード・ヘンリー・リッチ」先代の息子(~17210816死去)
- 1701年8月-02:00|ラトビア/スウェーデン| |||<就任>ケルラント総督「カール・マグヌス・フリヘルスチェアート」(~1702年)
- 1701年8月-02:00|ラトビア/スウェーデン| |||ケルラントとセムガリアをスウェーデンが占領(1705年8月~1706年3月、ロシアの占領によって中断~1709年9月)
- 1701年8月7日-09:00|日本|東京都中央区|元禄14年7月4日|<死去>五代目中村勘三郎
- 1701年8月13日-09:00|日本|東京都文京区|元禄14年7月10日|<完成>護国寺護摩堂
- 1701年8月22日 06:00|アメリカ/フランス| |||<死去>フランス領ルイジアナ植民地総督「ジャン＝バティスト・ラウ・イラントリ」
- 1701年8月22日 06:00|アメリカ/フランス| |||<就任>フランス領ルイジアナ植民地総督「ジャン＝バティスト・ル・モワヌド・ド・ビエンガイユ」(~1713年)
- 1701年9月3日-09:00|日本| ||元禄14年8月|<刊行>江島其碩の浮世草子「けいせい色三味線」
- 1701年9月7日-01:00|オーストリア/オランダ/イギリス| |||ハーグで、スペイン王位継承をめぐり、イギリス、オランダ、オーストリア諸公の間に対フランス大同盟が結成される
- 1701年9月16日 00:00|イギリス| |||<死去>元イングランド王「ジェームズ2世」67歳(誕生16331014)
- 1701年9月17日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド総督「統治委員会(フレイ・アゴスティーニョ・ダ・アソシアソン(2回目)/ウァスコ・コリス・コウチニョ・ダ・コスタ)」(~17021002)
- 1701年9月18日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿「ロチェスター伯爵ローレンスハイト」(~17030604)
- 1701年9月18日-09:00|日本| ||元禄14年8月16日|<元禄14年東海・東日本風水害>(~19日)強力な台風が東海道沿岸部から関東、東北地方を襲い、各地に大きな被害を出した/伊勢長島では木曾川の堤防が決壊して城中の家々の家々は床上浸水1.5m/同国亀山では鈴鹿川が、三河岡崎では矢矧川の堤防が決壊して領内が洪水となった/

1710迄 (1555件)

- 18日、宇都宮では城下の民家4600軒が倒壊、侍屋敷も133軒倒壊、同藩の表高の8割にあたる8万石の田畑が流された/奥州では三春で6人死亡、民家325軒倒壊、7000石の田畑が流されている
- 1701年10月 04:00|マルティニーク/フランス| |||<死去>フランス領アンティル総督「Charles d'Esnots de Forbonest」
- 1701年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュリアーノ・ベッルツィ」「ロレッツォ・ジヤンギ」
- 1701年10月2日-09:00|日本|兵庫県赤穂市|元禄14年9月1日|<加増移封>下野烏山藩3万石「永井直敬」⇒播磨赤穂藩33000石(⇒宝永3(1706)年1月28日、信濃飯山藩に移封)
- 1701年10月5日 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>バハマ植民地総督代行「エリス・ライトウッド」(⇒1703年10月、スペインの囚人〜1704年)
- 1701年10月6日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領アンティル総督代理「Charles de Pechpeyrou-Comminges de Guitaut」(3期目〜1702.5)
- 1701年10月17日 00:00|イギリス| |||<昇格>4代ハース伯「ジェームズ・ド・ラモント」⇒初代ハース公(ジヤコバト)(〜17160511死去非ジヤコバト爵位剥奪)
- 1701年10月24日-09:00|日本|愛媛県四国中央市|元禄14年9月23日|宇摩郡で強盗殺人事件の犯人9名が磔獄門となる
- 1701年10月27日-05:00|モルティエ/イギリス| |||<就任>モルティエ 摂政「アミール・イブラヒム・シャー・ハンタール/アミール・ムハンマド・ファムラテリ」(〜同年)
- 1701年10月27日-05:00|モルティエ/イギリス| |||<即位>モルティエ・スルタン「アル・ハサン10世」(〜同年)⇒「ムジール・アッテ・イン・イブラヒム」(〜17041220)
- 1701年10月31日-09:00|日本|兵庫県明石市|元禄14年10月|<交替>播磨明石藩6万石「松平直明」隠居⇒長男「松平直常」が継ぐ(⇒寛保3(1743)年2月、隠居)
- 1701年11月1日 00:00|イギリス| |||<死去>5代マリ伯「アレクザンダー・ステュアート」
- 1701年11月1日 00:00|イギリス| |||<就任>6代マリ伯「チャールズ・ステュアート」先代の息子(〜17351007死去)
- 1701年11月4日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>ヌエバ・イスパニャ副王代行「ファン・デ・オルテガ・イ・モンタネス」(2回目〜17021127)
- 1701年11月5日 00:00|イギリス| |||<死去>2代マクス・フィールド 伯「チャールズ・ジェラート」
- 1701年11月5日 00:00|イギリス| |||<就任>3代マクス・フィールド 伯「フィットン・ジェラート」(〜17021226死去断絶)
- 1701年11月6日 13:00|日本|滋賀県彦根市|元禄14年10月7日|<彦根元禄14年の大火>亥刻(22時ごろ)長曾根より出火し、延焼伝馬町に至る/焼失家屋2096戸
- 1701年11月8日 06:00|アメリカ| |||<ペンシルヴェニアで>ペンが憲法・特権の憲章を付与
- 1701年11月20日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督代理「John Farmer」(〜17030510)
- 1701年11月24日-09:00|日本|島根県松江市|元禄14年10月25日|<立藩>出雲松江新田藩1万石「松平近憲」(⇒吉秀⇒吉透)出雲松江藩から分与(⇒宝永元(1704)年2月23日、宗家出雲松江藩世継ぎとなり吸収廃藩)
- 1701年12月4日-09:00|日本|福井県|元禄14年11月5日|小浜質屋町から出火、175軒など焼失
- 1701年12月5日-01:00|アンコラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「ペルナルデ・イノ・デ・タウ・エ・ソウザ・ダ・バレス」(〜1702年12月)
- 1701年12月6日-09:00|日本|大阪府大阪市|元禄14年11月7日|<死去>2代嵐三右衛門(41歳)歌舞伎役者
- 1701年12月8日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン諸島総督「トミンゴ・サバルブル・デ・エチェバリー」(〜17090825死去)
- 1701年12月10日-09:00|日本|東京都|元禄14年11月11日|幕府が、流行している独楽廻しを、堺町、木挽町の芝居小屋以外禁止し、市中での販売も禁止
- 1701年12月17日 00:00|イギリス| |||<就任>イングランド 王国国庫財務実行主席弁務官「カライル伯チャールズ・ワード」(1期目〜17020508)Whg
- 1701年12月30日-09:00|日本| ||元禄14年12月2日|<死去>済深法親王(41歳)霊元天皇の皇子
- 1701年12月31日-09:00|日本|東京都|元禄14年12月3日|幕府が、再び遊女等の取締令を出す
- 1702年-08:00|インドネシア| |||<死去>アチェ王国スルタン「Badrul Alam Syarif Hashim Jamaluddin」
- 1702年-08:00|インドネシア| |||<即位>アチェ王国スルタン「Perkasa Alam Syarif Lamtui Syah Johan Berdaulat」(〜1703年)
- 1702年-08:00|インドネシア| |||<即位>スマタラ 君主「Cakranegara1世」(〜1705年)
- 1702年-07:00|カンボジア| |||<即位>カンボジア王国国王「トンモ・レアキア2世」(1回目〜1703年)
- 1702年-05:30|インド| |||<就任>ジャイサルメル国統治者(マハラール)「ジャスワント・シン」(〜1708年)
- 1702年-05:00|パキスタン| |||<死去>ハールワール国エミール「ハートウル・カン2世」
- 1702年-05:00|パキスタン/トルクメニスタン| |||<死去>ヒヴァ・ハン国第20代ハン「シャー・ニヤズ」
- 1702年-05:00|パキスタン| |||<就任>ハールワール国エミール「モハラク・カン1世」(〜1723年)
- 1702年-05:00|パキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ヒヴァ・ハン国ハン「シャーハフ・ハン」(〜1704年死去)
- 1702年-05:00|パキスタン/トルクメニスタン/タジキスタン| |||<即位>ブハラ・ハン国ジャン朝ハン「ウハイトウッラー1世」スフ・ハン・クリの長男(〜1711年死去)
- 1702年-04:00|ジョージア| |||<即位>イメレティ王「ギオルギ6世」(1回目〜1703年)
- 1702年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>ハース・ワリス「カヤ・ハサン・ハシャ」(〜同年)
- 1702年-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Cetrefiloglu Yusuf Pasha」(〜同年)⇒「Arap Omer Pasha」(〜同年)
- 1702年-02:00|ラトヴィア/スウェーデン| |||<就任>ケルラント総督「アドム・ルトウ・イヒ・グリーヴ・レーヴ・エンハウプト」(1回目〜1705年8月)

1710迄 (1555件)

- 1702年-02:00|シリア・アラブ /トルコ| |||<就任>ダマス・ワリス(総督)代行「Salih Agha」(~同年)⇒「Mehmed Pasha Kurd Bayram-zade」(1期目~1703年)
- 1702年-02:00|ギリシャ| |||<就任>ヨアニ・ワリス(総督)「アスラン・パシャ」(~1720年)
- 1702年-02:00|ウクライナ| |||<復位>クリミア・ハン国ハン「セルム1世キレ」(4期目~17041222死去)
- 1702年-02:00|南アフリカ| |||南部アフリカでコサ人と西洋人がファーストコンタクト
- 1702年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領ウラグバ暫定総督「Antonio de Zuniga y la Cerda」(~同年)⇒総督「Jose de Agullo y de Pinos」(~1704年死去)
- 1702年-01:00|ドイツ| |||<就任>プロシヤ王国首相「Johann Kasimir Kolbe von Wartenberg」(~1711年)
- 1702年-01:00|ポズナニ・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ポズナニ総督「セイラー・パシャ」(~17031012)
- 1702年-01:00|ベルギー| |||<就任>リニユ公「アントワヌ・ヨゼフ・ジズラン」(~1750年)
- 1702年-01:00|フランス| |||ロレーヌはフランスに占領された(~1714年)
- 1702年 00:00|セカール| |||<就任>フタトモ統治者(デナンケ・サテギ)「サンバ・ホビ」(~1707年頃)
- 1702年 00:00|イギリス/アメリカ| |||英海軍、プロシヤのアレクサンドルを攻撃するも失敗
- 1702年 00:00|イギリス/コロンビア| |||イギリス艦隊、コロンビア沖合いでトゥカッセの艦隊と海戦。5日間の激戦の後、英軍司令官ベンボウ提督が負傷。部下はそのまま撤退。ベンボウはまもなく死亡
- 1702年 04:00|モントセロ/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モントセロ副総督「Anthony Hodges」(~1710年)
- 1702年 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス| |||<就任>ネイビス副総督代行「クリストファー・コリンソン」(~1703年)
- 1702年 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領アンティル総督代理「Gabriel Jean Nicolas de Gabaret」(1期目~1703年)
- 1702年 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ大審問院総督・長官「フェルナンド・ダビラ・ブラボー・デ・ラ・グーナ」(~1706年)
- 1702年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領メリーランド植民地総督「トマス・テンチ」(~1704年)
- 1702年 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>マヤ州総督「アントニオ・デ・モンフォル」(1回目~1705年)
- 1702年 06:00|アメリカ| |||イギリス、フロリダのスペイン人植民地を攻撃/サン・アウグスティン包囲。町は陥落
- 1702年1月4日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿代行判事「ダブリン大主教カキリス・マッシュ/トローター伯爵ハリー・ハミルトン」(~4. 11)
- 1702年1月8日-09:00|日本| ||元禄14年12月11日|幕府は諸国に金銀貨の通用令を出し、交換比率を金1両=銀58匁=銭3貫900文と定める
- 1702年1月21日 00:00|イギリス| |||<死去>3代アングルー伯「ジェームズ・アンスリー」
- 1702年1月21日 00:00|イギリス| |||<就任>4代アングルー伯「ジョン・アンスリー」先代の弟(~17100918死去)
- 1702年1月22日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サテニアコ総督「ウィリアム・セルウィン」(~4. 5没)
- 1702年1月28日-09:00|日本| ||元禄15年|<刊行>松尾芭蕉「奥の細道」都の書肆井筒屋庄兵衛から(元禄7年4月完成)
- 1702年1月28日-09:00|日本| ||元禄15年|<死去>広渡一湖(59歳)画家
- 1702年2月 00:00|サントメ・プリンシパル/ポルトガル| |||<就任>サントメ植民地総督「Jose Correia de Castro」(~17091017)
- 1702年2月 06:00|グアテマラ/スペイン| |||<就任>スペイン領グアテマラ暫定総督・総司令官・大統領「ジョン・ジョエルム・デ・ユアル」(2回目~5. 20)
- 1702年2月8日-01:00|ベルギー| |||<就任>ファンヨレ伯「アントワヌ・ヨゼフ・ジズラン」(~17500808没)
- 1702年2月20日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「徐文重」(~11. 18)
- 1702年2月20日-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事「アントニオ・ゴエリョ・ゲレイロ」(~1704年)
- 1702年2月24日-09:00|日本| ||元禄15年1月28日|近松門左衛門作『傾城壬生大念仏』が都万太夫座で上演される
- 1702年3月-03:00|サウジアラビア| |||<就任>メッカ・シャリフ「サイド・2世・イブン・サード」(2度目~1704年7月)
- 1702年3月1日 03:00|サンピエール島/ミクロン島/フランス| |||<就任>イルブアン・サザンズ諸島司令官「Sebastien Le Gonard」(~1709年)
- 1702年3月1日-09:00|日本| ||元禄15年2月3日|古金銀貨の「引替令」(回収を督令)
- 1702年3月8日-01:00|オランダ| |||<死去>オラニエ(オランダ)公「ウィレム3世」オランダ総督、イングランド王、スコットランド王、アイルランド王
- 1702年3月8日-01:00|オランダ| |||<就任>オラニエ(オランダ)公「ヨハン・ウィレム・フリーゾ」オランダ総督。デイルンブルク伯ヨハン6世の玄孫、祖母はウィレム2世の妹(~17110714死去)
- 1702年3月9日-09:00|日本|東京都|元禄15年2月11日|江戸四谷新宿太宗寺へんから出火、品川まで焼ける
- 1702年3月14日-01:00|イタリア| |||イタリア、ベネチアで地震(M6. 3)死者150人
- 1702年3月17日-09:00|日本| ||元禄15年2月19日|新井白石「藩翰譜」を撰する
- 1702年3月19日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦3月8日|<死去>イングランド王「ウィリアム3世(オラニエ公ウィレム3世)」半年前の落馬がもとで/51歳(誕生16501114)
- 1702年3月19日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦3月8日|<即位>イングランド・スコットランド王「アン・ジョージエームズ」2世とアン・ハイドの娘(⇒17070501ケレトワリオン及びアイルランド連合王国女王~17140801死去49歳)
- 1702年3月26日-09:00|日本| ||元禄15年|<死去>本因坊道策(58歳)囲碁棋士
- 1702年3月28日-09:00|日本| ||元禄15年3月|<刊行>都の錦, 浮世草子「元禄太平記」
- 1702年4月 00:00|イギリス| |||<死去>アイン伯「チャールズ・ゴードン」
- 1702年4月 00:00|イギリス| |||<就任>アイン伯「ジョン・ゴードン」(~17320407死去)
- 1702年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュゼッペ・マリ」「マルキオーレ・ハンマズ」
- 1702年4月1日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ニューハンプシャー州植民地総督「ジョセフ・ダトリー」(~17161007)

1710迄 (1555件)

- 1702年4月5日 05:00|ジヤマカ/イギリス |||<就任>英領サテニアゴ 総督代行「ピーター・ヘックフォード」(~12.4)
- 1702年4月5日-09:00|日本|埼玉県川越市|元禄15年3月9日|<加増>武蔵国川越藩92000石「柳沢吉保」+2万石⇒112000石(⇒宝永元(1704)年12月21日、甲斐甲府藩15万1200石へ加増移封)
- 1702年4月11日 00:00|アイルランド/イギリス |||<就任>アイルランド 副卿代行判事「マウント・アレクサンダー伯爵ヒュー・モンゴメリー/トマス・アールトマス・ケイトリー」(~17030604)
- 1702年4月12日 00:00|セネガル/フランス |||<就任>セネガル会社局長・司令官「ジョゼフ・ルメイトル」(~1706年)
- 1702年4月19日-09:00|日本|島根県安来市|元禄15年3月23日|<交替>出雲広瀬藩3万石「松平近栄」隠居⇒長男「松平近時」が継ぐ(⇒同年閏8月18日、死去)
- 1702年5月-02:00|リトアニア/スウェーデン |||リトアニアをスウェーデンが占領(~1709年)
- 1702年5月4日-01:00|オーストリア/フランス/オランダ/スペイン/イギリス |||スペインがフランスに属するのを阻止するため、イギリス、オランダ、オーストリアがフランスとスペインに宣戦布告する(スペイン継承戦争)
- 1702年5月4日 06:00|カナダ/アメリカ |||カナダとアメリカでアン女王戦争が始まる
- 1702年5月5日-09:00|日本|東京都|元禄15年4月9日|幕府が盗賊改役を再置し、徳山重俊を任命
- 1702年5月8日 00:00|イギリス |||<就任>イングランド 王国高等財務卿「マルセル・ロ公ジョーン・チャーチル」Tor(~17100811)
- 1702年5月14日-01:00|デンマーク/ポーランド/スウェーデン/ロシア/リトアニア |||スウェーデン王カール12世の軍が、デンマーク・ロシア・ポーランド・リトアニア共和国連合軍を破り、ワルシャワを占領
- 1702年5月14日 06:00|グアテマラ/スペイン |||<就任>スペイン領グアテマラ総督・総司令官・大統領「アロンソ・デ・セバ・ジヨス・イ・ウイラグティエラ」(~17031027没)
- 1702年5月16日 00:00|カナダ/オランダ |||<就任>オランダ領コロンブス総督「ウィレム・デ・ラ・パルマ」(~17051017在任中死去)
- 1702年5月21日-09:00|日本|栃木県栃木市|元禄15年4月25日|<死去>下野皆川藩12000石「米倉昌明」(30歳)⇒次男「米倉昌照」が継ぐ(⇒正徳2(1712)年5月23日、死去)
- 1702年5月24日-09:00|日本|東京都|元禄15年4月28日|<死去>初代鳥居清元(58歳)浮世絵師
- 1702年5月25日 01:00|カーボベルデ/ポルトガル |||<就任>カーボベルデ 総督「ゴンサロ・デ・レイス マスカレニャス」(~1706年)
- 1702年5月28日-09:00|日本| ||元禄15年4月28日|<死去>狩野昌運(66歳)狩野派の絵師
- 1702年5月29日-09:00|日本|東京都江東区|元禄15年5月3日|江戸深川三十三間堂通矢「半堂百射」で、山岡半弥が77本(総矢数100中)を記録。種目最初の記録
- 1702年6月9日-01:00|チェコ/オーストリア |||<死去>ムラト朝「イムラト 3世」
- 1702年6月10日-01:00|チェコ/オーストリア |||<即位>ムラト朝「イムラト 3世」(~17050715敗戦)
- 1702年6月11日 04:00|スペイン領ガージョ諸島/デンマーク |||<就任>セント・マス島・セントジョーン島総督代理「Claus Hansen」(⇒17041103総督~17060208死去)
- 1702年6月11日 06:00|アメリカ/イギリス |||<就任>イギリス領マサチューセッツ湾直轄植民地総督「ジョセフ・バドリー」(~17150204)
- 1702年6月13日-09:00|日本|東京都江東区|元禄15年5月18日|江戸深川三十三間堂通矢「全堂日矢数」で、永井友右衛門が三千本(総矢数六千九百本)を記録
- 1702年6月27日 04:00|パラグアイ/スペイン |||<就任>パラグアイ総督「アントニオ・デ・エスコバル・グティエレス」(~17050926)
- 1702年7月-05:30|インド/デンマーク |||<就任>デンマーク領東インド諸島(トランケバル)司令官「ヨルゲン・ヘルマンセン・ビョルン」(~1704年6月没)
- 1702年7月3日 03:00|ブラジル/ポルトガル |||<就任>ポルトガル領ブラジル総督「ロドリゴ・ダ・コスタ」(~17080908)
- 1702年7月3日 03:00|アルゼンチン/スペイン |||<就任>リオ・デ・ラ・プラタ総督「アロンソ・ファン・デ・バルデス・エ・インクラン」(~17080204)
- 1702年7月12日-09:00|日本|岩手県盛岡市|元禄15年6月18日|<死去>南部重信(87歳)前陸奥盛岡藩主
- 1702年7月16日 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス/フランス |||イギリスがセントクリストファー島の一部としてフランスのサンクリストフを併合
- 1702年7月16日-09:00|日本|新潟県妙高市|元禄15年6月22日|<減移封>美濃岩村藩19000石「丹羽氏音」領内混乱・家中混乱⇒丹後高柳藩1万石(⇒宝永2(1705)年閏4月7日、死去)
- 1702年7月17日-09:00|日本|福岡県柳川市|元禄15年6月23日|<死去>立花鑑虎(58歳)前筑後柳川藩主
- 1702年7月19日-01:00|デンマーク/ドイツ |||<死去>シュレースヴィヒ・ホルシュタイン公「フレデリク4世」
- 1702年7月19日-01:00|デンマーク/ドイツ |||<即位>シュレースヴィヒ・ホルシュタイン公「カール・フリードリヒ」(~1713年、デンマーク王フレデリク4世がシュレースヴィヒ公国の共同統治者の地位を剥奪しフレデリク4世が単独のシュレースヴィヒ公となった)
- 1702年7月24日-01:00|フランス |||フランスでカザールの反乱が始まる
- 1702年7月28日-09:00|日本|群馬県安中市|元禄15年7月4日|<移封>陸奥泉藩2万石「内藤政森」⇒上野安中藩2万石(⇒享保18(1733)年4月6日、隠居)
- 1702年7月28日-09:00|日本|福島県いわき市|元禄15年7月4日|<移封>上野国安中藩15000石「板倉重同」⇒陸奥泉藩15000石(⇒享保2(1717)年6月9日、死去)
- 1702年7月30日-01:00|イタリア |||ベネチアで貴族に役職を引き受ける気にさせる規定
- 1702年8月1日 00:00|イギリス |||<死去>デヴォン伯「ウィリアム・コートニー」
- 1702年8月1日 00:00|イギリス |||<就任>デヴォン伯「ウィリアム・コートニー」(~17351006死去)
- 1702年8月6日 04:00|トミニカ共和国/スペイン |||<就任>スペイン領サントミンゴ 総裁・総司令官「ファン・デル・バラコ」(~1704年)
- 1702年8月10日-08:00|フィリピン |||<死去>マクニダ・ナ・スルタン「Maulana Kaharuddin Kudai」
- 1702年8月10日-08:00|フィリピン |||<即位>マクニダ・ナ・スルタン「Bayan ul Anwar」(~1736年)
- 1702年8月11日-09:00|日本|福井県勝山市|元禄15年7月18日|<交替>越前勝山藩22000石「小笠原貞信」隠居⇒孫「小笠原信辰」が継ぐ(⇒享保6(1721)年4月25日、隠居)

1710迄 (1555件)

- 1702年8月19日 00:00|イギリス| |||<死去>11代ケント伯「アンニー・グレイ」
1702年8月19日 00:00|イギリス| |||<就任>12代ケント伯「ヘンリー・グレイ」(⇒17061114ケント侯⇒17100428ケント公~17400605死去)
- 1702年8月21日-09:00|日本|愛媛県松山市|元禄15年7月28日|松山大風、松山城天守閣の鯨落ちる。潰家は侍屋敷23軒・町家20軒・百姓家2,389軒、死者は16人を出す/大洲藩領に大洪水があり、潰家1,332軒、流死2人となる
1702年8月25日-09:00|日本|愛媛県西条市|元禄15年8月3日|<死去>一柳直興(79歳)元伊予西条藩主
1702年8月29日-09:00|日本|長崎県対馬市|元禄15年8月7日|<死去>宗義真(64歳)前対馬府中藩主
1702年9月-05:00|ウズベキスタン| |||<死去>ブハラ・ハン国ハ「Subhan Quli Khan」
1702年9月2日-09:00|日本|東京都江東区|元禄15年8月11日|江戸深川三十三間堂通矢「半堂千射」で、国府田長之助(13歳)が980本(総矢数1000本)を記録
1702年9月4日-02:00|トルコ| |||<交替>オスマン帝国大宰相「アムガート・ケフ・リュリュ・ヒュセイ・パシャ」辞任⇒「タムバハン・ムスタファ・パシャ」就任(~17030124)
1702年9月12日-09:00|日本|三重県桑名市|元禄15年8月21日|<改易>伊勢長島藩1万石「松平忠充」発狂、家臣を大量処刑、4千石没収
1702年9月17日-09:00|日本| ||元禄15年8月26日|<死去>常子内親王(61歳)後水尾天皇の皇女、近衛基熙の妻
1702年9月17日-09:00|日本|大阪府大阪市中央区|元禄15年8月26日|難波五人男と呼ばれる暴れ者たち(雁金文七、庵の平兵衛、極印千右衛門、神鳴庄九郎、ほてゐの市右衛門)が道頓堀で死罪・獄門となる
1702年9月20日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ 総督・総司令官「ペドロ・ニコラス・ベネテ・デ・ルゴ」(~17041204黄熱病で死去)
1702年9月20日-09:00|日本| ||元禄15年8月29日|<元禄15年8月末の台風>(~30日)子の刻(午前0時ごろ)から辰の刻(午前8時ごろ)にかけて大風雨/筑後川をはじめ周辺の河川が氾濫/福岡藩では大風で家屋1万1135軒が倒壊、その内藩士宅641軒、博多商家174軒、郷村の民家9342軒、海浜の民家978軒/秋月藩では家屋倒壊1510軒、倒木5490株、田畑の損害1万3800石/筑前、筑後両国合計で田畑の損害29万5500石、倒木1万8300余株の大災害/備前国岡山も、旭川が氾濫して24.4kmにわたって堤防が損壊、海岸の潮除け堤防も40.5kmにわたって損壊して、田畑69.8平方kmに浸水、10平方km余は海水が浸水し、3.8平方kmは荒地となった/岡山城内にも浸水し、藩士の屋敷町では床上浸水の家が續出するなど、藩内全域で家屋倒壊1939軒、同流出30軒、橋の損壊110橋などの損害となった
1702年9月28日 00:00|イギリス| |||<死去>2代サタールント伯「ロバート・スペンサー」
1702年9月28日 00:00|イギリス| |||<就任>3代サタールント伯「チャールズ・スペンサー」(~17220419死去)
1702年9月28日-09:00|日本|鳥取県鳥取市|元禄15年閏8月7日|<加増>因幡鹿奴藩25000石「池田仲澄」+新田5000石⇒3万石(⇒元禄16(1703)年9月6日、隠居)
1702年10月1日-01:00|サマリヤ| |||<就任>サマリヤ共和国執政「ジョヴァンニ・アントニオ・ベルツィ」
1702年10月2日-05:30|イット/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領イット 総督「カエターノ・デ・メロ・イ・カストロ」(~17071028)
1702年10月9日-09:00|日本|島根県安来市|元禄15年閏8月18日|<死去>出雲広瀬藩3万石「松平近時」(44歳)⇒長男「松平近朝」が継ぐ(⇒享保13(1728)年11月15日、死去)
1702年10月12日-01:00|スペイン/イギリス| |||(英)VIGO海戦でスペイン艦隊を破る
1702年10月17日-01:00|ドイツ| |||<死去>ナッサウ・ウジゲン侯「Walrad」
1702年10月17日-01:00|ドイツ| |||<就任>ナッサウ・ウジゲン侯「William Henry」(~17180214死去)
1702年10月21日-09:00|日本|茨城県常総市|元禄15年9月1日|<加増移封>丹波亀山藩47000石「井上正岑」⇒常陸下館藩5万石(⇒28日、常陸笠間藩5万石へ移封)
1702年10月21日-09:00|日本|三重県桑名市|元禄15年9月1日|<移封>常陸下館藩2万石「増山正弥」⇒伊勢長島藩2万石(⇒宝永元(1704)年5月20日、死去)
1702年10月26日-09:00|日本|愛媛県今治市|元禄15年9月6日|<死去>伊予今治藩35000石「松平定陳」(36歳)⇒長男「松平定基」が継ぐ(⇒享保17(1732)年2月2日、隠居)
1702年10月27日-09:00|日本|愛知県刈谷市|元禄15年9月7日|<移封>上総大多喜藩16000石「阿部正春」⇒三河刈谷藩16000石(⇒宝永6(1709)年4月25日、隠居)
1702年10月27日-09:00|日本|岐阜県恵那市|元禄15年9月7日|<移封>信濃小諸藩2万石「松平乗紀」⇒美濃国岩村藩2万石(⇒享保元(1716)年12月25日、死去)
1702年10月27日-09:00|日本|京都府亀岡市|元禄15年9月7日|<移封>遠江浜松藩5万石「青山忠重」⇒丹波亀山藩5万石(⇒享保7(1722)年6月18日、隠居)
1702年10月27日-09:00|日本|千葉県夷隅郡大多喜町|元禄15年9月7日|<移封>三河刈谷藩2万石「稲垣重富」⇒上総大多喜藩25000石(⇒28日、下野烏山藩25000石へ移封)
1702年11月 00:00|ガンビア/フランス| |||フランス軍が一時的にジエムス島を奪還し、身代金を要求
1702年11月1日 00:00|イギリス| |||<死去>レスター伯「ロバート・ストニー」
1702年11月1日 00:00|イギリス| |||<就任>レスター伯「フリッパ・ストニー」(~17050724死去)
1702年11月1日-09:00|日本|静岡県浜松市|元禄15年9月12日|<加増移封>常陸笠間藩5万石「本庄資俊」⇒遠江浜松藩7万石(⇒宝永2(1705)年3月23日、第5代将軍「徳川綱吉」より松平姓を与えられ「松平資俊」と改名)
1702年11月1日-09:00|日本|長野県小諸市|元禄15年9月12日|<加増移封>越後与板藩1万石「牧野康重」⇒信濃小諸藩15000石(⇒享保7(1722)年11月28日、死去)
1702年11月5日 00:00|イギリス| |||<死去>ダービー伯「ウィリアム・リチャード・ジョージ・スタンレー」
1702年11月5日 00:00|マン島| |||<死去>マン島主「William 5世 Stanley」
1702年11月5日 00:00|イギリス| |||<就任>ダービー伯「ジェームズ・スタンレー」(~17360201死去)

1710迄 (1555件)

- 1702年11月5日 00:00|マン島| |||<就任>マン島主「James2世 Stanley」(~17360201死去)
- 1702年11月17日-09:00|日本|茨城県笠間市|元禄15年9月28日|<移封>常陸下館藩5万石「井上正岑」⇒常陸笠間藩5万石(⇒享保3(1718)年、1万石加増され6万石)
- 1702年11月17日-09:00|日本|栃木県那須烏山市|元禄15年9月28日|<移封>上総大多喜藩25000石「稲垣重富」⇒下野烏山藩25000石(⇒宝永元(1704)年、5000石加増し3万石)
- 1702年11月26日-05:30|スリ兰卡/オランダ| |||<死去>オランダ領セイロン総督「ケリット・ト・ヒーレ」
- 1702年11月26日-05:30|スリ兰卡/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督「評議会メンバー」(~17030511)
- 1702年11月27日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>ヌエバ・イスパニヤ副王「アルバ・カキ公・クエゾナル侯爵フランシスコ・フェルナンデス・テラ・ケガ・エンリケス」(~17110115)
- 1702年11月29日-09:00|日本|岩手県盛岡市|元禄15年10月11日|<死去>陸奥盛岡藩10万石「南部行信」(61歳)⇒11月27日、三男「南部信恩」が継ぐ(⇒宝永4(1707)年12月8日、死去)
- 1702年12月-01:00|リビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国トリポリニア・ベイルベグ「ハリル・パシャ」(~17101123)
- 1702年12月-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「商工会議所上院」(~17051120)
- 1702年12月3日 00:00|マン島/イギリス| |||<就任>マン島知事「Robert Mawdesley」(~1713年)
- 1702年12月4日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サントヤゴ総督「トマス・ハンタサイド」(17040325まで代行~17110711)
- 1702年12月9日-09:00|日本|東京都文京区|元禄15年10月21日|柳沢吉保、六義園作庭
- 1702年12月12日-01:00|フランス| |||フランス「王令」を適用し、警察長官マルク・ルネ・ル・ウオリエ・ト・ホルミエ・ダルクジャンソンが「パリ」を20の街区(ポリス管轄区)に分割/警視の立場を強化し、王権のポリスのパリー円的支配をめざす/「フォーブル・サン=タンワヌ」(11, 12区、「フォーブル」は城外区)に住む職人たちは、「シャトレ裁判所」(1, 4区)の治安行政(すなわち、国王の治安行政)の統制下に置かれる
- 1702年12月14日 00:00|イギリス| |||<昇格>初代マルバウ伯「ジョン・チャーチル」⇒初代マルバウ公(~17220616死去)
- 1702年12月16日-09:00|日本| ||元禄15年10月28日|幕府が蔵米給付制度を完備する
- 1702年12月25日-01:00|モンテネグロ| |||モンテネグロで蜂起による事実上の独立
- 1702年12月26日-02:00|ウクライナ| |||<即位>クリミア汗国ハーン「Selim1世 Geray」(4期目~17041222死去)
- 1702年12月26日 00:00|イギリス| |||<死去>3代マルクス・フィールド伯「フィットン・シエラード」断絶
- 1703年-08:00|インドネシア| |||<死去>マタラム王国スルタン「Amangkurat2世」
- 1703年-08:00|マレーシア| |||<就任>ナニグ統治者(オランガ・カヤ・セリ・ラジャ・マラ)「ダト・シユアラ・マカット」(?)
- 1703年-08:00|インドネシア| |||<即位>アチ王国スルタン「Jamal ul Alam Badrul Munir」(~1726年)
- 1703年-08:00|インドネシア| |||<即位>チルパン・ガマン君主「Sultan Anom2世」(~1706年)
- 1703年-08:00|インドネシア| |||<即位>マタラム君主「Amangkurat3世」(~1708年~1733年死去)
- 1703年-08:00|フィリピン| |||タガログ語のキリスト受難詩をカスバル・アキノが出版
- 1703年-07:00|タイ| |||<即位>アユタヤ王朝第32代国王サンハット8世シリエンタラー・タイボ・テイ(~1708年)
- 1703年-07:00|カンボジア| |||<即位>カンボジア王国国王「チェッタ4世」(4回目~1706年)
- 1703年-06:00|ハンガリー/オーストリア| |||<就任>ハンガリー支配者(⇒1716年、ナワグジムの称号)「ムルシト・クリ・ジャファル・カーン」(~17270630没)
- 1703年-05:30|インド| |||<就任>アークト国支配者「ダウト・カーン・パニ」(~1710年)
- 1703年-05:30|インド| |||<就任>シルムル国ラジャ「ハリ・ブラシュ」(~1709年没)
- 1703年-05:30|インド| |||<就任>ジャーンシラ国ワシラ「アマバト・ヤクート・カーン2世」(~1707年)
- 1703年-05:30|インド| |||<就任>ジャムム-国ラジャ「トルブ・テウ」(~1725年没)
- 1703年-05:30|インド| |||<就任>タラプール国統治者(テ・シムカ)「ホウ・アジ・ラオ」(~1704年没)
- 1703年-05:30|インド| |||<就任>パグナル国統治者(タクル・サヒブ)「パフ・シンジ1世ラタンジ」(~1764年没)
- 1703年-05:30|インド| |||<即位>カナク太守「ダウート・ハーン・パニ」(~1710年退位)
- 1703年-05:30|インド| |||<退位>カナク太守「スルフィカル・ハーン」
- 1703年-05:30|インド| |||サンガリ国をクルガ占領(~1719年)
- 1703年-04:00|ジョージア| |||<即位>イメレティ王「ギオルギ7世」(1回目)⇒「ギオルギ6世」(2回目~1707年)
- 1703年-04:00|ジョージア| |||<即位>カヘティ王「エレク1世」(~5月)
- 1703年-04:00|ジョージア| |||<即位>カトリ摂政「レヴァン」(~1704年)
- 1703年-04:00|ジョージア| |||<復位>カトリ王「ギオルギ11世」(~17090502)
- 1703年-03:00|エチオピア| |||<就任>シェワ支配君主「セベ・スティアノス・ホシ・クレストス」(~17190306没)
- 1703年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダッド・ワリス「ユフ・パシャ」(~1704年)
- 1703年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダッド・ワリス「ソルト・アフメド・パシャ」(~同年)⇒「ベシムカ・ハル・パシャ」(1回目~1705年)
- 1703年-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレppo・ワリス(総督)「Corlulu Ali Pasha」(~同年)⇒「Cerkes Mehmed Pasha」(2期目~1704年)
- 1703年-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Osman Pasha Arnavud」(~同年)⇒「Arslan Muhammad Pasha ibn al-Mataraji」(2期目~同年)⇒「Mustafa Pasha」(~1704年)
- 1703年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>モザンビーク、ソファラ、リオス・テ・クアマ、モノモタパ総司令官「シヨアン・フェルナンデス・テ・アルメイダ」(~1706年)
- 1703年-02:00|キプロス/トルコ| |||キプロスはオスマン帝国大宰相の領地(~1745年)
- 1703年-01:00|ベナン| |||<就任>サグィ・フェタ国統治者「アイン」(~1708年)
- 1703年-01:00|ベルギー-フランス| |||ベルギー-をフランスが占領(~1706年)
- 1703年 00:00|モリタニア| |||<就任>トラルザ連邦エミール「アリ・サントウラ」(~1727年没)

1710迄 (1555件)

- 1703年 01:00|アリス諸島/ポルトガル| |||<死去>グランド・サ・島トリア長官「Pedro Sanches Farinha e Baena」
- 1703年 03:00|ブラジル/スペイン| |||ブエノスアイレスのスペイン軍、サラメントを奪取
- 1703年 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督「Sir Bevil Granville」(~1706年)
- 1703年 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス| |||<就任>ネイビス副総督「ジョン・ジョンソン」(~1706年)
- 1703年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル、サン・ビセンテ州暫定市長兼副司令官「ファン・アントニオ・リス・デ・ブスタマンテ」(~1706年)
- 1703年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領テキサス植民地総督「マティアス・デ・アギレ」(~1705年)
- 1703年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督「テ・イゴ・デ・バルカス」(~1704年)
- 1703年 06:00|カナダ/フランス| |||<就任>ヌーヴェル・フランス総督フィリップ・ド・リコノーヴォ・ラユ(~1725年)
- 1703年1月-04:00|ロシア| |||ロシアで最初の新聞「エドモスチ」が刊
- 1703年1月1日 00:00|イギリス| |||<就任>初代コモロティ伯「ジョージ・マッケンジー」(~17140817死去)
- 1703年1月11日-09:00|日本|栃木県大田原市|元禄15年11月24日|<死去>下野大田原藩11400石「大田原清信」(22歳)⇒翌年2月5日、従弟「大田原扶清」が継ぐ(⇒延享2(1745)年6月5日、死去)
- 1703年1月13日-09:00|日本| ||元禄15年11月26日|幕府が御家人らに博奕禁止令を出す
- 1703年1月14日-01:00|イタリヤ| |||イタリヤ中部で地震(M6.7)ノルチャやラクイラで死者9761
- 1703年1月15日-09:00|日本|大阪府堺市|元禄15年11月28日|幕府、堺奉行を再置し、大坂町奉行を2人に戻す
- 1703年1月17日-05:00|モルティヴ| |||<就任>モルティヴ 摂政「イマート・アッティーン2世ムハンマド・アルムザファル」(~12.20)
- 1703年1月18日-09:00|日本| ||元禄15年12月2日|幕府が煙草栽培の半減令を出し、残り耕地に穀類の栽培を命じる
- 1703年1月24日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ラミ・ムフド・ハシヤ」(~8.22)
- 1703年1月26日-09:00|日本|福井県坂井市|元禄15年12月10日|<死去>越前丸岡藩5万石「有馬清純」(59歳)⇒翌年2月5日、嫡男「有馬寿純」が継ぐ(⇒享保18(1733)年4月1日、隠居)
- 1703年1月30日-09:00|日本|東京都墨田区|元禄15年12月14日|<赤穂事件>播州赤穂大石以下47人(四十七士)、本所松坂町の吉良上野介邸を襲撃、15日未明、上野介を討ち取る(赤穂浪士討ち入り)
- 1703年2月-07:00|タイ| |||<死去>アユタヤ王朝第31代国王「ヘートラーチャー(マハ・ブルット)」
- 1703年2月-07:00|タイ| |||<即位>アユタヤ王朝第32代国王「サンハット8世スリエントラーテホーデー」(~1709.5、死去)
- 1703年2月4日-09:00|日本| ||元禄15年12月19日|<完成>「元禄国絵図」
- 1703年2月6日-09:00|日本|福島県福島市|元禄15年12月21日|<移封>信濃坂本藩3万石「板倉重寛」⇒陸奥福島藩3万石(⇒享保2(1717)年8月3日、隠居)
- 1703年2月10日-09:00|日本|京都府京都市上京区|元禄15年12月25日|京都松屋町丸太町から出火、296軒焼ける
- 1703年2月11日-09:00|日本|東京都台東区|元禄15年12月26日|江戸浅草本願寺から出火/本所猿江まで焼ける
- 1703年2月16日-09:00|日本|茨城県結城市|元禄16年|<加増>下総結城藩13000石「水野勝長」+5000石⇒18000石(⇒同年12月22日、病死)
- 1703年2月16日-08:00|中国| ||清・康熙42年|<就任>チベット摂政「ガワン・リンチェン」(~1706年)
- 1703年2月16日-08:00|中国| ||清・康熙42年|<即位>(チベット)ゲシハン王「ラサン」(~17171202死去)
- 1703年2月24日-09:00|日本|茨城県筑西市|元禄16年1月9日|<移封>武蔵国内1万石「黒田直邦」⇒常陸下館藩15000石(⇒宝永4(1707)年1月9日、5000石加増され2万石)
- 1703年2月26日-09:00|日本|群馬県沼田市|元禄16年1月11日|<加増移封>下総船戸藩15000石「本多正永」⇒上野沼田藩2万石(⇒宝永元(1704)年9月27日、1万石加増され3万石)
- 1703年3月 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領サウスカロライナ植民地総督「サニエル・ジョンソン」(~17091126)
- 1703年3月1日-09:00|日本|京都府京都市|元禄16年1月14日|<就任>関白「鷹司兼熙」(~宝永4年11月27日)
- 1703年3月2日-09:00|日本|埼玉県久喜市|元禄16年1月15日|<死去>武蔵久喜藩12000石「米津政矩」(29歳)⇒弟「米津政容」が継ぐ(自領1000石が幕府に収公され11000石⇒元文4(1739)年7月27日、死去)
- 1703年3月4日 00:00|イギリス| |||<死去>15代ザラント伯「ジョージ・ゴートン」
- 1703年3月4日 00:00|イギリス| |||<就任>16代ザラント伯「ジョン・ザラント」(~17330627死去)
- 1703年3月11日-09:00|日本|熊本県人吉市|元禄16年1月24日|<死去>肥後人吉藩22165石「相良頼喬」(63歳)⇒4月、従弟「相良頼福」が継ぐ(⇒正徳2(1712)年9月16日、隠居)
- 1703年3月12日 00:00|イギリス| |||<死去>20代オックスフォード伯「オブリート・ガイ」休止
- 1703年3月14日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦:1703/3/3|<死去>イギリスの物理学者で天文学者ハート・フック/67歳(誕生16350728)/加えた力とバネの伸びの関係の「フックの法則」発見
- 1703年3月20日-09:00|日本| ||元禄16年2月4日|細川・松平・毛利・水野の四家に預けられていた赤穂浪士は各家の庭にて切腹(事実上は斬罪)
- 1703年3月22日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|元禄16年2月6日|<鹿児島元禄16年の大火「勝目殿火事」>夜、加治屋町の勝目兵右衛門(彦右衛門とも)の屋敷が放火のため火災となった/強い西風にあおられて域内の下町まで延焼/侍屋敷239か所、職人屋敷6か所、小者屋敷3か所、合計248か所、家数にして1006軒。町屋敷385か所、家数にして790軒。南林寺及び同寺の脇寺12か所、家数で51軒。門前の家90か所、家数で170軒/合計、屋敷739か所、家数2008軒が焼失/船46艘が焼け、死亡者1人の被害/放火犯は捕らえられはりつけにされた
- 1703年3月23日 00:00|イギリス| |||<就任>初代バッキンガム・ノーマンビ-公「ジョン・シェフィールド」2代マルグレイヴ伯の子(~17210224死去)ノーマンビ-侯・マルグレイヴ伯
- 1703年3月26日-09:00|日本|千葉県夷隅郡大多喜町|元禄16年2月10日|<移封>相模玉縄藩2万石「松平正久」廃藩⇒上総大多喜藩2万石(⇒享保5年5月6日(17200701)、死去)
- 1703年3月27日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「崔錫鼎」(~7.29)

1710迄 (1555件)

- 1703年3月29日-01:00|ドイツ| |||<死去>ブランデンブルク=アンスタットの辺境伯「ゲオルク・フリードリヒ2世」
1703年3月29日-01:00|ドイツ| |||<就任>ブランデンブルク=アンスタットの辺境伯「ウイヘルム・フリードリヒ」(~17230107死去)
1703年3月29日 00:00|イギリス| |||<就任>トランド公・グランビーン侯「ジョン・マナーズ」(~17110110死去)
1703年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ベルナルディーノ・レオナルディ」(「シヨウアンニ・アントニオ・ファットーリ」)
1703年4月1日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<死去>イギリス王領ジャージー-島知事「Thomas Jermyn」
1703年4月10日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ローズベリー伯「アーチボルド・プリムローズ」(~17231020死去)
1703年4月10日 03:00|サンピエール島/ミクロン島/オランダ| |||イブン・サウサンス 諸島をオランダが管理(~1715.8)
1703年4月10日 04:00|セント・マルテン/サン・マルタン/オランダ| |||オランダがサン・マルタン島全体を制御(~1715.8)
1703年4月15日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ホープトン伯「チャールズ・ホープ」(~17420226死去)
1703年4月20日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島知事「Henry Lumley」(~17221016死去)
1703年4月20日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<死去>イギリス領東西ニュージャージー-総督兼ペンシルベニア植民地総督「アントニー・ハミルトン」
1703年4月20日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ペンシルベニア植民地総督「エドワード・シップトン」(~1704年)
1703年4月27日-09:00|日本| ||元禄16年3月12日<死去>安井算知(87歳)囲碁棋士/三世名人碁所
1703年5月-04:00|ジョージア| |||<即位>カティ王「タヴァイト2世」(~1721年5月没)
1703年5月6日-01:00|オーストリア/ハンガリー| |||ハンガリーのフィレンツェ2世がハプスブルグ家に対して独立戦争宣言
1703年5月6日 00:00|イギリス| |||<死去>初代アソル侯・3代列パーティン伯「ジョン・マレー」
1703年5月6日 00:00|イギリス| |||<就任>2代アソル侯・4代列パーティン伯「ジョン・マレー」(⇒17030630初代アソル公・初代列パーティン侯・初代ストラステイ=ストラステール伯~17241111死去)
1703年5月10日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「Sir Bevil Granville」(~17060914死去)
1703年5月11日-05:30|スリランカ/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督「コルネリウス・ヨハネス・シモンシュ」(~17071122)
1703年5月12日-04:00|ロシア| |||ロシアにイタリヤが占領され併合される
1703年5月15日-01:00|フランス| |||<死去>フランスの童話作家シャルル・ペロー/75歳(誕生:16280113)/「赤頭巾」「長靴をはいた猫」「眠りの森の美女」「シンデレラ」など
1703年5月16日-09:00|日本|東京都江東区|元禄16年4月|成田山本尊不動明王が富岡八幡宮の境内で出開帳をもって成田山東京別院深川不動堂創建<真言宗智山派>
1703年5月22日-09:00|日本|大阪府大阪市|元禄16年4月7日|大坂内本町橋詰町平野屋彦右衛門の手代徳兵衛(31)と、堂島新地中町天満屋利右衛門方の茶立女はつ(19)が心中
1703年5月26日 06:00|カナダ/フランス/アメリカ| |||<死去>フランス領ヌーヴェル・フランス総督「ルイ=エクトール・カリエル」
1703年5月26日 06:00|カナダ/フランス/アメリカ| |||<就任>フランス領ヌーヴェル・フランス総督「フィリップ・ド・リコ-・ダートライユ」(~17251010死去)
1703年5月27日-04:00|ロシア| |||<設立>サクトペテルブルク市
1703年6月-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ヴァリス「アリ・パシャ」(~10月)
1703年6月4日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿「オモント 公爵ジェームズ・ハトラー」(1回目~17070624)
1703年6月5日-09:00|日本|東京都江東区|元禄16年4月21日|梶川勝蔵、12歳にて江戸深川三十三間堂で「半堂大矢数」を射る。12,275本中10,011本を通す
1703年6月11日-09:00|日本|東京都大島町|元禄16年4月27日|幕府が、赤穂浪士らの遺児に対する処分を執行し、遺児19名のうち遠縁に該当した15歳以上の遺児4人を伊豆大島に配流
1703年6月13日-09:00|日本|三重県津市|元禄16年4月29日<死去>伊勢津藩32万3千石「藤堂高久」(66歳)⇒6月10日、弟「藤堂高睦」が継ぐ(⇒宝永5(1708)年10月9日、42歳で死去)
1703年6月15日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督代行「イアン・フラス」(1回目~11.20)
1703年6月20日-09:00|日本|大阪府大阪市中央区|元禄16年5月7日<初演>近松門左衛門の人形浄瑠璃「曾根崎心中」が道頓堀にある竹本座で
1703年6月21日 05:00|コロンビア/スペイン| |||<就任>ヌエバ・グラナダ 大統領・総督・総司令官「ウァド侯爵デ・イコ・デ・コルト・ハ・ラッソ・デ・ラ・ベガ」(1回目~17100903)
1703年6月22日-09:00|日本| ||元禄16年5月9日<死去>初代露の五郎兵衛(61歳)落語家
1703年6月26日-09:00|日本|福島県いわき市|元禄16年5月13日<死去>陸奥湯長谷藩15000石「遠山政徳」(30歳)⇒養子「内藤政貞」が継ぐ(⇒享保7(1722)年4月23日、死去)
1703年6月30日 00:00|イギリス| |||<昇格>2代アソル侯・4代列パーティン伯「ジョン・マレー」⇒初代アソル公・初代列パーティン侯兼初代ストラステイ=ストラステール伯(~17241111死去)
1703年7月 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領アンティル総督「Charles-Francois de Machault de Bellemont」(~1709年死去)
1703年7月16日 00:00|イギリス| |||<死去>2代カーティガン伯「ロバート・ブルテ礼」
1703年7月16日 00:00|イギリス| |||<就任>3代カーティガン伯「ジョージ・ブルテ礼」先代の孫(~17320705死去)
1703年7月17日-02:00|トルコ| |||<エディルネ事件>エディルネでイェニチリの反乱(~8.22、スルタン「ムスタファ2世」を退位させる)
1703年7月24日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>プエルトリコ知事兼提督代理「Diego Ximenez de Villaran」(~10.12)
1703年7月26日-02:00|ルーマニア| |||<即位>モルダヴィア王「ジャンセロー・イアン・フラス」(1期目~同年)
1703年8月 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ 暫定知事「Bonaventure-Francois de Boisferme」(~1704年)
1703年8月1日-01:00|イタリア| |||<就任>シエーナ共和国トージェ「アントニオ・セバ・カリアルティ」(~17050801)

1710迄 (1555件)

- 1703年8月1日-09:00|日本|愛知県刈谷市|元禄16年6月19日|<死去>稲垣重昭(68歳)前三河刈谷藩主
- 1703年8月4日 01:00|アゾリス諸島/ホルタル| |||<就任>グランド・サ・島トナリア長官「Manuel Jose Sanches Baena Farinha」(~1708年)
- 1703年8月5日-09:00|日本|秋田県秋田市|元禄16年6月23日|<死去>出羽久保田藩205800石「佐竹義処」(67歳)⇒8月12日、三男「佐竹義格」が継ぐ(⇒正徳5(1715)年7月19日、死去)
- 1703年8月13日-09:00|日本|東京都|元禄16年7月|辻相撲、辻踊りを禁止する旨の達示
- 1703年8月22日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「カハ・ナス・アト・ハ・シャ」(~11.17)
- 1703年8月22日-02:00|トルコ| |||<即位>オスマン帝国第23代スルタン「アフメト3世」先代の弟、19代アフメト4世の子(~17301001廃位、17360701死去)
- 1703年8月22日-02:00|トルコ| |||<退位>オスマン帝国第22代スルタン「ムスタファ2世」(~17040108死去)
- 1703年8月24日-09:00|日本|東京都|元禄16年7月12日|英一蝶「吉原風俗図巻」完成
- 1703年8月26日-01:00|クワチア| |||<就任>クワチア・ダルマチアのハン代行「ザグレブ」司教マルティン・ブライコウ・イチ「ステファン・イェラツ・ブ・ジムスキ」(2度目~17040124)
- 1703年8月28日 05:00|エクトル/スペイン| |||<就任>スペイン領補総督・総司令官・大審問院長「フランシスコ・ロペス・デ・イカステイジョ・イ・アスコナ」(~1707年2月没)
- 1703年9月11日 00:00|カナデンマーク| |||<就任>デンマーク領コールト・ニコスト長官「ハトヴ・イク・マイヤー」(~17040423没)
- 1703年9月12日-01:00|ベルギー| |||<就任>ベルギー公(マレーヌ、上ケルダール(⇒1713年プロイセン)、トゥルネー、西フランドーヌ、1711年からハイネ(1716年2月までシャルルの名目上主権下))「強国会議:マルセル公爵(イギリス)ジョン・チャーチル(~1707年)/ウィリアム・カトガン(イギリス、1707~1710年)/オレイ伯爵チャールズ・ホイル(イギリス、1710年から)/リテ男爵・レンスウーテ男爵フレデリック・アドリアン(オランダ連合~1708年)/ヨハン・ファン・デン・ハーグ(オランダ連合、1708年~)」(~17180822)
- 1703年9月12日-01:00|ベルギー/オーストリア| |||リンブルクはオーストリア統治下
- 1703年9月16日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「申尙」(~17050505)
- 1703年9月24日-09:00|日本|長野県佐久市|元禄16年8月14日|<移封>武蔵赤沼藩16000石「内藤正友」⇒信濃岩村田藩16000石(⇒正徳元(1711)年8月7日、死去)
- 1703年9月25日 00:00|イギリス| |||<死去>初代アーガイル公兼キタイアローン侯・キャンベル・コウォール伯「アーチボルト・キャンベル」
- 1703年9月25日 00:00|イギリス| |||<就任>第2代アーガイル公「ジョン・キャンベル」(⇒17051126兼グリニッジ伯⇒17190427初代グリニッジ公~17431004死去、グリニッジ公廃絶)
- 1703年9月27日-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>ハ・スラ・ワリス「モハメド・ハ・シャ」(~17040314)
- 1703年9月29日-09:00|日本|愛媛県大洲市|元禄16年8月19日|大洲藩領大暴雨のため、倒家608軒
- 1703年10月-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ヴァリス「ユルク・ハサン・ハ・シャ」(2度目~1706年10月)
- 1703年10月-01:00|イタリア| |||サルデーニャ王国反仏同盟に加わる
- 1703年10月 05:00|バハマ/スペイン/フランス| |||<就任>バハマ植民地総督「フラス・モレノ・モントラゴン(スペイン司令官)/クロード・ルチエスタイ(フランス司令官)」(~17040101放棄)
- 1703年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「オノリオ・オノリ」「バルダッザレ・ティニ」
- 1703年10月1日-09:00|日本|山形県米沢市|元禄16年8月21日|<交替>出羽米沢藩15万石「上杉綱憲」病のため隠居⇒嫡男「上杉吉憲」が継ぐ(⇒享保4(1719)年、弟「勝周」に1万石を分与して米沢新田藩を立藩⇒享保7年5月1日(17220614)死去)
- 1703年10月5日-09:00|日本|宮城県仙台市|元禄16年8月25日|<交替>陸奥仙台藩62万石「伊達綱村」隠居⇒従弟「伊達吉村」が継ぐ(⇒寛保3(1743)年7月25日、隠居)
- 1703年10月12日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「トク・ラマジ・メフメト・ハ・シャ」(~17040306)
- 1703年10月12日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>プエルトリコ知事兼提督「Gaspar de Olivares + Andres Montanez」(~25日)
- 1703年10月16日-09:00|日本|熊本県宇土市|元禄16年9月6日|<交替>肥後宇土藩3万石「細川有孝」隠居⇒長男「細川有清(興生)」が継ぐ(⇒享保20(1735)年11月2日、隠居)
- 1703年10月16日-09:00|日本|鳥取県鳥取市|元禄16年9月6日|<交替>因幡鹿奴藩3万石「池田仲澄」隠居⇒次男「池田仲央」が継ぐ(⇒宝暦3(1753)年1月11日、死去)
- 1703年10月22日-01:00|ベルギー/オーストリア| |||<就任>ベルギー行政官(リンブルク+リエージュ総督)「フィリップ・ルトヴ・イヒ・ウエンツェル・ゲラーフ・シツェントルフ・ウント・タンハヴェン」(1回目~1705年)
- 1703年10月25日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>プエルトリコ知事兼提督代理「Francisco Sanchez Calderon」(~17050727)
- 1703年10月27日 06:00|グアテマラ/スペイン| |||<就任>スペイン領グアテマラ総督・総司令官・大統領「ル・オリオ・エスピノサ・デ・ロス・モンテロス」(1704年まで代行~17060830)
- 1703年10月30日-09:00|日本|愛知県犬山市|元禄16年9月20日|<死去>尾張犬山藩35000石「成瀬正親」尾張藩附家老(65歳)⇒長男「成瀬正幸」が継ぐ(⇒享保17(1732)年8月15日隠居)
- 1703年11月6日-09:00|日本|大阪府岸和田市|元禄16年9月27日|岸和田だんじり祭始まる
- 1703年11月9日-09:00|日本| ||元禄16年10月|室鴻巣「赤穂義人録」を著す
- 1703年11月12日-02:00|フィンランド/スウェーデン| |||<死去>スウェーデン王領フィンランド最高司令官「アブラハム・クロンホルト」
- 1703年11月12日-02:00|フィンランド/スウェーデン| |||<就任>スウェーデン王領フィンランド最高司令官「ゲオルク・ヨハン・メイレル」(~1707年1月)
- 1703年11月14日-09:00|日本|長崎県平戸市|元禄16年10月6日|<死去>松浦鎮信(82歳)前肥前平戸藩主
- 1703年11月17日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ダマト・ハサン・ハ・シャ」(~17040928)
- 1703年11月17日-09:00|日本| ||元禄16年10月9日|<死去>浪化(33歳)浄土真宗の僧、俳人

1710迄 (1555件)

- 1703年11月19日-09:00|日本|愛知県岡崎市|元禄16年10月11日|<死去>三河大給藩主「松平乗成」(46歳)⇒養子「乗真」が継いだ
- 1703年11月20日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「ミハイ・イオン・ラコウ・イ・タ」(1回目~17050212)
- 1703年11月25日-04:00|モリシヤ/フランス| |||<就任>モリシヤ島総督「エイトリアン・モンバール・ファン・デル・ベルグ」(~17100217放棄)
- 1703年11月25日-09:00|日本|茨城県高萩市|元禄16年10月17日|<死去>常陸松岡藩主「中山信成」(49歳)水戸藩家老⇒弟の信敏を養子に迎えて跡を継がせた
- 1703年11月26日-09:00|日本|静岡県富士宮市|元禄16年10月18日|重須本門寺御影堂再建
- 1703年11月27日-02:00|リトアニア| |||<就任>リトアニア大元帥(首相)「ニコラス・セルゲ・アヌス・ウ・イシュニョグ・エツキス」(~17040204)
- 1703年12月6日-01:00|ベルギー| |||<就任>ベルギー公(リンブルグ)「シャルル」(~17401020)
- 1703年12月15日-09:00|日本|群馬県伊勢崎市|元禄16年11月8日|<死去>上野伊勢崎藩2万石「酒井忠寛」(38歳)⇒翌年、養子「酒井忠告」が継ぐ(⇒宝暦13(1763)年6月27日、隠居)
- 1703年12月16日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミンゴ 総督「シャルル・オーゼ」(~17050213没)
- 1703年12月25日-09:00|日本|東京都港区|元禄16年11月18日|江戸四谷北伊賀町から出火/赤坂・麻布・芝に及ぶ
- 1703年12月27日 00:00|ポルトガル/イギリス| ||ユリウス暦:1703/12/16|ポルトガルとイギリスとの間でシユエン条約が成立/既に進行していたイギリスとの貿易取引を追認するだけのもの
- 1703年12月30日-07:00|日本| ||元禄16年11月23日|<元禄地震>丑の刻(午前2時ごろ)、相模灘の東方、房総半島野島崎沖を震源地とするマグニチュード7.9~8.2の大地震/特に小田原は壊滅的な被害を受け、2327人が死亡、家屋倒壊7700軒以上、寺社の倒壊307か所/箱根山中に山崩れが起こり、厚木では家の大半が崩れ59人死亡/大山では山崩れで100人が死亡/東海道の宿場は小田原から川崎まで数軒を残しほとんど全滅/江戸では江戸城の櫓の石垣や塀、大名屋敷の長屋などが多数、倒壊、破損し、本所あたりでは火災も起き被害が大きかった/甲府領内にも被害が及び83人死亡、家屋全壊211軒などで多くの山が崩れた/地震後、津波が下田から犬伏崎に至る沿岸を襲い伊豆の東岸では、下田で27人死亡、家屋倒壊・流失492軒、船舶の損壊81隻。宇佐見で380人死亡、伊東の玖須美で163人死亡、鎌倉では鶴岡八幡宮の二之鳥居まで津波が押し寄せた/房総半島の被害は大きく、安房小湊周辺で100人死亡、家屋流失570軒。御宿で20余人死亡、家屋倒壊440軒、京極氏領内の長狭及び朝夷郡で42人死亡、家屋倒壊687軒/伊豆大島では波浮池が決壊し海とつながり、岡田では56人死亡、家屋倒壊58軒、船舶流失18隻/被災地全体の被害は1万367人死亡、家屋全壊2万2424軒、同半壊991軒、同流失約6000軒、寺の全壊326か所、同半壊6か所、船舶流失1439隻など
- 1704年-08:00|インドネシア| |||<死去>マタラム君主「アマンクラット2世」
- 1704年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事代行「ハスコール・デ・メスキータ・ピメンテル」(~1705年)
- 1704年-08:00|インドネシア| |||<即位>マタラム君主「Pakubuwono1世」(~1719年)
- 1704年-08:00|インドネシア| |||「第1次ジャワ継承戦争」(~1708)アマンクラット2世の死後、その子の即位に反対した前王の弟が蜂起
- 1704年-08:00|マレーシア/ブルネイ| |||ブルネイのスルタンがマルドゥ湾東の土地をスルー国に割譲
- 1704年-08:00|ブルネイ| |||ブルネイ・スルタン「サリム・ディン」はマルドゥ湾から東の土地をスルーのスルタンへ割譲
- 1704年-06:00|ブータン| |||<就任>ブータン摂政「ウメ・ハルジヨール」(~1707年)
- 1704年-05:30|インド| |||<就任>アラカール王国ラジャ「アリ・ラジヤ・クンビ・アムサ1世」(~1720年)
- 1704年-05:30|インド| |||<就任>カンヌール国統治者(アリ・ラジヤ)「クンビ・アムサ1世アディ」(~1720年)
- 1704年-05:30|インド| |||<就任>タラプーール国統治者(テ・シムカ)「イエス・バイ・オー・サーヒブ」(~1748年)
- 1704年-05:30|インド| |||<就任>ティルガッタムコウ国ラジャ「アディ・イティヤ・ウ・アルマ」(1回目~1705年)
- 1704年-05:30|インド| |||<就任>ハランプル国統治者(ティワン)「カル・カン」(~1708年没)
- 1704年-05:00|ウズベキスタン| |||<死去>ヒヴァン国ハン「シャハ・フト・ハン」
- 1704年-05:00|ウズベキスタン| |||<就任>ヒヴァン国ハン「Sayyid `Ali Khan」(~同年死去)⇒「Musa Khan」(~1708年死去)
- 1704年-04:00|ジョージア| |||<就任>ミングリア公「カツィア1世」(~1710年没)
- 1704年-04:00|ジョージア| |||<即位>カルトリ摂政「ウ・アフタンク」(~1709年)
- 1704年-04:00|ロシア| |||ウ・アンコ・ロトはロシアに占領された
- 1704年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダッド・ワリス「ハッサン・ハ・シャ」(2回目~1723年)
- 1704年-03:00|スーダン| |||<即位>ダルフール・スルタン国スルタン「ムハンマド・ブラド」(~1707年頃)
- 1704年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Huseyin Pasha al-Farari」(~1705年)
- 1704年-02:00|ラトヴィア/ロシア| |||ラトヴィアは17040819のナルヴァ条約によりロシア軍に確保される(~1710年)
- 1704年-01:00|スペイン| |||<死去>スペイン領セウタ総督「Jose de Agullo y de Pinos」
- 1704年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メリア暫定総督「Blas de Trincheria」(~1707年)
- 1704年-01:00|オランダ| |||<就任>ベルゲン・オブ・ズーム総督代行「アブ・ラハム」(~1706年)
- 1704年-01:00|クワアア| |||<即位>ポルビツァ大公「マルコ・シノフチチ」(~1708年)
- 1704年 00:00|カナダ/イギリス| |||<就任>プロセイ・コート・ヌーヴ・コスト司令官「ヨハン・ムツ」(~1706年)
- 1704年 00:00|イギリス/ネカラガア| |||イギリスとミスキト連合軍、ヌエバ・セビリアに侵入
- 1704年 00:00|ガンビア/フランス| |||フランス軍が一時的にジェームズ島を奪還し、身代金を要求
- 1704年 00:00|シエラレオネ/フランス/イギリス| |||フランス軍艦がヨーク島にある王立アフリカ会社の城砦などを破壊
- 1704年 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス| |||<就任>イギリス植民地セントクリストファーズ 総督「ウォルター・ハミルトン」(~1706年)
- 1704年 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ 知事「Georges Robert Cloche de Mont-Saint-Remy de La Malmaison」(~17170501死去)

1710迄 (1555件)

- 1704年 04:00|ドミニカ共和国/スペイン| |||<就任>スペイン領サントミンゴ 総裁・総司令官「イグナチウス・ペレス+カ・イ・フェルナンデス・デ・ホエド」(~17061104)
- 1704年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ベネチア植民地総督「ジョン・ハウアン」(~1709年)
- 1704年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領メリーランド植民地総督「ジョン・シーモア」(~1709年)
- 1704年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督「Juan Paez Hurtado」(~1705年)
- 1704年 06:00|アメリカ| |||カライのジェームズ・ムーア知事は、フロリダ中部に侵入。帰化先住民のアラチー教化村を破壊
- 1704年 06:00|アメリカ| |||フロリダでインディアン部族間のクーク戦争が勃発
- 1704年1月1日 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>バハマ植民地総督代行「エドワード・ハーチ」(~6月、イギリスに帰国)
- 1704年1月5日 10:00|日本|東京都|元禄16年11月29日|<江戸元禄16年の大火「水戸様火事」>戌の上刻(19時ごろ)、小石川の水戸屋敷から出火、富坂上から本郷弓町へ延焼、松平伊賀守、柳原式部太夫などの屋敷もひとなめにし、谷中門前町から上野寛永寺境内の西ヶ輪坊の9軒並びに学寮を灰にして、本郷湯島天神から神田明神、湯島の聖堂にいたるまで焼失/下谷池/端から上野広小路の中程まで、昌平橋の方面、筋違橋御門内通り、神田鍋町まで、下谷から浅草橋外、鳥越あたりまでなど四方を焦土と化した/炎は墨田川大川端から両国橋を越え本所一つ目から深川霊巖寺までと、立ち並ぶ侍屋敷から町家にいたるまで灰とした/町家2万軒、武家屋敷275か所、寺社75か所が焼失/避難の途中、両国橋が焼け落ちて5~600人が、浅草橋も焼け落ち700余人が死亡した
- 1704年1月8日-02:00|トルコ| |||<死去>オスマン帝国先代(22代)スルタン「ムスタファ2世」
- 1704年1月24日-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア・ダルマチアのハン「ヤノス・パルフィ・エルジデ」(~17311005)
- 1704年1月26日-01:00|ドイツ| |||<死去>プ라우ンシュヴァイクハウアルフェンビュッテル侯「ルトルフ・アウグスト」
- 1704年1月26日-01:00|ドイツ| |||<就任>プ라우ンシュヴァイクハウアルフェンビュッテル侯「アントン・ウルリヒ」ルトルフ・アウグストの弟(~17140327死去)
- 1704年1月28日-09:00|日本|茨城県結城市|元禄16年12月22日|<死去>下総結城藩18000石「水野勝長」病死(25歳) =>弟「水野勝政」が継ぐ(=>元文元(1736)年11月18日、隠居)
- 1704年1月28日-09:00|日本|千葉県鴨川市|元禄16年12月22日|小湊誕生寺大海嘯のため再び流失
- 1704年1月31日-09:00|日本|長野県長野市|元禄16年12月25日|<高直し>信濃松代藩13万石「真田幸道」新田2千石を加え13万2千石(=>享保12(1727)年5月27日、死去)
- 1704年2月 04:00|アンティグア・バブーダ/イギリス| |||<就任>リワード・カリブー諸島総司令官・総督代行「ジョン・ジョンソン」(1回目~7.14)
- 1704年2月4日-02:00|リトアニア| |||<就任>リトアニア大元帥(首相)「マルシヨンド・ミニカス・グォウ・イウス」(~17120805)
- 1704年2月5日-09:00|日本|栃木県那須烏山市|元禄17年|<加増>下野烏山藩25000石「稲垣重富」+5000石=>3万石(=>宝永7(1710)年4月17日、死去)
- 1704年2月5日-09:00|日本|滋賀県蒲生郡日野町|元禄17年1月1日|<死去>近江仁正寺藩17000石「市橋政信」(82歳) =>2月29日、甥「市橋信直」が継ぐ(=>享保5(1720)年2月26日、死去)
- 1704年2月9日 00:00|イギリス| |||<死去>第2代バーリントン伯・第3代ヨーク伯「チャールズ・ホイル」
- 1704年2月9日 00:00|イギリス| |||<就任>第3代バーリントン伯・第4代ヨーク伯「リチャード・ホイル」(~17531203死去)
- 1704年2月9日-09:00|日本| ||元禄17年1月5日|市中に流行の富突講を賭博行為として禁じる
- 1704年2月14日-09:00|日本|京都府京都市|元禄17年1月10日|<死去>二代目大和屋甚兵衛(三代目の父、17日説)
- 1704年2月16日-02:00|リトアニア| |||<即位>リトアニア大公「アレクサンダス・ポウイラス・ホエゴ」大元帥(1回目~17051004)、対立大公「マルシヨンド・ミニカス・グォウ・イウス」(~17051004)
- 1704年2月17日-05:30|インド| |||インド、マラッタ国のラーゼガド城がムガル軍に占領される
- 1704年2月21日-09:00|日本|高知県四万十市|元禄17年1月17日|<死去>山内豊明(63歳)元土佐中村藩主、若年寄
- 1704年2月28日-01:00|フランス/イギリス/アメリカ| |||アン女王戦争開始。英仏間でふたたびアメリカ植民地をめぐる戦争。アパチ族とフランス人が組んでマチュセッツのデ・イフィールドを襲撃
- 1704年3月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンダー・ハシラン(総督)「Hacikiran Hasan Pasha」(~12月)
- 1704年3月6日-01:00|ポズナニ・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ポズナニ総督「ハチ・イブ・ラヒム・パシヤ」(~17050821)
- 1704年3月6日-09:00|日本| ||元禄17年2月|献上物や、破魔弓、菖蒲甲、束帯の雛など贅沢にならぬよう、金銀などの使用を禁ず
- 1704年3月6日-09:00|日本| ||元禄17年2月|幕府が捨て子・捨て犬・捨て馬・捨て牛を禁止する(生類憐みの令)
- 1704年3月8日 00:00|ポルトガル| |||<死去>マテウス総督「Joao da Costa de Atahide e Azevedo」
- 1704年3月16日-09:00|日本|香川県高松市|元禄17年2月11日|<交替>讃岐高松藩12万石「松平頼常」隠居=>養子「松平頼豊」が継ぐ(=>享保20(1735)年10月20日、死去)
- 1704年3月18日-09:00|日本| ||元禄17年2月13日|幕府が幕臣・寺社・山伏・農民・町人に対して俵約令を出す
- 1704年3月23日-09:00|日本|秋田県由利本荘市|元禄17年2月18日|<交替>出羽亀田藩2万石「岩城重隆」隠居=>嫡孫「岩城秀隆」が継ぐ(=>享保3(1718)年10月25日、死去)
- 1704年3月24日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿代行判事「リチャード・コックス卿/マウント・アレクサンダー伯爵ヒュー・モンゴメリー・トマス・イル」(~11.16)
- 1704年3月24日-09:00|日本|神奈川県小田原市|元禄17年2月19日|相州小田原、洪水/8人死す
- 1704年3月24日-09:00|日本|高知県高知市|元禄17年2月19日|高知紺屋町から出火、10余町300余軒焼く
- 1704年3月24日-09:00|日本|東京都中央区|元禄17年2月19日|<死去>初代・市川團十郎、市村座で役者の生島半六に刺し殺される(45歳、万治3(1660)05生)市川流荒事を始めた歌舞伎役者
- 1704年3月28日-09:00|日本|島根県松江市|元禄17年2月23日|<廃藩>出雲松江新田藩1万石「松平吉透」宗家出雲松江藩世継ぎとなり吸収
- 1704年3月29日-09:00|日本|京都府京都市|元禄17年2月24日|<死去>内藤丈草(43歳)俳人

1710迄 (1555件)

- 1704年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「オットー・オレオナルド・ツリ」「ピエトロ・フランチェーニ」
- 1704年4月5日-01:00|ポーランド| |||<死去>オレシツァ公「クリスティアン・ウルリヒ1世」
- 1704年4月5日-01:00|ポーランド| |||<就任>オレシツァ公「カール・フリートリヒ2世」(~1744年)
- 1704年4月12日-01:00|フランス| |||<死去>フランスの教会の「教皇権」からの独立(ガリカニスム)を主張した、パリ大司教で「王権神授説」を代表する思想家ジャン・バプティスト・マブレン(1627-、77歳)「聖書の言葉による政治論」の著者
- 1704年4月16日-09:00|日本| ||宝永1年3月13日|「寶永」に改元
- 1704年4月20日 00:00|ポルトガル| |||<就任>マテウス総督「Duarte Sodre Pereira」(~17121001)
- 1704年4月21日-09:00|日本|東京都台東区|宝永1年3月18日|江戸浅草竹町の渡し舟転覆/40余人水死
- 1704年4月23日 00:00|ガーナ/デンマーク| |||<就任>デンマーク領ゴールドコースト長官代行「ピーター・スベル・ラップ」(~17050505没)
- 1704年4月24日 06:00|アメリカ| |||ボストンで、アメリカ初の定期新聞「週刊ボストン・ニューズレター」が創刊される
- 1704年4月24日-09:00|日本|兵庫県姫路市|宝永1年3月21日|<死去>播磨姫路15万石「本多忠国」(39歳)⇒5月10日、三男「本多忠孝」が継ぐ(⇒28日、越後村上藩に移封)
- 1704年5月6日-09:00|日本| ||宝永1年4月3日|<死去>生島半六。市川團十郎殺害で捕縛され、獄死(不明)歌舞伎役者
- 1704年5月6日-09:00|日本|香川県高松市|宝永1年4月3日|<死去>松平頼常(53歳)前讃岐高松藩主
- 1704年5月14日-09:00|日本|奈良県奈良市|宝永1年4月11日|<奈良宝永元年の大火>午の刻(午前12時ごろ)、芝辻町南側の辻子入口東角にある小さな家から出火、三条通から北の民家や神社などの大半が類焼/東は東大寺新禅院から東水門村、西水門村、油留木、手搔通、雑司、川上あたりまで/南は油坂から高天の辻、西御門町、中筋、東向中/町、北町におよび/西は芝辻西の端から北市の中ほどまでと、新在家から南法連まで/北は北新町から東町、北御門あたりまで及んだ/半田、手搔大門前では、民家、寺社ことごとく全焼/被災数、町数45か町、家数1007軒、40人余が死亡/そのほか、奉行所屋敷長屋10軒、与力屋敷6軒(5軒とも)、寺は称名寺、教行寺、念称寺の3か所、神社11か所が類焼
- 1704年5月27日-09:00|日本|東京都江東区|宝永1年4月24日|江戸深川三十三間堂通矢「半堂大矢数」で、山村弥七郎が10,513本(総矢数11895中)を記録
- 1704年5月27日 04:00|日本| ||宝永1年4月24日|<宝永元年能代地震>午の下刻(13時ごろ)、羽後及び津軽地方にマグニチュード7の激震/羽後北部の能代の被害が大きく、地震の後、直ちに火事が起こり、炎が倒壊した家々をなめた/全戸数1250戸の内1193戸が、倒壊435戸、焼失758戸となり、町は潰滅/そのほか土蔵の倒壊435棟、同焼失758棟/寺院の倒壊4か所、同焼失7か所、58人が犠牲となる/能代北部の津軽との国境近辺の村々で被害が大きく、米代川の河口付近から八森、深浦にかけての沿岸部で山崩れが起き、現在十二湖として知られている大小無数の湖を生じ、岩館付近では最大190cm隆起/津軽弘前城の御門、蔵の壁の剥落、破損があり、弘前平野では田に地割れが生じ、用水堰に被害が出た
- 1704年5月30日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト・ケーテン侯「Emmanuel Lebrecht」
- 1704年5月30日-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト・ケーテン侯「Leopold」(~17281119死去)
- 1704年6月-02:00|ウクライナ| |||旧右岸地域(ポーランドの一部)を左岸ヘーチマン国家が占領(~1708.7)
- 1704年6月 04:00|BES諸島/イギリス| |||<就任>セント・ユースタチウス島司令官代理「Johan Heyliger」(1期目~同年)
- 1704年6月 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>バハマ植民地総督代行「トマス・ウォーカー」(~1706年放棄)
- 1704年6月 06:00|コスタリカ/スペイン| |||<就任>コスタリカ総督「デ・エスコ・デ・エレラ・カンパザール」(~17070501)
- 1704年6月2日-09:00|日本|三越伊勢丹ホールディングス|宝永1年5月|越後屋京本店が冷泉町に移転
- 1704年6月2日-09:00|日本|東京都|宝永1年5月1日|突富を禁じる
- 1704年6月4日-09:00|日本|香川県さぬき市|宝永1年5月3日|第2代高松藩主「松平頼常」を寒川郡日内山に葬り、霊芝寺を開基
- 1704年6月8日-09:00|日本|東京都|宝永1年5月7日|<死去>初代渋川伴五郎(53歳)柔術家/渋川流開祖
- 1704年6月15日-09:00|日本| ||宝永1年5月14日|<死去>5代千宗室(32歳)茶人、裏千家家家元
- 1704年6月19日-09:00|日本|東京都江東区|宝永1年5月18日|江戸深川三十三間堂通矢「半堂百射」で、井口弾七が83本(総矢数100中)を記録
- 1704年6月21日-09:00|日本|三重県桑名市|宝永1年5月20日|<死去>伊勢長島藩2万石「増山正弥」(52歳)⇒7月12日、長男「増山正任」が継ぐ(⇒寛保2(1742)年4月7日、隠居)
- 1704年6月25日-01:00|フランス| |||<即位>ブルターニュ公「ルイ・ド・フランス」(~17050413死去1歳)
- 1704年6月29日-09:00|日本|新潟県村上市|宝永1年5月28日|<移封>播磨姫路15万石「本多忠孝」⇒越後村上藩15万石(⇒宝永6(1709)年9月13日、12歳で死去)
- 1704年6月29日-09:00|日本|兵庫県姫路市|宝永1年5月28日|<移封>越後村上藩15万石「榊原政邦」⇒播磨姫路藩15万石(⇒享保11年11月14日(17261207)死去)
- 1704年6月30日-09:00|日本|島根県松江市|宝永1年5月29日|<交替>出雲松江藩18万6千石「松平綱近」隠居⇒弟「松平吉透」が継ぐ(⇒宝永2(1705)年9月6日、死去)
- 1704年7月-03:00|サウジアラビア| |||<就任>メッカ・シャリフ「アブドゥル・カリム・ブン・ムハンマド」(1度目~1705年2月)
- 1704年7月1日-05:30|インド/デンマーク| |||<就任>デンマーク領東インド諸島(トランケバル)司令官「ヨハン・ジギスムント・ハッウス」(~17161020)
- 1704年7月3日-09:00|日本|山形県米沢市|宝永1年6月2日|<死去>上杉綱憲(42歳)前出羽米沢藩主
- 1704年7月8日-02:00|ルーマニア| |||<即位>トランシルヴァニア大公「フランス2世レオポルト・ラコッチ・デ・フェルソヴァーダシ」(~17111114)
- 1704年7月14日 04:00|アンティグア・バブーバ/イギリス| |||<就任>リワード・カリビ-諸島総司令官・総督「ウィリアム卿マシューズ」(~11.4)

1710迄 (1555件)

- 1704年7月22日-09:00|日本| ||宝永1年6月21日|<死去>畠山箕山(79歳)俳人、古筆鑑定家
- 1704年7月24日-02:00|エストニア/ロシア| ||トルハットをロシア占領
- 1704年7月24日-01:00|ジブラルタル/スペイン| ||<就任>イギリス領ジブラルタル総督「サー・ジョージ・ルーク軍司令官」(~8.4)
- 1704年8月1日-01:00|ジブラルタル/スペイン/イギリス| ||イギリス軍と連合軍がジブラルタル上陸
- 1704年8月1日-09:00|日本|東京都|宝永1年7月|江戸大川筋で、大からくり興行や花火を揚げる事が禁止
- 1704年8月1日-09:00|日本|東京都|宝永1年7月|幕府が女巡礼・念仏講の夜間群行を禁じる
- 1704年8月3日 04:00|日本|東京都|宝永1年7月3日|<宝永元年江戸川決壊、江戸東部、下総洪水>(~4日)猿股の堤防が崩壊し、下流部一帯、東は行徳、西は浅草までが床上2mに及ぶ大洪水になり多くの人が死亡
- 1704年8月4日-01:00|ジブラルタル/イギリス| ||<就任>イギリス領ジブラルタル知事「Prince George of Hesse-Darmstadt」(~17050805死去)
- 1704年8月4日-01:00|ジブラルタル/スペイン| ||<就任>ジブラルタル総督「ゲオルク・フォン・ヘッセン＝ダルムシュタット陸軍元帥」(~8.6)
- 1704年8月4日-01:00|ジブラルタル/スペイン/イギリス| ||イギリスがスペインからジブラルタルを奪う
- 1704年8月5日 04:00|日本|広島県広島市|宝永1年7月5日|暴風雨・洪水、広島領内流失全壊家屋55軒、死者12人
- 1704年8月6日-01:00|ジブラルタル/スペイン| ||<就任>イギリス領ジブラルタル総督「ヘンリー・ニュージエト陸軍少将」(~11月)
- 1704年8月6日-09:00|日本| ||宝永1年7月6日|幕府閉門・逼塞・遠慮・預・差控の制を定む
- 1704年8月13日-01:00|トイッ/フランス/イギリス/オーストリア| ||<ブレンハイムの戦い>「ハインリッヒ選帝侯国・フランス連合軍」と「イングランド・オーストリア(神聖ローマ帝国)同盟軍」が、トイッのトナ川流域のブレンハイム(フレンヒム)で争い、「イングランド・オーストリア同盟軍」が勝利
- 1704年8月15日-08:00|インドネシア/オランダ| ||<就任>オランダ領東インド総督「Joan van Hoorn」(~17091030)
- 1704年9月-08:00|マレーシア| ||<即位>ハチ王国国王「ラジャ・マス・チャム」(~1707年)
- 1704年9月1日-10:00|ガラム/北マリアナ諸島/スペイン| ||<就任>マリアナ諸島暫定知事「Antonio Villamor y Vadillo」(~1706年)
- 1704年9月16日 00:00|モロッコ| ||<即位>モロッコ対立スルタン「アル＝アラム・イブン・イスマイル・アルサミン」(~17050707)
- 1704年9月17日-09:00|日本|東京都|宝永1年8月19日|<死去>荻野澤之丞(初名・左馬之丞)(49歳)歌舞伎役者
- 1704年9月21日-09:00|日本|愛媛県今治市|宝永1年8月23日|今治藩領暴風雨のため、潰家344軒あり
- 1704年9月21日-09:00|日本|愛媛県松山市|宝永1年8月23日|松山藩領内大風雨、潰家1,200軒となる
- 1704年9月28日-02:00|トルコ| ||<就任>オスマン帝国大宰相「カライコス・ハチヤーム・ハフマド・パシャ」(~12.25)
- 1704年9月29日-09:00|日本|東京都千代田区|宝永1年9月|神田明神が再建される
- 1704年10月1日-01:00|サマリヤ| ||<就任>サマリヤ共和国執政「ジャンバットイスタ・トシニ」トマリ・チェッコリ
- 1704年10月7日-02:00|エジプト/トルコ| ||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ラミ・マフムド・ハシヤ」(~17060831、死去)
- 1704年10月7日-01:00|ベルギー| ||<就任>ベルギー総督「クアフルスト・マクシリアン2世フォン・バイエルン」(2回目~1706年7月)
- 1704年10月8日-09:00|日本|京都府京都市右京区|宝永1年9月10日|<死去>向井去来(54歳)俳諧師
- 1704年10月14日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|宝永1年9月16日|<死去>薩摩藩2万8700石「島津綱貴」(55歳)⇒長男「島津吉貴」が継ぐ(⇒享保6(1721)年6月、隠居)
- 1704年10月15日-09:00|日本|埼玉県行田市|宝永1年9月17日|<死去>武蔵忍藩10万石(老中)「阿部正武」(56歳)⇒10月29日、家督を嫡男「阿部正喬」が継ぐ(⇒寛延元(1748)年7月29日、隠居)
- 1704年10月19日-09:00|日本|東京都千代田区|宝永1年9月21日|<就任>老中「本多正永」(~12月5日)
- 1704年10月25日-09:00|日本|群馬県沼田市|宝永1年9月27日|<加増>上野沼田藩2万石「本多正永」+上野国・河内国内1万石⇒3万石(⇒宝永2(1705)年3月18日、1万石加増され4万石)
- 1704年11月 04:00|BES諸島/イギリス| ||<就任>セント・ユースタティウス島司令官「Jan Simonsen Donker」(2期目~17090715)
- 1704年11月4日 00:00|ポルトガル/イギリス| ||ユリウス暦:1704/10/24|<死去>イギリスの哲学者で政治思想家ジョン・ロック/72歳(誕生16320808)
- 1704年11月4日 04:00|アンティグア・バブーダ/イギリス| ||<就任>リワード・カリブー諸島総司令官・総督代行「ジョン・ジョンソン」(2回目~17060714)
- 1704年11月10日-09:00|日本|大阪府|宝永1年10月13日|<竣工>大和川付け替え
- 1704年11月14日 00:00|カリヤ諸島| ||<死去>フェルテベントウ島主「Fernando Mathias Arias de Saavedra」
- 1704年11月14日 00:00|カリヤ諸島| ||<就任>フェルテベントウ島主「Francisco Alejandro Bautista Benitez de Lugo Interian del Castillo」(~17060221死去)
- 1704年11月16日-05:30|インド| ||<死去>マイソール国マハラジャ「チッカ・デ・ハラジャ・ウオテヤール」
- 1704年11月16日-05:30|インド| ||<即位>マイソール国マハラジャ「ナラサジャ2世ウットヤール」(~17140218没)、摂政「カラル」(~17140218)
- 1704年11月17日 04:30|ベネチア/スペイン| ||<就任>スペイン領ベネチア総督「Felipe Rodriguez de la Madriz + Francisco Alonso Gil y Lovera de Otanez」(~17051121)
- 1704年11月25日-09:00|日本|福井県福井市|宝永1年10月28日|<改名>越前福井藩25万石「松平昌親」⇒「松平吉品」(⇒宝永7(1710)年7月5日、隠居)
- 1704年11月26日-09:00|日本|埼玉県|宝永1年10月29日|<廃藩>武蔵国内1万石「阿部正喬」武蔵忍藩相続により幕府に収公
- 1704年12月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| ||<就任>アレクサンドリア(総督)「Abaza Suleyman Pasha」(~1705年)
- 1704年12月-02:00|エストニア| ||<就任>エストニア総督「ゲオルグ・アントン・フォン・シュリッペンハッハ」(~17060706)
- 1704年12月4日 05:00|キューバ/スペイン| ||<就任>スペイン植民地キューバ総督・総司令官代行「ニコラ・フリノ・デ・ウアンテウアル」(~17060513)
- 1704年12月6日-09:00|日本|大阪府河内長野市|宝永1年11月10日|<死去>河内西代藩1万石「本多忠恒」(49歳)⇒次

1710迄 (1555件)

- 男「本多忠統」が継ぐ(⇒享保17(1732)年4月1日、伊勢神戸藩1万石に移封)
- 1704年12月20日-05:00|モルデイヴ | |||即位>モルデイヴ・スルタン「イマート・アッディン2世ムハンマド・アルムザファル」(~17211021)
- 1704年12月21日-09:00|日本|東京都文京区|宝永1年11月25日|湯島孔子廟再建
- 1704年12月22日-02:00|ウクライナ | |||<死去>クリミア・ハン国ハン「セリム1世ギレイ」
- 1704年12月22日-02:00|ウクライナ | |||<即位>クリミア・ハン国ハン「ガースィ3世ギレイ」(1705.1まで代理~1708年死去)
- 1704年12月24日-01:00|ジブラルタル/スペイン | |||<就任>イギリス領ジブラルタル総督「ジョン・シリプトン陸軍少将」(~17071224)
- 1704年12月25日-02:00|トルコ | |||<就任>オスマン帝国大宰相「テヘルタル/バルタキ・マフムド・パシャ」(1期目~17060503)
- 1704年12月27日-09:00|日本|山梨県都留市|宝永1年12月1日|<加増>甲斐谷村藩4万石「秋元喬朝」+1万石⇒5万石(⇒正徳元(1711)年12月1日、1万石加増し6万石)
- 1704年12月29日-09:00|日本|静岡県掛川市|宝永1年12月3日|<再興>遠江国掛川藩2万石「井伊直矩」(⇒翌年1月16日、越後与板藩2万石に移)
- 1704年12月30日 00:00|イギリス | |||<死去>12代エリ伯「ジョン・ヘイ」
- 1704年12月30日 00:00|イギリス | |||<就任>13代エリ伯「チャールズ・ヘイ」(~17171013死去)
- 1704年12月31日-09:00|日本|東京都千代田区|宝永1年12月5日|<解任>老中「本多正永」
- 1704年12月31日-09:00|日本|山梨県甲府市|宝永1年12月5日|<廃藩>甲斐甲府藩35万石「徳川綱豊」徳川綱吉の後継者として江戸城へ入る/天領に吸収
- 1705年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル | |||<就任>ティモール知事代行「マヌエル・デ・サント・アントニオ」(~同年)⇒暫定知事「ロケレンソ・ロペス」(~1706年)
- 1705年-08:00|インドネシア | |||<即位>スマタラ 君主「Suderna」(~1707年)
- 1705年-08:00|インドネシア | |||<即位>ティムール・スルタン「Abdul Falali Mansur」(~1708年)
- 1705年-05:30|インド | |||<就任>サト国統治者(ヲ)「フリテイジン・マフジン」(~1735年)
- 1705年-05:30|インド | |||<就任>シヒ国統治者(ヲ)「ウメイト・シン1世」(~1749年没)
- 1705年-05:30|インド | |||<就任>ナガール国ラジャ「フブ・シン」(~1761年)
- 1705年-05:30|インド | |||<就任>ラジピラ国統治者(ラジャ・マハラ)「モハベリサル1世」(~1715年頃没)
- 1705年-05:30|インド | |||マラタ国勢がムガル朝のゲジャラトなどを攻撃
- 1705年-04:00|ロシア | |||ロシアでアストラハンの暴動がおこる
- 1705年-03:00|ジブチ | |||<即位>ダジュラ・スルタン国スルタン「ハマト・ベシム・ムサ」⇒「ムハンマド・ベシム・ティニ」
- 1705年-03:00|ジブチ | |||<即位>ラハイト・スルタン「ティニ・ベシム・アダム・アハマト」
- 1705年-02:00|シリア・アラブ/トルコ | |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Mehmed Pasha Kurd Bayram-zade」(2期目~1706年)
- 1705年-02:00|ロシア | |||ロシア首都ペリニウスがロシアに占領される(~1706年3月)
- 1705年-01:00|スペイン | |||<就任>スペイン領セウタ総督「Juan Francisco Manrique de Arana e Iraola」(1期目~1709年)
- 1705年-01:00|スペイン | |||<就任>ハルセエ伯「カラス3世」神聖ローマ皇帝レオポルト1世とエオノーレ・マクダレーネ・フォン・プファルツノイフェルクの息子(~1714年退任~17401020死去55歳)
- 1705年-01:00|オーストリア | |||<即位>オーストリア大公「ヨーゼフ1世」(~1711年)
- 1705年-01:00|オランダ/インドネシア | |||VOCは王弟を支持し首都ガタスラに入城させ、バクワウノ1世(位1705-1719)として即位させた/直後、オランダ東インド会社にマドゥラ島の東半分を割譲
- 1705年 04:00|BES諸島/オランダ | |||<就任>サハ島副司令官「Jacob Simmons」(~1720年)
- 1705年 04:00|BES諸島/オランダ | |||<就任>ボネール司令官「Pieter Born」(1期目~1712年)
- 1705年 06:00|ロシア/スペイン | |||<就任>コマクア県総督「ケレリア・テ・サリアス・ウアラ」(~1709年)
- 1705年 06:00|アメリカ/スペイン | |||<就任>スペイン領テキサス植民地総督「マルティン・デ・アルコン」(~1708年)
- 1705年 06:00|ニカラガ/スペイン | |||<就任>ニカラガ総督「ミゲル・デ・カマルゴ」(~1706年)
- 1705年1月-02:00|シリア・アラブ/トルコ | |||<就任>アレクサ・ワリス(総督)「Silahdar Sul Pasha」(~同年)⇒「Damad Ibrahim Pasha」(~1707年)
- 1705年1月4日-09:00|日本|東京都千代田区|宝永1年12月9日|<改名>將軍養嗣子「徳川綱豊」⇒「徳川家宣」
- 1705年1月16日-09:00|日本|山梨県甲府市|宝永1年12月21日|<加増移封>武蔵国川越藩12000石「柳沢吉保」⇒甲斐甲府藩15万1200石(⇒宝永6(1709)年5月28日、隠居)
- 1705年1月20日-09:00|日本|群馬県高崎市|宝永1年12月25日|<加増>上野高崎藩62000石「松平輝貞」+1万石⇒72000石(⇒宝永7(1710)年7月、村上藩に移封)
- 1705年1月20日-09:00|日本|埼玉県川越市|宝永1年12月25日|<加増移封>甲斐谷村藩18000石「秋元喬知」⇒武蔵川越5万石(⇒正徳元(1711)年12月1日、1万石加増され6万石)
- 1705年1月25日-09:00|日本|愛知県豊田市|宝永2年|<加増>三河伊保藩1万石「本多忠晴」+5000石⇒15000石(⇒宝永7(1710)年9月、遠江国相良藩15000石へ移封)
- 1705年1月25日-08:00|中国 | |||清・康熙44年|ホシュトのラン・ハンがサンギェー・ギヤムツを殺してチベットを支配
- 1705年1月25日-09:00|日本|栃木県足利市|宝永2年1月|<加増立藩>下野足利藩11000石「戸田忠時」(⇒宝永5(1708)年6月29日、隠居)
- 1705年1月26日-09:00|日本|静岡県藤枝市|宝永2年1月2日|<死去>駿河田中藩5万石「太田資直」(48歳)⇒五男「太田資晴」が継ぐ(⇒同年4月22日、陸奥棚倉藩に移封)
- 1705年2月-05:30|インド | |||<就任>ティルウイタムコトウ国ラジャ「ウニケララ・ヴァルマ3世」(~1707年12月没)
- 1705年2月9日-09:00|日本|新潟県長岡市|宝永2年1月16日|<移封>遠江国掛川藩2万石「井伊直矩」⇒越後与板藩2万石(⇒享保16(1731)年2月27日、隠居)
- 1705年2月12日-02:00|ルーマニア | |||<就任>モルダヴィア総督代行「ルポ・ボクダ」(~5.21)

1710迄 (1555件)

- 1705年2月20日-09:00|日本|島根県浜田市|宝永2年1月27日|<交替>石見浜田藩5万石「松平康直」隠居⇒長男「松平康貞」が継ぐ(⇒宝永6(1709)年9月18日、隠居)
- 1705年2月22日 00:00|イギリス| |||<死去>ハンティントン伯「ジョージ・ヘイスティングス」
- 1705年2月22日 00:00|イギリス| |||<就任>ハンティントン伯「テオフィロス・ヘイスティングス」(~17461013死去)
- 1705年3月-03:00|サウジアラビア| |||<就任>メッカ・シャリフ「サイード2世・イブン・サード」(第4治世~11月)
- 1705年3月 03:00|ウルグアイ/スペイン| |||ウラメントの新植民地をスペインが支配、放棄される(~17161025)(リオン・ラ・プラタに従属)
- 1705年3月11日 00:00|イギリス| |||<死去>第3代ウイムズ女伯「マーガレット・ウイムズ」
- 1705年3月11日 00:00|イギリス| |||<就任>第4代ウイムズ伯「デヴィッド・ウイムズ」(~17200315死去)
- 1705年3月24日-09:00|日本|岐阜県岐阜市|宝永2年2月29日|<死去>美濃国加納藩6万石「松平光永」(63歳)⇒4月15日、長男「松平光熙」が継ぐ(⇒宝永8(1711)年2月15日、山城淀藩6万石に移封)
- 1705年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャン・ジャコモ・アンジェリ」「ロレンツォ・ジヤンギ」
- 1705年4月11日-09:00|日本|群馬県沼田市|宝永2年3月18日|<加増>上野沼田藩3万石「本多正永」+上野国・河内国1万石⇒4万石(⇒正徳元(1711)年5月19日、67歳で死去)
- 1705年4月13日-01:00|フランス| |||<死去>ブルターニュ公「ルイ・ド・フランス」1歳
- 1705年4月14日 00:00|イギリス| |||<昇格>初代モンタギュー伯「ラルフ・モンタギュー」⇒初代モンタギュー公兼初代モンザーマ侯(~17090309死去)
- 1705年4月16日-09:00|日本|岐阜県岐阜市|宝永2年3月23日|<加増立藩>美濃岩滝藩1万石「本庄道章」(⇒宝永6(1709)年8月、美濃高富藩1万石へ藩庁移転)
- 1705年4月16日-09:00|日本|静岡県浜松市|宝永2年3月23日|<改名>遠江浜松藩7万石「本庄資俊」第5代将軍「徳川綱吉」より松平姓を与えられる⇒「松平資俊」(⇒享保8(1723)年7月14日、死去)
- 1705年4月23日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・正和26年4月|<譲位>後黎朝(大越)後期第11代皇帝「熙宗」
- 1705年4月23日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・正和26年4月|<即位>後黎朝(大越)後期第12代皇帝「裕宗」(~17290518譲位)永盛と改元(~1719年)
- 1705年4月25日-09:00|日本| ||宝永2年4月3日|<死去>住吉具慶(75歳)絵師
- 1705年5月5日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「崔錫鼎」(~17100424)
- 1705年5月5日-01:00|ドイツ/オーストリア/ハンガリー/チェコ/イタリア/クロアチア/ポーランド| |||<死去>神聖ローマ皇帝・イタリア王・ボヘミア王・クロアチア王・オーストリア大公・チェン公・チル伯「レオポルト1世」兼ハンガリー王国国王「レオポルト1世」64歳(誕生16400609)
- 1705年5月5日-01:00|ドイツ/オーストリア/チェコ/イタリア/クロアチア/ハンガリー/ポーランド| |||<即位>神聖ローマ皇帝・イタリア王・ボヘミア王・ハンガリー王・クロアチア王・オーストリア＝シチリア＝マルク大公・チェン公「ヨーゼフ1世」レオポルト1世の長男(~17110417死去32歳)
- 1705年5月5日 00:00|カナダ/デンマーク| |||<就任>デンマーク領グリーンランド＝コスト長官代行「ペーター・ベネディクト・ビヤーク」(~25日)
- 1705年5月14日-09:00|日本|京都府南丹市|宝永2年4月22日|<交替>丹波園部藩25000石「小出英利」⇒次男「小出英貞」が継ぐ(弟「小出英治」に1000石を分与し24000石⇒延享元(1744)年11月15日、61歳で死去)
- 1705年5月14日-09:00|日本|静岡県藤枝市|宝永2年4月22日|<移封>陸奥国棚倉藩5万石「内藤弑信」⇒駿河田中藩5万石(⇒享保5(1720)年9月19日、越後村上藩5万石に移封)
- 1705年5月14日-09:00|日本|福島県東白川郡棚倉町|宝永2年4月22日|<移封>駿河田中藩5万石「太田資晴」⇒陸奥棚倉藩5万石(⇒享保13(1728)年9月22日、上野館林藩に移封)
- 1705年5月20日-09:00|日本|東京都江東区|宝永2年4月28日|江戸深川三十三間堂通矢、「半堂日矢数」で小園吉之丞(10歳)が4,606本(総矢数8,007本中)を記録
- 1705年5月21日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「アントイコス・カンテミル」(2回目~17070731)
- 1705年5月21日-09:00|日本|佐賀県鹿島市|宝永2年4月29日|<死去>肥前鹿島藩25000石「鍋島直條」(51歳)⇒五男「鍋島直堅」が継ぐ(⇒享保12(1727)年12月4日、死去)
- 1705年5月23日-09:00|日本| ||宝永2年閏4月|幕府が金・銀箔座を設け、金・銀箔のほか上澄み粉・梨地金具・下金の売買を箔座に限定
- 1705年5月23日-09:00|日本|東京都港区|宝永2年閏4月1日|増上寺焼失
- 1705年5月25日 00:00|カナダ/デンマーク| |||<就任>デンマーク領グリーンランド＝コスト長官「エリック・オルセン・ライカド」(2回目~17110817)
- 1705年5月29日-09:00|日本|新潟県妙高市|宝永2年閏4月7日|<死去>越後高柳藩1万石「丹羽氏音」(28歳)⇒甥「丹羽薫氏」が嗣ぐ(⇒元文4(1739)年8月15日、美作・河内国内1万石へ移封)
- 1705年6月 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ニューメキシコ仮総督「Francisco Cuervo y Valdes」(~1707.8)
- 1705年6月1日-09:00|日本|奈良県奈良市|宝永2年閏4月10日|奈良東大寺大仏殿が再建
- 1705年6月3日-01:00|オーストリア| |||<就任>オーストリア首相「ヨハン・フリードリヒ・グラーフ・フォン・ザイレル」(~17150108没)
- 1705年6月6日-09:00|日本|愛媛県西条市|宝永2年閏4月15日|<交替>伊予小松藩1万石「一柳直治」隠居⇒長男「一柳頼徳」が継ぐ(⇒享保9(1724)年10月4日、死去)
- 1705年6月11日-05:30|インド/オランダ| |||<就任>オランダ領インド総督「ヨハネス・ファン・ステーンボルト」(~17101108)
- 1705年6月27日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿代行判事「準男爵リチャード・コックス卿/ゴウランのカツ男爵ジョン・カツ(17070125まで)/アーマ大司教カキッス・マッシュ(17070215から)」(~17070624)
- 1705年7月8日-09:00|日本|和歌山県和歌山市|宝永2年5月18日|<死去>紀伊和歌山藩55万5千石「徳川綱教」(41歳)⇒6月18日、弟「徳川頼職」が継ぐ(⇒9月8日、26歳で病死)
- 1705年7月11日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国総合官房秘書官「Pedro Fernandez del Campo y Angulo」(~17140415)
- 1705年7月11日-09:00|日本|福井県越前市|宝永2年5月21日|<廃藩>越前高森藩3万石「徳川頼職」三代紀伊綱教の

1710迄 (1555件)

養嗣子となり、天領に吸収

- 1705年7月12日-09:00|日本|静岡県藤枝市|宝永2年5月18日|<死去>酒井忠能(78歳)元駿河田中藩主
- 1705年7月15日-01:00|チュニジア| ||<即位>サイン朝ヘイ「サイン1世」(~17350907廃位~17400313死去71歳)
- 1705年7月15日-01:00|チュニジア| ||<廃位>ムラト朝ヘイ「イブラヒム・アッシュ＝シャリフ」敗戦滅亡
- 1705年7月22日-09:00|日本| ||宝永2年6月2日|<死去>織田貞置(89歳)高家旗本、茶人
- 1705年7月23日-09:00|日本| ||宝永2年6月3日|幕府が牛・馬に重荷を背負わせないように命じる(生類憐みの令)
- 1705年7月24日 00:00|イギリス| ||<死去>レスター伯「フィリップ・シドニー」
- 1705年7月24日 00:00|イギリス| ||<就任>レスター伯「ジョン・シドニー」(~17370927死去)
- 1705年7月27日 04:00|プエルトリコ/スペイン| ||<就任>プエルトリコ知事兼提督代理「Pedro de Arroyo Guerrero」(~17060326死去)
- 1705年8月-02:00|ラトビア/ロシア| ||<就任>ケルラント(ロシア)総督「ルトルフ・フェリクス・ハウアー」(~1706年3月)
- 1705年8月 00:00|カリヤ諸島/スペイン| ||<死去>スペイン王国カリヤ諸島総司令官「Miguel Gonzalez de Otazo」
- 1705年8月 00:00|カリヤ諸島/スペイン| ||<就任>スペイン王国カリヤ諸島総司令官代理「Jose de Roxas Ayala」(~1705.11)
- 1705年8月4日-09:00|日本|東京都|宝永2年6月15日|<死去>北村季吟(82歳)歌人、俳人
- 1705年8月5日-01:00|ジブラルタル/イギリス| ||<死去>イギリス領ジブラルタル知事「Prince George of Hesse-Darmstadt」
- 1705年8月5日-01:00|ジブラルタル/イギリス| ||<就任>イギリス領ジブラルタル知事「John Shrimpton」(~17071224死去)
- 1705年8月5日 03:00|仏領ギアナ/フランス| ||<就任>ギアナ知事「Antoine de Querci」(~17060915)
- 1705年8月16日-01:00|フランス| ||<死去>ヤコブ・ヘルムイ(数学者)フランス[1654年12月27日生~](享年50)
- 1705年8月17日-09:00|日本|愛知県岡崎市|宝永2年6月28日|岡崎大風洪水、堤を決すること1000余間、田を損すること32,540石。家270戸破壊、92戸流失、溺死13人(矢作川)
- 1705年8月19日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|宝永2年7月|小栗栖檀林学寮講舎建つ
- 1705年8月19日-09:00|日本|三重県三重郡菟野町|宝永2年7月1日|<死去>伊勢菟野藩12000石「土方雄豊」(68歳)⇒孫「土方豊義」が継ぐ(叔父「久長」に1000石を分与し11000石⇒享保4(1719)年7月1日、死去)
- 1705年8月21日-01:00|ホスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| ||<就任>ホスニア総督「サーク・オスマン・パシャ」(~17080620)
- 1705年8月22日-01:00|イタリヤ| ||<就任>ジェノヴァ共和国トージェ「ステファノ・オノラート・フェレティ」(~17070822)
- 1705年8月22日-09:00|日本|東京都文京区|宝永2年7月4日|根津権現が建立される
- 1705年8月28日-01:00|ドイツ| ||<死去>ザクセン＝ラウエンブルク公・リュネブルク侯「ゲオルク・グィルヘルム・リュネブルク侯領はプラウシユウアイク＝リュネブルク選帝侯領に統合
- 1705年8月28日-01:00|ドイツ| ||<即位>ザクセン＝ラウエンブルク公「ゲオルク1世ルトヴイ」プラウシユウアイク＝リュネブルク選帝侯(1714年よりイギリス王~17270611死去)
- 1705年9月2日 00:00|イギリス| ||<就任>第2代マーチ伯「ウィリアム・ダグラス」(~17310307死去)
- 1705年9月7日-09:00|日本|福岡県久留米市|宝永2年7月20日|<死去>筑後久留米藩21万石「有馬頼元」(52歳)⇒長男「有馬頼貞」が継ぐ(⇒宝永3(1706)年4月8日、22歳で死去)
- 1705年9月11日-03:00|イラク/トルコ| ||<就任>バグダッド「ベイヤート・アリ・パシャ」(~25日)
- 1705年9月15日 05:00|ベルギー/スペイン| ||<就任>ベルギー副王「ミゲル・ヌニェス・デ・サプリア(大審問院大統領)」(1回目~17070522)
- 1705年9月20日-01:00|ハンガリー| ||<即位>ハンガリー対立王「フェレンツ・リポーチ・ラコチ・フェルヴアグシ」ハンガリー議会在攝政大公に選出(~17110221)
- 1705年9月25日-03:00|イラク/トルコ| ||<就任>バグダッド「ベジリガン・ハルパシャ」(2回目~17070301)
- 1705年9月25日-09:00|日本|和歌山県|宝永2年8月8日|<死去>徳川光貞(80歳)前紀州藩主
- 1705年9月26日 04:00|パラグアイ/スペイン| ||<就任>パラグアイ総督「セバスチャン・フェリクス・デ・メンデイス」(2回目~17060209)
- 1705年9月27日-05:00|日本|長崎県長崎市|宝永2年8月10日|暁、長崎本下町より出火、本下町が焼失、東築町と西築町の大半、島原町の半分、大村町と船番屋数戸を焼失
- 1705年10月-01:00|アルジェリア| ||<就任>アルジェのデイ「フェイン2世コジヤ」(~1706年4月)
- 1705年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュゼッペ・ロリ」「マルキオーレ・ハンマズ」
- 1705年10月4日-01:00|ポーランド/リトアニア| ||<即位>ポーランド王・リトアニア大公「スタニスワフ1世」(1回目~17090808退位)
- 1705年10月13日 05:00|ハイチ/フランス| ||<就任>フランスのサント・ミンゴ総督代行「ジャン＝ピエール・ド・シャリット」(1回目~17071228)
- 1705年10月14日-09:00|日本|埼玉県さいたま市岩槻区|宝永2年8月27日|<加増>武蔵岩槻藩5万石「小笠原長重」+1万石⇒6万石(⇒宝永7(1710)年5月18日、隠居)
- 1705年10月14日-09:00|日本|東京都千代田区|宝永2年8月27日|<解任>老中「小笠原長重」
- 1705年10月17日 00:00|ガナ/オランダ| ||<死去>オランダ領ゴールト＝コースト総裁「ウィレム・デ・ラ・パルマ」
- 1705年10月19日-01:00|ベルギー| ||<就任>ベルギー行政官(リンブルク+リエージュ総督)「ヨハン・ヘーター・グラーフ・フォン・ゴイス」(~1707年)
- 1705年10月23日 00:00|ガナ/オランダ| ||<就任>オランダ領ゴールト＝コースト総裁「ピーター・ヌイツ」(~17080926在任中死去)
- 1705年10月23日-09:00|日本|島根県松江市|宝永2年9月6日|<死去>出雲松江藩18万6千石「松平吉透」(38歳)⇒10月26日、次男「松平宣維」が継ぐ(⇒享保16(1731)年8月27日、死去)
- 1705年10月25日-09:00|日本|和歌山県和歌山市|宝永2年9月8日|<死去>紀伊和歌山藩55万5千石「徳川頼職」(26歳)⇒10月6日、弟「徳川吉宗(頼方から改名)」が継ぐ(⇒享保元(1716)年4月30日、將軍後見職となり辞任)
- 1705年10月28日-05:45|ネーデル| ||<死去>リトワラ王「シヤヨガナレンドラマツラ」

1710迄 (1555件)

- 1705年11月-05:45|パール| |||<即位>リタプラ王「ジヤロカフ ラカマツ」(~1706年10月没)
- 1705年11月-03:00|サングアラビア| |||<就任>メッカ・シャリフ「アブドゥル・カリム・ブン・ムハンマド」(第2治世~1711年12月)
- 1705年11月 00:00|イギリス| |||<就任>4代ケンカークイン伯「アレクザンダー・ブルース」(~17061010死去)
- 1705年11月 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カリヤ諸島総司令官「Agustin de Robles y Lorenzana」(~1709年)
- 1705年11月5日-09:00|日本|京都府京都市|宝永2年9月19日|<死去>板倉重種(65歳)下野烏山藩主・武蔵岩槻藩主・信濃坂本藩主、寺社奉行・老中
- 1705年11月7日-09:00|日本|東京都千代田区|宝永2年9月21日|<就任>老中「井上正岑」(~享保7年5月17日)
- 1705年11月7日-09:00|日本|東京都千代田区|宝永2年9月21日|<就任>老中「大久保忠増」(~宝永8年4月12日)
- 1705年11月14日-09:00|日本|茨城県石岡市|宝永2年9月28日|<交替>常陸府中藩2万石「松平頼隆」隠居⇒三男「松平頼如」が継ぐ(⇒宝永4(1707)年12月7日、35歳で死去)
- 1705年11月16日-09:00|日本|福井県越前市|宝永2年10月|<拝領>越前高森藩2万石「松平(本庄)宗長」(⇒宝永6(1709)年11月20日、死去)
- 1705年11月18日-09:00|日本| ||宝永2年10月3日|<死去>中川喜雲(70歳)俳人、仮名草子作者
- 1705年11月18日-09:00|日本|岡山県津山市|宝永2年10月3日|<死去>森衆利(33歳)元美作津山藩主
- 1705年11月20日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「ロレンソ・デ・アルマダ」(~17091004)
- 1705年11月20日-01:00|イタリア| |||ベネチアでサン・ジョヴァンニ音楽学校設立
- 1705年11月21日 04:30|ベネチア/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネチア暫定総督「Francisco de Berrotaran y Gainza」(2期目~17060508)
- 1705年11月21日-09:00|日本|福井県丹生郡越前町|宝永2年10月6日|<廃藩>越前葛野藩4万石「徳川頼方」紀州藩を相続/天領に吸収
- 1705年11月22日 00:00|イギリス| |||<死去>3代ダント・カルト 伯「ウィリアム・コラン」
- 1705年11月22日 00:00|イギリス| |||<就任>4代ダント・カルト 伯「ジョン・コラン」先代の弟(~17200605死去)
- 1705年11月26日 00:00|イギリス| |||<就任>グリニッジ 伯「ジョン・キャンベル」第2代アール公(⇒17190427初代グリニッジ 公~17431004死去、グリニッジ 公廃絶)
- 1705年11月27日-02:00|ラトビア/ポーランド| |||<就任>ポーランド・リウオニア総督代行「ウラディスワフ・フランチェスク・ヘル」(1回目~12.8)
- 1705年12月8日-02:00|ラトビア/ポーランド| |||<就任>ポーランド・リウオニア総督「ファビアン・クワエリ・プラーター」(~1707年1月)
- 1705年12月15日-09:00|日本|愛知県豊橋市|宝永2年10月30日|<加増移封>下総関宿藩73000石「牧野成春」⇒三河吉田藩8万石(⇒宝永4(1707)年3月26日、死去)
- 1705年12月15日-09:00|日本|千葉県野田市|宝永2年10月30日|<再移封>三河吉田藩5万石「久世重之」⇒下総関宿藩5万石(⇒享保3(1718)年3月3日、1万石加増され6万石)
- 1705年12月17日-08:00|インドネシア/イギリス| |||<死去>ヘンリー副総督(マダガスカル総督に從属)「Richard Watts」
- 1705年12月17日-08:00|インドネシア/イギリス| |||<就任>ヘンリー副総督(マダガスカル総督に從属)「マシュー・リドリー」(~1708年)
- 1705年12月26日-09:00|日本|大分県大分市|宝永2年11月11日|<交替>豊後府内藩22200石「松平近陳」隠居⇒次男「松平近禎」が継ぐ(⇒享保10年8月24日(17250930)死去)
- 1705年12月29日-09:00|日本|静岡県掛川市|宝永2年11月14日|<改易>遠江国掛川藩35000石「井伊直朝」
- 1705年12月30日-09:00|日本|広島県三次市|宝永2年11月15日|<死去>浅野長照(54歳)前備後三次藩主
- 1706年-10:00|ガラム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事代理「Manuel Arguelles y Valdes」(1期目~170901)
- 1706年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ 総督「Simon van der Stel」(~1720年死去)
- 1706年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事代行「マヌエル・ゲレイロ・デ・アルメイダ」(~1708年)
- 1706年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>モルッカ諸島オランダ 総督「Jacob Claaszoon」(~1710年)
- 1706年-08:00|インドネシア| |||<即位>パカン・スルタン「Musa Malikuddin」(~1715年)
- 1706年-08:00|インドネシア| |||<即位>パルン・スルタン「Wiranegara2世」(~1707年)
- 1706年-08:00|インドネシア| |||<即位>パレンバン・スルタン「Sultan Muhammad Mansyur Jayo Ing Lago」(~1718年)
- 1706年-07:00|カンボジア| |||<即位>カンボジア王国国王「トン・レキア2世」(2回目~1710年)
- 1706年-05:30|インド| |||<就任>トルコ国統治者(タクル・サーヒブ)「ジュンボズ・カコジ」(~1712年)
- 1706年-05:30|インド| |||<就任>パンスワラ国統治者(マハラワ)「ヒム・シン」(~1713年没)
- 1706年-05:30|インド| |||<就任>ムガル帝国カンミール総督「ナジブ・シャー・カールミ」(1回目~1707年)
- 1706年-05:30|インド| |||<就任>ラトナム国ジャケシュリ・シン」(~1716年2月没)
- 1706年-05:30|インド| |||<即位>ダティア国統治者(マハラジャ・ラオ・ラジャ)「ラムチャンドラ・シン」(~1733年没)
- 1706年-05:30|インド/ブータン| |||シッキムはブータンに短期間占領される
- 1706年-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Baltaci Suleyman Pasha」(~1707.8)
- 1706年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>モザンビーク、ソファラ、リス・テ・クアマ、モモタパ 総司令官「ルイス・デ・フリート・フレイル」(~1707年没)
- 1706年-01:00|リヒテンシュタイン| |||<就任>ファドゥーツ執行官「ヨーゼフ・アントン ローラー」(~17120609)
- 1706年-01:00|フランス/イタリア| |||仏軍、トリノを包囲
- 1706年-01:00|オーストリア/イタリア| |||ハプスブルク家のオーストリア、ミラーノを併合。カロがミラーノ王に/ロンバルディアはアレクサンドリア、ノヴァーラの一部、ロメリナを失う
- 1706年-01:00|フランス| |||ブルゴーニュ公にフランス王ルイ14世の長男・王太子ルイ(グラン・ドゥーファン)の息子ルイ即位(~1712年2月18日)

1710迄 (1555件)

- 1706年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチュー司令官「パウロ・ゴメス・デ・アブレウ・エリマ」(~1708年6月)
- 1706年 00:00|イギリス| |||<就任>ケンブリッジ公「ジョージ2世」(~17270611イギリス国王)
- 1706年 00:00|セカール/フランス| |||<就任>セカール会社局長・司令官「ミシェル・ジャン・ヨレド・ラ・ケルブ」(~1710年)
- 1706年 00:00|カナダ/イギリス| |||<就任>プロキシオン・ゴールド=コスト司令官「ハインリッヒ・ラミー」(~1709年)
- 1706年 01:00|カーボベルテ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルテ総督「商工会議所上院」(~17071026)
- 1706年 03:00|仏領ギアナ/フランス| |||<就任>ギアナ知事「Remy Guillouet」(2回目~17140110)
- 1706年 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス| |||<就任>ネイビス副総督「ウォルター・ハミルトン」(~1722年没)
- 1706年 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ大審問院総督・長官「ブレネス侯爵ルネ・エウスタキオ・ビセンテ・ロドリゴ・イル」⇒「ブレネス侯爵ルネ・アントニオ・デ・ラ・ロサカランサ」(2回目~1708年)
- 1706年 05:00|タークス・カイコス諸島/スペイン| |||タークス・カイコス諸島をスペインが占領(~1710年)
- 1706年 05:00|ハママ| |||ハママを海賊が支配(~17180726)
- 1706年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル、サン・ビセンテ州暫定市長兼副司令官「フランシスコ・チャコン・デ・イ・イ・サザール」(~1708年)
- 1706年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領フロリダ植民地総督「フランシスコ・デ・コルコレス・イ・マルティネス」(~1716年)
- 1706年 06:00|ニカラガア/スペイン| |||<就任>ニカラガア総督「ジョセ・エ・カホ・デ・ララ」(~1720年)
- 1706年 06:00|グアテマラ| |||トリビオ・デ・コソ・イ・カンパがグアテマラ総督に就任
- 1706年1月15日-09:00|日本|京都府京都市|宝永2年12月|水垂町より出火、納所町の11寺、483戸焼失
- 1706年1月17日-09:00|日本| ||宝永2年12月3日|<死去>三輪休雪(76歳)陶工
- 1706年1月17日-09:00|日本|静岡県掛川市|宝永2年12月3日|<再封>遠江掛川藩2万石「井伊直矩」(⇒翌年1月16日、越後与板藩2万石へ移封)
- 1706年1月26日 00:00|フェロ諸島/デンマーク| |||<死去>フェロ諸島首席大臣「Johan Hendrik Weyhe」
- 1706年1月26日 00:00|フェロ諸島/デンマーク| |||<就任>フェロ諸島首席大臣代理「Frederik Severinsen Skougaard」(~同年)⇒首席大臣「Samuel Pedersen i Lamhauge」(~17550127死去)
- 1706年1月29日 00:00|イギリス| |||<死去>ドセット伯「チャールズ・サックヴィル」
- 1706年1月29日 00:00|イギリス| |||<就任>ドセット伯「ライオネル・クランフィールド・サックヴィル」(⇒17200617ドセット公~17651010死去)
- 1706年1月29日-09:00|日本| ||宝永2年12月15日|霧島山が噴火。堂塔寺家焦土と化す
- 1706年2月8日 04:00|米領グアージン諸島/デンマーク| |||<死去>セントトマス島・セントジョン島総督「Claus Hansen」
- 1706年2月9日 04:00|米領グアージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントトマス島・セントジョン島総督「Joachim Melchior von Holtten」(~17081121死去)
- 1706年2月9日 04:00|パラグアイ/スペイン| |||<就任>パラグアイ総督「バルサルカ・ルシア・ロス」(~17071010)
- 1706年2月9日-09:00|日本|徳島県徳島市|宝永2年12月26日|交替|阿波富田藩5万石「蜂須賀隆重」隠居⇒養子「蜂須賀隆長」が継ぐ(⇒正徳4(1714)年9月17日、死去)
- 1706年2月13日-09:00|日本| ||宝永3年|この年、檜林鎮山が西洋流外科医術書「紅夷外科宗伝」を著す
- 1706年2月13日-01:00|ドイツ/スウェーデン| |||スウェーデン国王カール12世がザクセンに侵攻し、パウシュタットの戦いでロシア軍を破る
- 1706年2月13日-09:00|日本| ||宝永3年1月|「御伽百物語」刊行
- 1706年2月21日 00:00|カリヤ諸島| |||<死去>エルベントウ島主「Francisco Alejandro Bautista Benitez de Lugo Interian del Castillo」
- 1706年2月21日 00:00|カリヤ諸島| |||<就任>エルベントウ島主「Francisco Bautista Benitez de Lugo Arias de Saavedra」(~17711117死去)
- 1706年2月22日 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス| |||<就任>ネイビス副総督「ウォルター・ハミルトン」(~1722年没)
- 1706年2月22日 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス/フランス| |||フランスがセントクリストファーを占領し略奪(~1706年3月)
- 1706年2月23日-09:00|日本|神奈川県厚木市|宝永3年1月11日|<加増立藩>相模厚木藩1万石「間部詮房」(⇒宝永7(1710)年5月23日、上野国高崎藩5万石に加増移封)
- 1706年2月23日-09:00|日本|東京都千代田区|宝永3年1月11日|<就任>大老「柳沢吉保」(~宝永6年6月3日)
- 1706年2月26日-09:00|日本|東京都中央区|宝永3年1月14日|火事により中村座、市村座焼失
- 1706年2月28日-09:00|日本|新潟県長岡市|宝永3年1月16日|<移封>遠江掛川藩2万石「井伊直矩」⇒越後与板藩2万石(⇒享保16(1731)年2月27日、隠居)
- 1706年3月-02:00|ラトビア/スウェーデン| |||<就任>ケルラント総督「アドム・ルトヴィヒ・グラーヴ・レーヴェンハウプト公爵」(2回目~1709年9月)
- 1706年3月 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス| |||<就任>イギリス植民地セントクリストファーズ総督「マイケル・ランバート」(~1715年)
- 1706年3月3日-01:00|ドイツ| |||ヨハン・パッヘルベル(作曲家)死去ドイツ[1653年09月01日生~](享年52)
- 1706年3月3日-09:00|日本|神奈川県|宝永3年1月19日|<加増立藩>相模・武蔵・常陸・下総国内14000石「越智清武」徳川綱豊の次男(⇒宝永4(1707)年1月11日、松平の苗字を称することを許され上野国館林藩24000石に加増移封)
- 1706年3月12日-09:00|日本|静岡県掛川市|宝永3年1月28日|<移封>信濃飯山藩4万石「松平忠喬」⇒遠江掛川藩4万石(⇒宝永8(1711)年2月11日、摂津尼崎藩48000石に加増移封)
- 1706年3月12日-09:00|日本|長野県飯山市|宝永3年1月28日|<移封>播磨赤穂藩33000石「永井直敬」⇒信濃飯山藩33000石(⇒宝永8(1711)年2月11日、武蔵岩槻藩に移封)
- 1706年3月12日-09:00|日本|長野県上田市|宝永3年1月28日|<加増移封>但馬国出石藩48000石「松平(藤井)忠周」⇒信濃国上田藩58000石(⇒享保13(1728)年5月1日、死去)

1710迄 (1555件)

- 1706年3月12日-09:00|日本|兵庫県赤穂市|宝永3年1月28日|<移封>備中西江原藩2万石「森長直」廃藩⇒播磨赤穂藩2万石(⇒享保7(1722)年8月24日、死去)
- 1706年3月12日-09:00|日本|兵庫県朝来市|宝永3年1月28日|<移封>信濃上田藩58000石「仙石政明」⇒但馬出石藩58000石(⇒享保2(1717)年6月6日、死去)
- 1706年3月13日-09:00|日本|愛媛県松山市|宝永3年1月29日|道後温泉が再湧出
- 1706年3月18日-09:00|日本|福島県福島市|宝永3年2月4日|<半三郎火事>福島城下の北西端に位置する本町塩屋半三郎宅より出火、福島城下7町のうち上町と馬喰町を除く5町で被害を受け福島城郭内の4分の3を焼失
- 1706年3月21日 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス/フランス| |||<イングリッシュ植民地ネービスをフランス軍が攻撃略奪>
- 1706年3月26日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<死去>プエルトリコ知事兼提督代理「Pedro de Arroyo Guerrero」
- 1706年3月26日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>プエルトリコ知事兼提督代理「Juan Lopez de Morla」(~17081224)
- 1706年3月27日-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(ソモン朝)対立皇帝「テレ・ハイマート1世」(⇒10. 13皇帝~17080630没)
- 1706年4月-01:00|アルジェリア| |||<就任>アルジェのデイ「ムハマト2世ベクタシュ」(~1710年3月)
- 1706年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョヴァンニ・ジョネーニ」「カスパーレ・カビネーニ」
- 1706年4月8日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|宝永3年2月25日|<交替>山城淀藩6万石「石川憲之」隠居⇒次男「石川義孝」が継ぐ(⇒宝永7年9月2日(17101023)、52歳で死去)
- 1706年4月12日 00:00|イギリス| |||<死去>バーミンガム伯「トマス・ハワード」
- 1706年4月12日 00:00|イギリス| |||<就任>バーミンガム伯「ヘンリー・ホーズ・ハワード」(⇒17450422兼サフォーク伯~17570321死去)
- 1706年4月24日-09:00|日本|愛媛県大洲市|宝永3年3月12日|大洲城下裏町より出火、455軒を焼失
- 1706年4月27日-01:00|トイ| |||<死去>ザクセン=マインゲン公「ヘルハルト1世」
- 1706年4月27日-01:00|トイ| |||<即位>ザクセン=マインゲン公「エルスト=ルートヴィヒ1世」(~17241124死去)
- 1706年4月29日-01:00|トイ| |||<解任>ハイル選帝侯「マクシミリアン2世エマエル」選帝侯の地位を剥奪(~17260226死去)
- 1706年4月29日-01:00|オーストリア/トイ| |||ハイル選帝侯「マクシミリアン2世エマエル」がブレヒムの戦いの結果ハイルを放棄し選帝侯の地位を剥奪
- 1706年5月3日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「チョルル・ダマト・アリ・パシャ」(~17100616)
- 1706年5月8日 04:30|バスク/スペイン| |||<就任>スペイン領バスク総督「Fernando de Rojas y Mendoza」(~17110706死去)
- 1706年5月13日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ総督・総司令官「ペドロ・アルバレス・デ・ベジヤリン」(~6. 8黄熱病で死去)
- 1706年5月19日-09:00|日本|福岡県久留米市|宝永3年4月8日|<死去>筑後久留米藩21万石「有馬頼旨」(22歳)⇒5月2日、養子「有馬則維」が継ぐ(⇒享保14(1729)年7月6日、隠居)
- 1706年5月23日-01:00|ベルギー/フランス| |||ラミユの戦い/マルパラ公率いる同盟軍が、グエイロ公率いるフランス軍を破り、ベルギーの大都市が降伏
- 1706年5月26日-09:00|日本|大分県臼杵市|宝永3年4月15日|<死去>豊後臼杵藩5万石「稲葉知通」(55歳)⇒次男「稲葉恒通」が継ぐ(⇒享保5(1720)年6月25日、31歳で死去)
- 1706年5月30日-09:00|日本|岐阜県海津市|宝永3年4月19日|<死去>美濃今尾藩3万石「竹腰友正」(34歳)⇒5月25日、従兄弟「竹腰正映」が継ぐ(⇒宝永6(1709)年1月18日、21歳で死去)
- 1706年5月30日-09:00|日本|富山県富山市|宝永3年4月19日|<死去>越中富山藩10万石「前田正甫」(58歳)⇒次男「前田利興」が継ぐ(⇒享保9(1724)年7月18日、隠居)
- 1706年6月4日-09:00|日本|東京都中央区|宝永3年4月24日|<死去>初代・生島大吉、狂死(36才)
- 1706年6月5日-01:00|ベルギー| |||<就任>ベルギー公(フランド)「シャルル」(~17401020)
- 1706年6月6日-01:00|ベルギー| |||<就任>ベルギー公(フランド)「シャルル」(~17401020)
- 1706年6月8日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ総督・総司令官代行「ルイス・チャコン・イ・カステリオン」(1回目~17080118)
- 1706年6月11日-09:00|日本|新潟県魚沼市|宝永3年5月|幕府、上田銀山から花降銀・銀鉛等の搬出を禁じる/幕府による銀山経営終わる
- 1706年6月15日-09:00|日本|大阪府大阪市|宝永3年5月5日|赤穂事件を扱った初の舞台、近松門左衛門「碁盤太平記」初演
- 1706年6月17日-09:00|日本|長崎県平戸市|宝永3年5月7日|<交替>平戸新田藩1万石「松浦昌」隠居⇒長男「松浦邑」が継ぐ(⇒宝永5(1708)年10月29日、39歳で死去)
- 1706年6月24日 00:00|ポルトガル| |||<死去>ポルトガル国務長官「ロキ・モンテリオ・パム」
- 1706年6月24日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル国務長官代理「ティオゴ・デ・メンドンカ・コルテ・レアル」(⇒17070427国務長官~17360509死去)
- 1706年6月27日-08:00|中国| |||清・康熙45年5月17日|<死去>タライ・ラム「6世ツァンヤン・ギヤツォ」
- 1706年7月-05:30|インド| |||<就任>ジョルジュ国統治者(デシムク)「イサー・バ・イ・オー・サーヒブ」(~1754年没)
- 1706年7月-01:00|ベルギー| |||フランドとフランドは連合国統治下、ハイネとナミュールはハイル政権下
- 1706年7月1日-09:00|日本|埼玉県深谷市|宝永3年5月21日|<死去>武蔵岡部藩20250石「安部信峯」(48歳)⇒次男「安部信賢」が継ぐ(弟「信政」に新田1000石を分与⇒享保8(1723)年2月7日、死去)
- 1706年7月6日-02:00|エストニア| |||<就任>エストニア総督「クラストフ」のストロンベルク伯爵「ユリス・ヨソ」(~17091023)
- 1706年7月12日-09:00|日本|福井県敦賀市|宝永3年6月3日|<死去>若狭敦賀藩1万石「酒井忠稠」(54歳)⇒長男「酒井忠菊」が継ぐ(⇒享保7(1722)年2月6日、44歳で死去)
- 1706年7月14日 04:00|アンティガア・バ・ブータ/イギリス| |||<就任>リワード・カビネー諸島総司令官・総督「ダニエル・パーク」(~17

1710迄 (1555件)

101207没)

- 1706年7月15日-09:00|日本| ||宝永3年6月6日|幕府、財政窮乏を救うため元禄銀を改鑄して低品位の宝字銀を發行
- 1706年7月16日-09:00|日本|高知県高知市|宝永3年6月7日|<死去>土佐高知藩20万2600石「山内豊房」(35歳)⇒弟の「山内豊隆」が継ぐ(享保5年4月14日(17200520)死去)
- 1706年7月16日-09:00|日本|千葉県千葉市中央区|宝永3年6月7日|<死去>森川重信(62歳)前下総生実藩主
- 1706年7月30日-09:00|日本|千葉県千葉市中央区|宝永3年6月21日|<死去>杉木普斎(79歳)茶人
- 1706年8月20日 00:00|イギリス| ||<死去>6代ヒュム伯「チャールズ・ヒュム」
- 1706年8月20日 00:00|イギリス| ||<就任>7代ヒュム伯「アレクサンダー・ヒュム」(~1720年死去)
- 1706年8月26日-09:00|日本|新潟県新発田市|宝永3年7月19日|<交替>越後新発田藩5万石「溝口重雄」隠居⇒長男「溝口重元」が継ぐ(⇒享保3年11月21日(17190111)、39歳で死去)
- 1706年8月30日 06:00|グアテマラ/スペイン| ||<就任>スペイン領グアテマラ総督・総司令官・大統領「トレカノ侯爵トリビオ・ホセ・ミゲル・デ・ゴソ・イ・カンパ」(~17161008)
- 1706年9月1日-02:00|エジプト/トルコ| ||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「テラック・アリ・パシャ」(1回目~1707年9月)
- 1706年9月1日-01:00|ポーランド/リトアニア| ||<退位>ポーランド王・リトアニア大公「アウグスタス2世モツイ」
- 1706年9月6日-09:00|日本|大阪府高槻市|宝永3年7月30日|<死去>摂津高槻藩36000石「永井直達」(18歳)⇒従弟「永井直英」が継ぐ(⇒正徳5(1715)年1月17日、死去)
- 1706年9月14日-01:00|クワアア| ||<即位>ポルツァ大公「イウン・シノフチ」
- 1706年9月14日 04:00|バルバドス/イギリス| ||<死去>イギリス領バルバドス元帥兼総督「Sir Bevil Granville」
- 1706年9月14日 04:00|バルバドス/イギリス| ||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督代理「ウィリアム・Sharpe」(1回目~17070509)
- 1706年9月22日-08:00|マレーシア| ||<死去>ケダ・スルタン国スルタン「アブドゥッラー・アルムアッザム・シャー2世イブニ・アルマルフム・スルタン・アブ・アッラー・ムハンマド・シャー」
- 1706年9月22日-08:00|マレーシア| ||<即位>ケダ・スルタン国スルタン「アフマト・ダジュテ・イン・ハリム・シャー1世・イブニ・アルマルフム・スルタン・アブドゥラ・アルムアッザム・シャー」(~17100215死去)、摂政「ダト・マハラジャ・スーラ・トゥンク・エンボン・ラージャ・ムタ」(~17100215)
- 1706年9月23日-09:00|日本|住友商事|宝永3年8月17日|<死去>住友友信(60歳)住友家3代当主
- 1706年9月24日-02:00|リトアニア/ポーランド/スウェーデン| ||スウェーデン王国とポーランド＝ザクセン連合(ポーランド＝リトアニア連合及びザクセン選帝侯領)との間で和平条約(アルランシュテット条約)締結
- 1706年9月27日-09:00|日本|長崎県大村市|宝永3年8月21日|<死去>肥前大村藩27973石「大村純長」(71歳)⇒次男「大村純尹」が継ぐ(弟「純庸」に3000石を分与し24973石⇒正徳2(1712)年10月14日、死去)
- 1706年10月-05:45|ネパール| ||<死去>ラジャ・ラ王「ジヤコバ・ラサマ」
- 1706年10月-05:45|ネパール| ||<即位>ラジャ・ラ王「ジェイアント・ラマ」(~1709年3月没)
- 1706年10月-05:30|インド| ||<死去>キジャンガル国マハラジャ「マン・シン」
- 1706年10月-05:30|インド| ||<即位>キジャンガル国マハラジャ「ラージ・シン」(~1748年4月没)
- 1706年10月-01:00|セルビア/トルコ| ||<就任>オスマン帝国セルビア・ウァリス「ハチ・イブラヒム・パシャ」(~1708年9月)
- 1706年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「フランチェスコ・マッテオニ」 「ジャンパッティスタ・チェッコリ」
- 1706年10月10日 00:00|イギリス| ||<死去>4代キンカーティン伯「アレクサンダー・ブルース」
- 1706年10月10日 00:00|イギリス| ||<就任>5代キンカーティン伯「ロバート・ブルース」(~1718年死去)
- 1706年10月13日-03:00|エチオピア| ||<死去>エチオピア帝国(ソモン朝)皇帝「イサ1世ヨハネス」
- 1706年10月14日-09:00|日本|福井県小浜市|宝永3年9月8日|<死去>若狭小浜藩10万3500石「酒井忠圀」(37歳)⇒養子「酒井忠音」が継ぐ(⇒享保20(1735)年5月18日、死去)
- 1706年10月21日-09:00|日本| ||宝永3年9月15日|関東で大地震/江戸城内石塁多数倒壊
- 1706年11月2日-01:00|イタリア| ||イタリア、マエリヤで地震(M6.7)死者2400人
- 1706年11月4日 04:00|トミニカ共和国/スペイン| ||<就任>スペイン領サント・ミンゴ 暫定総裁・総司令官「セバスチャン・デ・セラ・イ・ギロン」(1回目~1708年)
- 1706年11月14日 00:00|イギリス| ||<昇格>12代ケント伯「ヘンリー・グレイ」⇒初代ケント侯(⇒17100428初代ケント公~17400605死去)
- 1706年11月19日-09:00|日本|静岡県沼津市|宝永3年10月15日|<拝領>駿河松永11000石「大久保教寛」(⇒享保3(1718)年3月3日、5000石加増され16000石)
- 1706年12月6日-09:00|日本|三重県|宝永3年11月2日|<伊勢国山田宝永3年の大火>丑の刻(午前2時ごろ)、中島町内の片原町にある炭間屋・足立次郎右衛門方から出火、そこから辻久留、二俣を経て市街の中心に向かって、炎は東へ東へと燃え広がっていった/火勢は、夜が明けても一向に衰えず東へと進み、市街地の東端、尾部坂の麓まで焼き尽くして巳の刻(午前10時ごろ)鎮火/20人死亡、家屋焼失6002軒、三方年寄家24家の内21家が被災
- 1706年12月9日 00:00|ポルトガル| ||<死去>ポルトガル王「ペドロ2世」58歳(誕生16480426)
- 1706年12月9日 00:00|ポルトガル| ||<即位>ポルトガル王「ジョアン5世大度王」(~17500731死去)ペドロ2世の子
- 1706年12月12日-01:00|ドイツ| ||<就任>ヴァルテック伯「フリードリヒ・アントン・ウルヒ」(⇒17120106、ヴァルテック侯に昇格⇒17280101死去)
- 1706年12月21日 00:00|イギリス| ||<昇格>第4代リンツ伯「ロバート・ハート」⇒初代リンツ侯(⇒17150726兼アソカスター＝ケスターン公~17230726死去)
- 1706年12月24日-09:00|日本|東京都中央区|宝永3年11月20日|日本橋和泉町から出火し住吉町・堺町・葺屋町など幅三町長さ十五町を焼き中村座、市村座焼失
- 1706年12月29日 00:00|イギリス| ||<就任>初代チャムリ伯「ヒュー・チャムリ」(~17250118死去)

1710迄 (1555件)

- 1706年12月30日 00:00|イギリス| ||<就任>ピントン伯「ヘンリー・ハワード」(⇒17091210兼サーク伯~17180919死去)
- 1707年-08:00|インドネシア| ||<即位>スマタラ 君主「Cakranegara2世」(~1737年)
- 1707年-08:00|インドネシア| ||<即位>パンカラン君主「Cakraningrat3世」(~1718年)
- 1707年-08:00|マレーシア| ||<即位>パタニ王国国王「ラジャ・テウイ」(~1716年)
- 1707年-07:00|ラオス| ||<即位>ウエンチャン王「セティラス2世」ランサン王国の分裂により建国(~1730年没)
- 1707年-07:00|タイ| ||<即位>パタニ王国第12代国王「ラジャ・マス・チャム」(~1710年)
- 1707年-07:00|タイ| ||<即位>マンラーイ朝ランナー王「マンラーナー」(~1727年)
- 1707年-07:00|ラオス| ||<即位>ルアンパバーン王国国王「キン・キッサート」Souliga Vongsaの孫(~1713年死去)
- 1707年-06:00|プータン| ||<就任>プータン摂政「トウルク・ラウゲ」(~1719年)
- 1707年-05:30|インド| ||<就任>シヤンラ国ワル「スルル・ヤクト・カーン2世」(~1732年没)
- 1707年-05:30|インド| ||<就任>チュダ 国統治者(タークル)「アブ・ハシジ・マダブシジ」建国(~1747年没)
- 1707年-05:30|インド| ||<就任>ティルヴァタムコ 国ラジャ「クラセカラ・ヘルマル」(~17110524没)
- 1707年-05:30|インド| ||<就任>パトラ 国ラジャ「メティ・ニ・ハル」(~1735年)
- 1707年-05:30|インド| ||<就任>ホル 国統治者(ハント・サフ)「ナロ」(~1737年3月没)
- 1707年-05:30|インド| ||<就任>ムガル帝国ガミール総督「ナウス・カーン・ムミ」(~同年)⇒「ジャファール・カーン」(~1709年)
- 1707年-05:30|インド| ||<即位>ワドワン 国統治者(タル・サーヒブ)「アルジヤンシム・マダブシム」(~1739年没)
- 1707年-04:00|ジョージア| ||<即位>イメリ王「ギオルギ7世」(2回目~1711年10月)
- 1707年-04:00|ロシア| ||ロシア人がカムチャッカ半島を征服
- 1707年-03:30|イラン| ||<就任>サファヴィー朝大宰相「シャー・コリ・カーン・ザンカネ」(~1716年)
- 1707年-03:00|イェメン| ||<即位>カスィーリ 国サルタン「Abdallah ibn Badr al-Kathir」(~1725年)
- 1707年-03:00|スーダン| ||<即位>ダルフール 国サルタン「ム・サ・イブン・スレイマン」(2回目~1715年頃)
- 1707年-01:00|フランス| ||<死去>ヌール公「Philippe Jules Mancini」
- 1707年-01:00|スペイン| ||<就任>スペイン領メラ総督「Diego de Flores」(~1711年)
- 1707年-01:00|イタリヤ| ||<即位>ナポリ王「カル6世」(~1735年)1720年からはシチリア王も
- 1707年-01:00|フランス| ||<即位>ヌール公「Philip Julius Francis Mancini」(~1768年死去)
- 1707年-01:00|チャド| ||<即位>バギルミ 国サルタン「Bar, Mbangi」(~1722年)
- 1707年 00:00|ネパール| ||<就任>ワクタート 国統治者(デナク・サヒギ)「サンバ・ダントラ」(~1709年頃)
- 1707年 00:00|アイルランド| ||この年アイルランドで天然痘が流行
- 1707年 00:00|イギリス/ニカラガア| ||イギリスとミスキート連合軍、リバスを攻撃
- 1707年 04:00|ハルバドス/イギリス| ||<就任>イギリス領ハルバドス総督「Mitford Crow」(~1710年)
- 1707年 04:00|セントクリストファー・ネビス/イギリス| ||<就任>ネビス大統領「ダニエル・ミス」(~1722年没)
- 1707年 05:00|キューバ| ||英国との密貿易の道を絶たれたタバコ栽培業者、総督府に対して最初の反乱
- 1707年1月-02:00|フィンランド/スウェーデン| ||<就任>スウェーデン王領フィンランド 最高司令官「ゲオルク・フリヘレ・リッッカー」(~17100923)
- 1707年1月-02:00|ラトヴィア/ポーランド| ||<就任>ポーランド・リトアニア総督代行「ウラディスワフ・フランチェスコ・ヘルク」(2回目~24日)
- 1707年1月1日-05:30|インド/フランス| ||<就任>フランス領インド 総督「ヒエール・テュリグイエ」(1回目~17080702)
- 1707年1月4日-01:00|ドイツ| ||<死去>ハートンハートン 辺境伯「ルトウ・ヒ・グイルヘルム」
- 1707年1月4日-01:00|ドイツ| ||<就任>ハートンハートン 辺境伯「ルトウ・ヒ・ゲオルク」(~17611022死去)
- 1707年1月5日-09:00|日本| 佐賀県佐賀市|宝永3年12月2日<死去>肥前佐賀藩32万石「鍋島綱茂」(55歳)⇒弟「鍋島吉茂」が継ぐ(⇒享保15年3月18日(17300504)、死去)
- 1707年1月8日-01:00|フランス| ||<即位>アルタニユ公「ルイ・ド・フランス」(~17120218死去5歳)
- 1707年1月24日-02:00|ラトヴィア/ポーランド| ||<就任>ポーランド・リトアニア総督「ステファン・カール・グロウス」(~1709年)
- 1707年2月3日-09:00|日本| ||宝永4年|この年、伊藤仁斎の古学書「童子問」が刊行される
- 1707年2月3日-09:00|日本| 群馬県前橋市|宝永4年<加増>上野厩橋藩13万石「酒井忠拳」+2万石⇒15万石(⇒同年1月7日、隠居)
- 1707年2月3日-08:00|中国| ||清・康熙46年<即位>ダライ・ラマ対立6世「イェン・ギヤツォ」ダライ・ラマを篡奪(~1717年)
- 1707年2月10日-09:00|日本| ||宝永4年1月8日<死去>大淀三千風(69歳)俳人
- 1707年2月11日-09:00|日本| 茨城県筑西市|宝永4年1月9日<加増>常陸下館藩15000石「黒田直邦」+5000石⇒2万石(⇒享保17(1732)年3月、上野沼田藩25000石へ加増移封)
- 1707年2月13日-09:00|日本| 群馬県館林市|宝永4年1月11日<加増移封>相模・武蔵・常陸・下総国内14000石「越智清武」徳川綱豊の次男⇒上野国館林藩24000石(松平の苗字を称することを許される⇒宝永6(1709)年12月、1万石加増され34000石)
- 1707年2月18日-09:00|日本| ||宝永4年1月16日<死去>渡辺秀石(69歳)画家
- 1707年3月-02:00|ウクライナ| ||<即位>クリミア・ハン国ハン「カラン1世キレイ」(1期目~17081222)
- 1707年3月1日 05:00|エカトル/スペイン| ||<就任>スペイン領オランダ総督・総司令官・大審問院長「ファン・デ・リサ・イ・レカベリア」(~1714年没)
- 1707年3月2日 03:00|スリナム/オランダ| ||<就任>オランダ 領スリナム(オランダ 西インド 会社) 総督「ウイヘルム・ド・グリュイター」(~9.27)
- 1707年3月3日-05:30|インド| ||<死去>ムガル帝国皇帝「アウラングゼーブ」88歳(誕生1618年)
- 1707年3月14日-05:30|インド| ||<即位>ムガル帝国対立皇帝「アサム・シャー・アブール・ファイズ」(~6.8死去53歳)
- 1707年3月16日-09:00|日本| 宮城県仙台市|宝永4年2月13日<仙台宝永4年の大火>東七番丁で発生した火災で、城下東南部一帯が灰となり、侍屋敷、足軽屋敷など128軒、町屋敷351軒のほか、職人屋敷や寺など多数を焼失/佛眼

1710迄 (1555件)

寺焼失

- 1707年3月23日 01:30|日本|宮城県仙台市|宝永4年2月20日|<仙台宝永4年の大火>午前10時半ごろ、北四番丁から出火した炎が西北の風にあおられて延焼、荒町まで火の海とした/22時半ごろようやく炎は消えたが、侍屋敷と職人屋敷666軒、町屋敷は北材木町、本材木町、大町、新伝馬町、立町、肴町、国分町、南町、柳町、袋町、北目町、上築師町、田町が全焼/二日町、荒町が一部被害を受けて、892軒半焼失、死者4人
- 1707年3月25日-09:00|日本| ||宝永4年2月22日|幕府が落書・捨て文・流言・雑説を禁止し、また遊女の市中俳句・抱え置き、牛馬の重荷・鳥獣の売買を禁じる
- 1707年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「オノリオ・オノリ」 「ジ ュセ ッペ ・ザンペーニ」
- 1707年4月2日-09:00|日本|東京都|宝永4年2月30日|<死去>宝井其角 (47歳) 俳諧師
- 1707年4月3日-06:30|ミャンマー| ||<即位>ムラウカウー国王「サンダ トゥリヤ2世」 (~1710年9月)
- 1707年4月3日-09:00|日本|和歌山県新宮市|宝永4年3月1日|<死去>紀伊新宮藩35000石 (紀州藩附家老) 「水野重上」 (74歳) =>4月7日、養子「水野重期」が継ぐ (=>正徳4 (1714) 年7月18日、隠居)
- 1707年4月7日-09:00|日本|熊本県熊本市|宝永4年3月5日|<熊本宝永4年の大火>山崎の原田彦右衛門屋敷から出火、古町地区の東古町へと延焼、中古町から紺屋町、西古町へと拡がった/12人死亡、山崎の侍屋敷79か所、古町の民家848世帯、同借家629軒、蔵30軒、河原教悦が支配する30軒が類焼
- 1707年4月24日 00:00|イギリス| ||<昇格>第4代モントローズ 侯「ジ ュエイムズ ・グ ラム」 =>初代モントローズ 公 (~17420107死去)
- 1707年4月25日 00:00|イギリス| ||<昇格>5代ロクスバラ伯「ジョン・カー」 =>初代ロクスバラ公 (~17410227死去)
- 1707年4月28日-01:00|ドイツ| ||<死去>ザ ケンウエイナル公「クリスティアン」
- 1707年4月28日-09:00|日本|愛知県豊橋市|宝永4年3月26日|<死去>三河吉田藩8万石「牧野成春」 (26歳) =>長男「牧野成央」 (=>正徳2 (1712) 年7月12日、日向延岡藩8万石に移封)
- 1707年5月-05:30|インド| ||ムガル帝国軍がデカン地方から撤退
- 1707年5月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| ||<就任>アレホッ ・クリス (総督) 「Arnavut Abdi Pasha」 (~1709. 1)
- 1707年5月1日 06:00|コスタリカ/スペイン| ||<就任>コスタリカ総督「ロレンソ・アントニオ・デ・グ ラナダ ・イ・バルビェン」 (~1712年没)
- 1707年5月9日 04:00|バルバドス/イギリス| ||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「Mitford Crowe」 (~17100510)
- 1707年5月10日-01:00|ドイツ| ||<死去>ザ ケンウエイナル公「ヨハン・エルンスト3世」
- 1707年5月10日-01:00|ドイツ| ||<即位>ザ ケンウエイナル公「エルンスト・アウグスト1世」ヨハン・エルンスト3世の息子 (~17480119死去)
- 1707年5月12日 00:00|イギリス| ||イングランド とスコットランド が連合してグレートブリテン王国が成立/イングランド ・スコットランド 王アンがグレートブリテン王となる (-1714)
- 1707年5月12日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦5月1日|イングランド とスコットランド が合同法により合同し、グレートブリテン王国が成立/アン女王 (42) が国王となる
- 1707年5月22日 05:00|ベルギー/スペイン| ||<就任>ベルギー副王「カステル・ト・ス・リオス侯爵マヌエル・オムス・デ・サンタ・パウ・オリム・デ・セントマト・イ・ラヌサ」 (~17100422没)
- 1707年5月23日-09:00|日本|東京都中央区|宝永4年4月22日|幕府が江戸常盤橋内の町奉行所を数寄屋橋内に移す
- 1707年6月3日-02:00|南アフリカ/オランダ| ||<就任>オランダ 領ケープ 植民地司令官代行 (オランダ 東インド 会社) 「ヨハネス・コルネリス・ダブランク」 (~17080201)
- 1707年6月4日-05:30|スリランカ| ||<死去>キャンデー王国国王「ウイラム・ダルマシリヤ2世」
- 1707年6月4日-05:30|スリランカ| ||<即位>キャンデー王国国王・シンハラ国王「ウイラム・ラッカマ・ナレントランムハ」ウイラム・ダルマシリヤ2世の息子 (~17390513死去)
- 1707年6月5日-09:00|日本| ||宝永4年5月6日|<死去>久田宗全 (61歳) 茶人
- 1707年6月8日-05:30|インド| ||<死去>ムガル帝国対立皇帝「アサム・シャー・アブール・ファイズ」 53歳
- 1707年6月18日-05:30|インド| ||コタ国がブーテンに再統合 (~17130908)
- 1707年6月19日-05:30|インド| ||<即位>ムガル帝国皇帝「ハートウルクシャー1世」 (~17120227死去68歳)
- 1707年6月19日-09:00|日本|福岡県福岡市|宝永4年5月20日|<死去>黒田光之 (80歳) 前筑前福岡藩主
- 1707年6月24日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 副卿「ベンブロークとモンゴメリー伯爵トマス・ハーバート」 (~17090421)
- 1707年6月25日-09:00|日本| ||宝永4年5月26日|<死去>2代山本春正 (不明) 蒔絵師
- 1707年7月3日-03:00|ペラルソフ/ロシア| ||ミンスクがロシアに占領された (~1708年2月)
- 1707年7月31日-02:00|ルーマニア| ||<就任>モルダヴィア総督「大公副官: イオタ・フェルセ/イオン・ネルス/イリー・カンタクジノ/イリー・カタルギウ」 (~11. 13)
- 1707年8月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| ||<就任>ダマスカス・クリス (総督) 「Yusuf Pasha Qapudan」 (~1708年)
- 1707年8月 06:00|アメリカ/スペイン| ||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督「Jose Chacon Medina Salazar y Villasenor」 (~1712年)
- 1707年8月8日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|宝永4年7月11日|<死去>石川憲之 (74歳) 前山城淀藩主
- 1707年8月9日-09:00|日本|長野県長野市|宝永4年7月12日|長野・信州善光寺の大伽藍が落成延べ26万人の人員を費やし2年3ヶ月かけて完成
- 1707年8月18日 00:00|イギリス| ||<就任>2代デヴォンシャー公「ウィリアム・キャウエンティッシュ」先代の息子 (~17290604死去)
- 1707年8月27日-09:00|日本| ||宝永4年8月|<死去>初代村山平十郎 (不明) 歌舞伎役者
- 1707年8月28日-09:00|日本|東京都千代田区|宝永4年8月2日|<解任>老中「稲葉正通」
- 1707年9月-02:00|エジプト/トルコ| ||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ダマト・ハサン・パシャ」 (2回目 ~17091028)
- 1707年9月-01:00|オーストリア/イタリア| ||オーストリア軍ナーポリ占領
- 1707年9月6日-09:00|日本| ||宝永4年8月11日|5代将軍徳川綱吉の「生類憐みの令」によりどじょう・うなぎ・鳥

1710迄 (1555件)

を扱う商売が禁止に

- 1707年9月8日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<死去>イギリス領セントヘレナ総督「ステファン・ホワリエ」
- 1707年9月8日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督代理「トマス・グットウイン」(~17080824)
- 1707年9月9日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国「ジョゼフ・メニコ・マリア・テマリ」(~17090909)
- 1707年9月13日-09:00|日本|愛媛県大洲市|宝永4年8月18日|大洲藩領、洪水のため潰家1,782軒
- 1707年9月16日-09:00|日本|千葉県佐倉市|宝永4年8月21日|<交替>下総佐倉藩102000石「稲葉正住」隠居⇒次男「稲葉正知」が継ぐ(叔父「稲葉正佐」に3000石分与⇒享保8(1723)年5月1日、山城淀藩102000石に移封)
- 1707年9月19日-09:00|日本|徳島県|宝永4年8月24日|<死去>蜂須賀隆重(74歳)前安房富田藩主
- 1707年9月27日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領スリナム(オランダ西インド会社)総督代行「フランソワ・アンソニー・ド・レインガール」(~17100119)
- 1707年10月-05:30|インド| |||シャーフがマラッタ国王位を主張しシヴァージー-2世の母ターラー・バイーはこれに反対し、両者の間でケートの戦いが勃発し、シャーフがこれに勝利
- 1707年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フェデリコ・コッジ」 「フランチェスコ・モラッチ」
- 1707年10月7日-09:00|日本|大分県速見郡日出町|宝永4年9月12日|<交替>豊後日出藩25000石「木下俊長」隠居⇒長男「木下俊量」が継ぐ(⇒享保14(1729)年11月13日、58歳で死去)
- 1707年10月8日-04:00|ロシア| |||ロシアでアタマン・ブラフイン率いるコサックの反乱(~17080707)
- 1707年10月10日 04:00|パラグアイ/スペイン| |||<就任>パラグアイ総督「マヌエル・デ・ロレス・ロレンサーナ」(~1712年)
- 1707年10月12日-05:30|インド| |||<就任>マラッタ国最高統治者(ラジャ・チャトラパティ)「シャフジ 1世アッパ・サーヒーブ」(~17491215没)
- 1707年10月12日-05:30|インド| |||<廃位>マラッタ国最高統治者(ラジャ・チャトラパティ)「シヴァージー-2世」
- 1707年10月22日 00:00|イギリス| |||イギリス諸島沖で21隻からなる英国海軍艦隊が嵐に遭い、岩礁に追い込まれ、4隻が喪失、1400人を超える犠牲者を出した
- 1707年10月25日-09:00|日本| ||宝永4年10月1日|<死去>河村若芝(70歳)画家、工芸家
- 1707年10月26日 01:00|カーボベルテ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルテ総督「ド・リコ・ダ・オリベイラ・ダ・フォンセカ」(~12.4)
- 1707年10月28日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド総督「ド・リコ・ダ・コスタ」(~17120921)
- 1707年10月28日 05:00|日本| ||宝永4年10月4日|<宝永地震>未の刻(14時ごろ)地震発生/災害の特に大きかった地域は、東海道、伊勢湾沿岸、紀伊半島一帯で、袋井は全町全滅、見付、浜松、鳴海、宮、四日市は町の半ばが倒潰、名古屋では城中の所々が破損し地割れがあった/紀伊田辺では20人死亡、411戸が被災し内138戸が全潰、119戸が大破、154戸が津波で流失/徳島では630戸が倒潰/津波による被害が大きく、伊豆半島から九州にいたる太平洋沿岸及び瀬戸内海にも大波が達し、大阪湾、播磨、伊予、周防、長門などに大きな被害/八丈島も津波の被害に遭った/大坂の街は家屋倒潰3537戸、地震により5351人死亡、津波により1万6371人死亡/土佐では地震から1時間後に波高5~8mの津波が襲い、1844人死亡、行方不明926人、家屋全潰5608戸、同流失1万1167戸、船舶の流失・破損768隻、なかでも浦戸湾口の種崎には15mの津波が襲い、一木一草も残らず700人が死亡した/紀伊の広村では1000戸の集落の内、700戸流失、292人死亡/湯浅では1000戸の集落の内、292戸流失、53人死亡/尾鷲では641戸流失、530人余死亡/遠江浜名湖畔の東海道新居宿は、推定波高3mの津波で家屋流失287戸/伊豆の下田では波高5~6mの津波が押し寄せ、家屋全潰・流失857戸、11人死亡、船舶の流失・破損215隻/被災地全体の被害は2万6000人余死亡、家屋全潰6万1000戸余、同流失1万8000戸余、蔵の被害2000棟、船舶流失・破損3900余隻、田畑の流失・荒廃14万石相当
- 1707年11月6日-01:00|ベルギー| |||<就任>ベルギー行政官(リンブルク+リエージュ総督)「フランシスコ・ベルナルド・デ・キリス」(~1709年7月)
- 1707年11月6日-09:00|日本|東京都|宝永4年10月13日|<死去>服部嵐雪(54歳)俳人
- 1707年11月6日-09:00|日本|山口県萩市|宝永4年10月13日|<死去>長州藩369000石「毛利吉広」(35歳)⇒養子「毛利吉元」が継ぐ(⇒享保16(1731)年9月13日、死去)
- 1707年11月13日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「ミハイ・イオン・ラコヴィツァ」(2回目~17091017)
- 1707年11月22日-05:30|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督「ヘンドリック・ベッカー」(~17161205)
- 1707年11月23日-01:00|クワアチア| |||<即位>ポルツァ大公「ジュレ・ノヴァコヴィッチ」
- 1707年11月27日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿代行判事「アーサー・大司教ナルキッス・マッシュ/リチャード・フリーマン」(~17090421)
- 1707年11月27日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<死去>コネチカット植民地総督「フィッツ・ジョン・ウインスロップ」
- 1707年11月30日-09:00|日本|群馬県前橋市|宝永4年11月7日|<交替>上野厩橋藩15万石「酒井忠挙」隠居⇒長男「酒井忠相」が継ぐ(⇒翌年1月25日、死去)
- 1707年12月 00:00|イギリス/インド| |||イギリス東インド会社がカルカットをマドラスから分離
- 1707年12月 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||ビサウは放棄された(~1753年11月)
- 1707年12月1日 01:00|カーボベルテ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルテ総督「商工会議所上院+ザビエル・ロペス・ビジェラ」(~17111119)
- 1707年12月3日-09:00|日本|滋賀県東近江市|宝永4年11月10日|<死去>近江山上藩13000石「稲垣重定」(60歳)⇒翌年1月5日、長男「稲垣重房」が継ぐ(⇒享保5(1720)年3月4日、死去)
- 1707年12月10日-09:00|日本|新潟県上越市|宝永4年11月17日|<死去>松平光長(93歳)元越後高田藩主
- 1707年12月16日 01:00|日本| ||宝永4年11月23日|<1707富士山宝永噴火>巳の刻(午前10時ごろ)、富士山噴火/炎高く煙そびゆ/火山礫数十里に降り、南は岡部に至る/北東は栗橋
- 1707年12月18日-09:00|日本| ||宝永4年11月25日|<1707富士山宝永噴火>(~26日)富士山噴火、岩石砕け飛び、土砂焦げ散ず、灰は原および吉原の地を埋めること高さ五、六尺(1.5~1.8m)、江戸の地に至っては高さ五、六寸(1

1710迄 (1555件)

- 5~18cm)/焼け出たる所は大空穴となり、その傍らに小山(宝永山)を形成
- 1707年12月20日-09:00|日本|京都府京都市|宝永4年11月27日|<就任>関白「近衛家熙」
- 1707年12月23日-09:00|日本|茨城県石岡市|宝永4年11月30日|<死去>松平頼隆(79歳)前常陸府中藩主
- 1707年12月24日-01:00|ジブラルタル/イギリス| ||<死去>イギリス領ジブラルタル知事「John Shrimpton」
- 1707年12月24日-01:00|ジブラルタル/イギリス| ||<就任>イギリス領ジブラルタル知事「ロジャー・エリオット陸軍少将」(~17110124)
- 1707年12月24日-09:00|日本|大阪府大阪市中央区|宝永4年12月|「心中重井筒」初演、[作・近松門左衛門], 人形浄瑠璃、竹本座
- 1707年12月24日-09:00|日本|群馬県沼田市|宝永4年12月|家中諸士の詰所や本丸の居館等ができ、沼田城の再築が完了
- 1707年12月28日 05:00|ハイチ/フランス| ||<就任>フランスのサント・ミンコ 総督「ジョワズ・ル・ポレ伯爵フランソワ・ジヨセフ」(~1710年)
- 1707年12月30日-09:00|日本|茨城県石岡市|宝永4年12月7日|<死去>常陸府中藩2万石「松平頼如」(35歳)⇒翌年閏正月5日、養子「松平頼明」が継ぐ(⇒享保18(1733)年9月6日、43歳で死去)
- 1707年12月31日-09:00|日本|岩手県盛岡市|宝永4年12月8日|<死去>陸奥盛岡藩10万石「南部信恩」(30歳)⇒翌年1月5日、弟「南部利幹」が継ぐ(⇒享保10年6月4日(17250713)、死去)
- 1707年12月31日-09:00|日本|福島県須賀川市|宝永4年12月8日|<死去>本多政利. 配流先の岡崎城にて(67歳)元陸奥大久保藩主
- 1708年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| ||<就任>ティモール知事「ハコメ・デ・モライス・サルメント」(~1710年)
- 1708年-08:00|インドネシア/イギリス| ||<就任>ペンケレン副総督(マダガス総督に従属)「ジェームズ・Cross」(5. 13)⇒「アブラム・ホイル」(6. 18死去)⇒「ジョン・Delapie」(~7. 12死去)⇒代理「ロート・Skingle」(~1710年)
- 1708年-08:00|インドネシア| ||<即位>サンハス国スルタン「Umar Aqam ud-din1世」(~1732年)
- 1708年-08:00|インドネシア| ||<即位>ティール・スルタン「Hasanuddin」(~1728年)
- 1708年-08:00|インドネシア| ||<即位>ハムカサン君主「Adikara2世」(~1737年)
- 1708年-07:00|タイ| ||<即位>アユタヤ王朝第33代国王サンヘット9世「ミンタラーチャー」(~1732年)
- 1708年-05:30|インド| ||<就任>カチャリ国ラジャ「チャンドラハラ」(~1710年)
- 1708年-05:30|インド| ||<就任>コット・カハラ国支配者「サジャ・シン」(~1710年没)
- 1708年-05:30|インド| ||<就任>ジャヤサルミル国統治者(マハラワル)「フット・シン」(~1722年没)
- 1708年-05:30|インド| ||<就任>ジャヤンティア国ラジャ「ジャイ・ナラヤン・シム・ストゥンカ」(~1731年)
- 1708年-05:30|インド| ||<就任>テシカル国ラジャ「クンジャ・ヘハリ・プラマハラ」(~1728年)
- 1708年-05:30|インド| ||<就任>ハシャル国統治者(ラ)「ウタ・イ・シン」(~1725年)
- 1708年-05:30|インド| ||<就任>パルワニ国統治者(ラ)「モハン・シン1世」(2回目~1730年)
- 1708年-05:30|インド| ||<就任>パランプル国統治者(デイクン)「ワテ・カン(篡奪者)」(~同年)⇒「フィルス・カン2世」(~1719年没)
- 1708年-05:30|インド| ||<就任>ハルワガル国統治者(マハラワット)「フリスタ・イ・シン」(~1717年没)
- 1708年-05:00|ウズベキスタン| ||<死去>ヒュー・ハン国ハン「Musa Khan」
- 1708年-05:00|ウズベキスタン| ||<即位>ヒュー・ハン国ハン「Yadigar Khan1世」(~1714年死去)
- 1708年-04:30|アフガニスタン/イラン| ||<就任>アフガニスタン・ジャー「アブドラー・カン」ペルシャに対し反乱(~1712年8月)
- 1708年-04:30|アフガニスタン| ||<即位>バタフジャン・ハン「スライマンジャー」(~1713年)
- 1708年-04:00|ロシア| ||ドニ・コサック自治権はロシアによって事実上終了(1708年、ホストはアゾフ県に含まれる~1721年)
- 1708年-03:00|イラク/トルコ| ||<就任>ハスラ・ワリス「カヒヤ・ハサン・ハシヤ」(~1709年)
- 1708年-02:00|ウクライナ| ||<死去>クリミア・ハン国ハン「ガースィー3世ギレイ」
- 1708年-02:00|ラトヴィア| ||<就任>ケルラント・ゼムガレン公国政府議長「ハインリヒ・クリスティアン・フォン・デン」(1709年まで首相・議長代行~1727年)
- 1708年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| ||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Nasuh Pasha al-Aydini」(~1712年)
- 1708年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| ||<就任>モザンビーク、ソファラ、リオス・テ・クアマ、モノモバ 総司令官「ルイス・デ・コンサルバス・ダ・カマラ・コウティニョ」(~1712年)
- 1708年-02:00|ルワンダ| ||<即位>ルワンダ 王国ムミ「キゲリ3世ンダバラサ」(~1741年)
- 1708年-01:00|ドイツ| ||<就任>イゼンブルク・ヒュー・テ・インゲン伯「エルスト・カジミール1世」(~1749年)
- 1708年-01:00|ベナン| ||<就任>サグィ・フェタ 国統治者「フフォン」(~1727年)
- 1708年-01:00|オランダ| ||<就任>ネーデルラント連邦共和国フロンゲン州総督オラニエ公ヨハン・ウィレム・フリーゾ「デ・イツ侯アントリック・カシミール2世の子」(~17110714死去)
- 1708年-01:00|オランダ| ||<就任>ベルゲン・オブ・ズーム総督「ファン・テル・ハイテン」(~1710年)
- 1708年-01:00|クロアチア| ||<即位>ポルヒツァ大公「マルコ・バリッチ」(~1710年)
- 1708年-01:00|ドイツ| ||<即位>メクレンブルク公(メクレンブルク=シュトレリッツ系)「アドルフ・フリードリヒ3世[アドルフ・フリードリヒ2世の息子]」(~1752年)
- 1708年-01:00|ドイツ| ||この年、ドイツでペストが流行
- 1708年-01:00|オランダ/ガイアナ| ||英領ガイアナのデメラウで大規模な奴隷の反乱
- 1708年-01:00|イタリヤ| ||サヴォイア公国、モンフェラートを占領
- 1708年-01:00|イタリヤ| ||リナルド・デ・ステ、ミラノ公に
- 1708年 00:00|セントヘレナ/イギリス| ||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「大佐John Roberts」(~1711年)
- 1708年 00:00|セカール| ||<就任>ワロ統治者(ワラク)「ニヤク・アラム・ハ・カール・ティエ・ティエク」(~1733年)
- 1708年 03:00|ブラジル| ||ブラジルのミナス・ジェライスでエンボアバスの乱がおこる

1710迄 (1555件)

- 1708年 04:00|トミニカ共和国/スペイン| |||<就任>スペイン領サントミンゴ 総裁・総司令官「ギンゼルモ・モルフィ」(~1711年9月)
- 1708年 04:00|ボリビア/スペイン| |||<就任>ラプラタ・デ・ロスチャカス 聴問庁長官「フランシスコ・ピメンテル・イ・ソトマヨール」(~1717年)
- 1708年 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ大審問院総督・長官「フェルナンド・ジョス・エ・テ・アロ・イ・モンテロゾ」(~1709年)
- 1708年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ニューヨークおよびニュージャージー 総督「ジョン・ラウレース」(~1709年)
- 1708年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>コネチカット植民地総督「カートン・ソルトンストール」(~17240920死去)
- 1708年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サンサルバドル、サンミゲル、サンビセンテ 州市長兼副司令官「ニコラス・テ・セコ・ビエラ・ラダ・イ・ウエルトウゴ」(~1710年)
- 1708年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領テキサス植民地総督「シモン・パデーリャ・イ・コルトバ」(~1712年)
- 1708年1月3日-09:00|日本|秋田県由利本荘市|宝永4年12月11日|<死去>岩城重隆(80歳) 前出羽亀田藩主
- 1708年1月18日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ 総督・総司令官「ガットリス侯爵ロレアノ・ホセ・テ・トリス・アヤラ・イ・グアドロス・カステリャノス」(~17110218)
- 1708年1月21日-01:00|アルジェリア/トルコ| |||オラン、ムルス・エル・ケール がオスマン帝国の一部であるアルジェに占領された
- 1708年1月23日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヘッセン＝ホンブルク方伯「フリートリヒ3世」
- 1708年1月23日-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン＝ホンブルク方伯「フリートリヒ4世」(~17460608死去)
- 1708年1月28日-08:00|マレーシア| |||<死去>パンダハラ・セリ・マハラジャ「トウン・マス・アヌム・ビントウン・ハビブ・アブドゥル・マジド」
- 1708年1月28日-08:00|マレーシア| |||<即位>パンダハラ・セリ・マハラジャ「トウン・アブドゥラ・ビントウン・ハビブ・アブドゥル・マジド」(~1716年没)
- 1708年1月31日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|宝永5年1月9日|<交替>肥前蓮池藩52625石「鍋島直之」 隠居⇒弟「鍋島直称」が継ぐ(⇒享保2(1717)年4月9日、隠居)
- 1708年2月-03:00|ペルー/スペイン| |||シスコをスペインが占領(~1709年)
- 1708年2月1日-02:00|南アフリカ/オランダ| |||<就任>オランダ領ケープ植民地司令官(オランダ東インド会社)「ロドワイク・ファン・アッセンハラ」(~17111227)
- 1708年2月1日-01:00|ベルギー| |||<死去>レックハイム伯「フェルディナント2世ゴッペール」
- 1708年2月1日-01:00|ベルギー| |||<就任>レックハイム伯「ヨゼフ・ゴッペール」(~17200503没)
- 1708年2月4日 03:00|アルゼンチン/スペイン| |||<就任>リオ・デ・ラプラタ 総督「マヌエル・デ・ベラスコ・イ・テハダ」(~17120328)
- 1708年2月16日-09:00|日本|群馬県前橋市|宝永5年1月25日|<死去>上野厩橋藩15万石「酒井忠相」(42歳)⇒2月9日、長男「酒井親愛」が継ぐ(⇒享保5(1720)年4月13日、隠居)
- 1708年2月18日-09:00|日本|岩手県一関市|宝永5年1月27日|<死去>陸奥一関藩3万石「田村建顕」(53歳)⇒養子「田村誠顕」が継ぐ(⇒享保12(1727)年6月16日、死去)
- 1708年3月14日-09:00|日本| |||宝永5年閏1月22日|<死去>2代千宗守(51歳) 茶人、武者小路千家家元
- 1708年3月16日 03:00|日本|宮城県仙台市|宝永5年閏1月24日|<仙台宝永5年の大火>午の刻(午前12時ごろ)、八幡石切町の竜宝寺門前町、三浦屋次郎兵衛の貸家に住む喜作という者の家から出火、炎は中島丁から台町二、三番丁目へと飛び火し東南の方向へ広がった/続いて炎は二日町三番丁、国分町から東南原町へと流れ、谷地小路から孝勝寺へと延焼、寺の堂宇はことごとく焼けた/善導寺及び同寺内にある得生院殿(第三代藩主伊達綱宗の生母)の霊廟も一緒に焼けた/城下町のほとんどが焦土となった江戸時代最大の大火で、8人死亡、侍屋敷863軒、蔵屋敷2軒、寺社43か所(軒)、それらの門前町10軒、足軽・職人屋敷405軒、町屋敷812軒と合計2135軒が焼失
- 1708年3月20日-09:00|日本|京都府京都市下京区|宝永5年閏1月28日|幕府が京都銭座で宝永大錢(10文錢)を鑄造
- 1708年3月22日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・康熙47年3月|朝鮮で全国に紅疫が流行し死者数万名
- 1708年3月24日-09:00|日本|東京都|宝永5年2月3日|<死去>初代中村七三郎(47歳) 歌舞伎役者
- 1708年4月 00:00|イギリス| |||エイブラム・ダ・ベーンがコークス製鉄法を発明
- 1708年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュリアーノ・ベルツィ」 「トマソ・フェッコリ」
- 1708年4月1日-09:00|日本| |||宝永5年2月11日|<死去>中島随流(80歳) 俳人
- 1708年4月1日-09:00|日本|広島県広島市|宝永5年2月11日|<死去>安芸広島藩42万6500石「浅野綱長」病死(50歳) ⇒3月26日、長男「浅野吉長」が継ぐ(⇒享保15(1730)年5月11日、弟「浅野長賢」に広島新田藩3万石を分知⇒宝暦2年1月13日(17520227)死去)
- 1708年4月1日-03:00|日本|長崎県長崎市|宝永5年2月11日|暁、長崎榎津町より出火、今石灰町、新石灰町、万屋町、油屋町の過半、東浜町、今鍛冶屋町、出来鍛冶屋町の半分、今籠町、本古川町の一部を焼失
- 1708年4月5日-09:00|日本|群馬県富岡市|宝永5年2月15日|<死去>上野七日市藩1万石「前田利英」(20歳)⇒養子「前田利理」が継ぐ(⇒宝暦6(1756)年11月7日、七日市で死去)
- 1708年4月21日-09:00|日本| |||宝永5年3月|<刊行>西川如見の外国地誌「増補華夷通商考」
- 1708年4月23日-01:00|ドイツ| |||<即位>プファルツ＝ズルツバッハ公(プファルツ系ウイテルスバッハ家)「オットー・ル・オイスターハ」(~17320711 死去)
- 1708年4月28日 04:00|日本|京都府京都市|宝永5年3月8日|<京都宝永5年の大火>午の下刻(13時ごろ)、油小路通り姉小路下ル宗林町の銭屋(伊勢屋とも)市兵衛宅から出火、炎は御所をはじめ、その他の公家、武家屋敷、寺社、町家などを一挙に燃え上がらせ焦土とした/飛び火は下鴨まで達し、河合社も炎上/翌日は東南の強風に風向きが変わり、四条坊門あたりから西へと延焼、未の刻(午後2時ごろ)炎が三条油小路に達したところで鎮火/北は今出川通、南は錦小路通、西は油小路通、東は鴨川(賀茂川)河畔までと、京都の中心部を焼き尽くした/被害は御所は禁裏(天皇の住居)を始め各宮家、公家屋敷は九条、鷹司を始め95軒、大名屋敷21軒、町家417町、家数にして1万3000余軒、寺院48か所、神社6か所、仏教道場35か所が焼失
- 1708年4月30日-09:00|日本|熊本県熊本市|宝永5年3月10日|<熊本宝永5年の大火>熊本城下の坪井鳥町の北東角にある竹屋伝右衛門店(たな:貸家)の伝之丞宅から出火、新坪井町一丁目から八百屋町、六間町、馬借町へと延焼、米屋町、手取本町、千反畑から高田原、本行寺、白川端までの町家1200軒余りが焼失/知行取(領地を与えられ

1710迄 (1555件)

た武家)や御切米取(給料取りの武家)や御中小姓(最下層の武家)の屋敷、また御鉄砲衆や御長柄衆の武家屋敷、寺院、神社が多く焼失

- 1708年5月6日-09:00|日本|茨城県行方市|宝永5年3月16日|<死去>常陸麻生藩1万石「新庄直詮」(44歳)⇒五男「新庄直祐」が継ぐ(⇒享保20(1735)年11月20日、隠居)
- 1708年5月11日-01:00|フランス| |||<死去>フランスの建築家ジュール・アルドゥアン・マンサール(1646-、62歳)<主な作品>パリ天文台(14区)、ヴァンドーム広場(1区)、大トリアノン宮殿(ヴェルサイユ)、サン＝ジェルマン＝アン＝レー城(パリの西部)、ロワイヤル橋(1、7区)
- 1708年5月12日-01:00|ドイツ| |||<死去>メクレンブルク＝シュトレリッツ公「アドルフ・フリートリヒ2世」
- 1708年5月12日-01:00|ドイツ| |||<即位>メクレンブルク＝シュトレリッツ公「アドルフ・フリートリヒ3世」アドルフ・フリートリヒ2世の息子(〜17521222死去)
- 1708年5月21日-09:00|日本| ||宝永5年4月2日|<死去>山田宗偏(82歳)茶人
- 1708年5月22日-09:00|日本|福岡県|宝永5年4月3日|<宝永5年筑後川大洪水>(〜5日)九州北部の大雨で、筑後川が50年来の大洪水を起こした/下濱にあった新蔵(米の貯蔵庫)が流失、久留米城下では船で行き来をする状態となる
- 1708年6月2日-09:00|日本|東京都江東区|宝永5年4月14日|江戸深川三十三間堂通矢「半堂大矢数」で、海野助三郎が11,015本(総矢数12,300本中)を記録
- 1708年6月20日-01:00|ホースニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ホースニア総督「ムスタファ・パシャ」(〜1709年)
- 1708年6月21日-01:00|ノルウェー/デンマーク| |||<就任>ノルウェー総督「ウエーデル＝ヤルズベック伯爵グスタフ・ヴィルヘルム」(2回目〜8.1)
- 1708年6月21日 00:00|フェロ諸島/デンマーク| |||<死去>フェロ諸島総督「コペンハーゲン」「Frederik von Gabel til Rantz ausholm og Bregentved」
- 1708年6月30日-03:00|エチオピア| |||<死去>エチオピア帝国(ソロモン朝)皇帝「テケレ・ハイマノト1世」
- 1708年6月30日-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(ソロモン朝)皇帝「サド2世・テケレ・ハイマノト」(〜7.1)
- 1708年6月30日-01:00|ドイツ| |||<死去>東フリースラフ「Christian Everhard」
- 1708年6月30日-01:00|ドイツ| |||<就任>東フリースラフ「George Albert」(〜17340612死去)
- 1708年7月1日-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(ソロモン朝)皇帝「テウオロス・ヨハネス・サド・ウオルデ・アンバサ」(〜17111014没)
- 1708年7月2日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド総督「キヨム・アントレ・ド・ペール」(1回目〜1713年9月)
- 1708年7月5日-01:00|イタリア| |||<死去>マントヴァ・モンフェラート公「フェルディナント・カルロ・ゴンザーガ＝ネグェルスゴンザーガ」家はマントヴァの支配権を失い、マントヴァ公国はミラノ公国に併合
- 1708年7月7日-05:30|インド| |||<就任>アールカット国ラジャ「ファッティン・ラオ1世ホーンズレ」(〜1760年没)
- 1708年7月31日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国秘密評議会議長「クリスティアン・フォン・レンテ＝ス＝ザールハウゼン」(〜17100517)
- 1708年8月1日-01:00|ノルウェー/デンマーク| |||<就任>ノルウェー総督「ヨハン」(〜17100222没)
- 1708年8月8日 01:00|日本|神奈川県|宝永5年6月22日|<富士山宝永噴火二次災害>前日午後からの豪雨で、10時ごろ、上流から押し寄せた土石流などが自然ガムを破壊し、大量の激流が足柄平野の入口に設けられていた岩流瀬堤と大口堤へ一挙に押し寄せ両堤は決壊し特に下流右岸(西側)の足柄平野の穀倉地帯が濁流に覆われた
- 1708年8月11日-09:00|日本|京都府福知山市|宝永5年6月25日|<交替>丹波福知山藩3200石「朽木植昌」隠居⇒長男「朽木植元」が継ぐ(弟「朽木植治」に3000石分与⇒享保6年(1721)11月24日、死去)
- 1708年8月11日-09:00|日本|栃木県那須烏山市|宝永5年6月25日|<死去>那須資徳(37歳)元下野烏山藩主、交代寄合
- 1708年8月12日-09:00|日本|埼玉県久喜市|宝永5年6月26日|<死去>米津政武(71歳)前武蔵久喜藩主、元寺社奉行
- 1708年8月13日-03:00|日本|長崎県長崎市|宝永5年6月27日|暁、船津町より出火。小川町、東上町、上筑後町を全焼、船津町、金屋町、恵美須の半分、後興善町、豊後町、東中町の一部を焼失
- 1708年8月15日-09:00|日本|栃木県足利市|宝永5年6月29日|<交替>下野足利藩11000石「戸田忠時」隠居⇒四男「戸田忠圀」が継ぐ(⇒享保17(1732)年5月2日、死去)
- 1708年8月24日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「ジョン・ロバーツ」(〜17110807)
- 1708年9月8日 00:00|カンピニア/フランス| |||フランス軍が一時的にジェームズ島を奪還し、身代金を要求
- 1708年9月8日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領ブラジル総督「ルイ・シーザー・メネズ」(〜17100503)
- 1708年9月26日 00:00|カナダ/オランダ| |||<死去>オランダ領ゴールド＝コースト総督「ピーター・ヌイツ」
- 1708年9月26日 00:00|カナダ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールド＝コースト大統領「ヘンリクス・ヴァン・ウエーセル」(〜17090713)
- 1708年9月27日-09:00|日本|佐賀県多久市|宝永5年8月14日|多久茂文、多久聖廟創建(孔子廟)
- 1708年10月-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ヴァリス「アリ・パシャ」(1回目〜1710年5月)
- 1708年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「マリノ・エネア・ボネリ」「バルダッサーレ・ティニ」
- 1708年10月9日-03:00|ペラルン/スウェーデン/ロシア| ||ユリウス暦:1708/9/28|<レスナーヤの戦い>大北方戦争でロシア軍が初めてスウェーデン王国軍に勝利
- 1708年10月13日-05:30|インド| |||<就任>ナワガル国統治者(ジャム・サハブ)「ライシンジ2世ラクハジ」(〜17110813没)
- 1708年10月14日-09:00|日本| ||宝永5年9月| (〜宝永6年4月ごろ)はしかが全国に流行し、多くの死者を出す
- 1708年10月17日-09:00|日本|新潟県新発田市|宝永5年9月4日|<死去>溝口重雄(76歳)前越後新発田藩主
- 1708年10月28日 00:00|イギリス| |||<死去>カンパランド公「ジョージ・オブ・デンマーク」
- 1708年11月12日-09:00|日本| ||宝永5年10月|<刊行>貝原益軒「大和俗訓」
- 1708年11月15日-09:00|日本|和歌山県田辺市|宝永5年10月4日|<死去>安藤直名(29歳)前紀伊田辺藩主、紀州藩家老
- 1708年11月19日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国フェルペントウ島永続的軍政知事「Pedro Sanchez Du

1710迄 (1555件)

- mpierrez) (~1733年死去)
- 1708年11月20日-09:00|日本|三重県津市|宝永5年10月9日|<死去>伊勢津藩32万3千石「藤堂高睦」(42歳)⇒11月25日、養子「藤堂高敏」が継ぐ(⇒享保13年4月13日(17280521)、死去)
- 1708年11月21日 04:00|米領グァーシオン諸島/デンマーク| ||<死去>セント・マス島・セントジョン島総督「Joachim Melchior von Holten」
- 1708年11月22日 04:00|米領グァーシオン諸島/デンマーク| ||<就任>セント・マス島・セントジョン島暫定総督「Diderich Mogensen」(~17100327)
- 1708年12月2日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|宝永5年10月21日|<死去>伊達宗純(73歳)前伊予吉田藩主
- 1708年12月3日-09:00|日本| ||宝永5年10月22日|<死去>林道栄(69歳)唐通事、書家
- 1708年12月4日-09:00|日本| ||宝永5年10月23日|江戸・幕府が乗り馬・引き馬・伝馬などの馬の愛護を命じる(生類憐みの令)
- 1708年12月5日-09:00|日本|東京都|宝永5年10月24日|<死去>関孝和、数学者・和算の祖(67歳, 生年1642年)
- 1708年12月6日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| ||<就任>グアラソ島トリア長官「Rodrigo Sanches Farinha e Baeana」(~17300919死去)
- 1708年12月10日-09:00|日本|長崎県平戸市|宝永5年10月29日|<死去>平戸新田藩1万石「松浦邑」(39歳)⇒12月27日、長男「松浦鄰」が継ぐ(⇒享保13(1728)年9月24日、24歳で死去)
- 1708年12月20日-09:00|日本| ||宝永5年10月29日|<死去>5代石村近江(不明)三味線製作者
- 1708年12月21日-01:00|フランス/イギリス/アメリカ| ||フランス・インディアン連合軍が、イギリス領植民地セントジョンを攻略
- 1708年12月21日-09:00|日本| ||宝永5年11月10日|<死去>立花実山(立花重根)(54歳)福岡藩家老、茶人、黒田綱政の命により殺害
- 1708年12月22日-02:00|ウクライナ| ||<復位>クリミア・ハン国ハン「テウレト2世ギレイ」(2期目~1713.4)
- 1708年12月24日 04:00|ポルトリコ/スペイン| ||<就任>ポルトリコ知事兼提督「Francisco Danio Granados」(1期目~1710718)
- 1709年-06:30|ミャンマー/イギリス| ||イギリス東インド会社がビルマに支店を再開
- 1709年-05:30|インド| ||<就任>アスカル国ラジャ「カラン・ラマ・クリシュナ・パワラ・パトナイク」(~1741年)
- 1709年-05:30|インド| ||<就任>カンパラ国ラジャ「ハランケシュワル・シン・マンラージ」(~1723年)
- 1709年-05:30|インド| ||<就任>シルムル国ラジャ「フツッ・フラシュ」(~1713年没)
- 1709年-05:30|インド| ||<就任>スルガジャ国ラジャ「バルハト・ラ・シン・テオ」(~1728年)
- 1709年-05:30|インド| ||<就任>チャヤ国統治者(ラ)「キモ」3世」(~1728年没)
- 1709年-05:30|インド| ||<就任>ハスター国ラジャ「ラージ・ハル・テオ」(~1721年)
- 1709年-05:30|インド| ||<就任>ハンガール国ラジャ「ブリスヴィ・ハル」(~1720年)
- 1709年-05:30|インド| ||<就任>ムガル帝国カミール総督「イブラヒム・カーン」(2回目~同年)⇒「ナワジ・シュ・カーン・ルミ」(2回目~1711年)
- 1709年-05:30|インド| ||<即位>ゴワ・スルタン「La Pareppa Tosappe Wali Sultan Ismail」(~1711年)
- 1709年-05:00|ウズベキスタン/カザフスタン/キルギス/タジキスタン| ||<即位>ココンド・ハン国ベイ「シャールフ・ヒール」(~1722年死去)
- 1709年-04:30|アフガニスタン/イラン| ||カンダハールのアフガン族がイランから独立
- 1709年-04:00|ジョージア| ||<就任>カトリ提督「ウ・アフタンク」(2回目~1711年)
- 1709年-04:00|ロシア| ||ロシアで牛疫が発生し、ヨーロッパにも伝染
- 1709年-03:00|イラク/トルコ| ||<就任>ハスラ・ウリス「ハチクリン・ハサン・ハシヤ」⇒「カラ・ムスタファ・ハシヤ」(~1711年)
- 1709年-02:00|ブルンジ| ||<死去>ブルンジ王国国王「ンタレ3世ルシツイ」
- 1709年-02:00|ルーマニア| ||<就任>トランシルヴァニア総督「ステイヴン・ハラー・ハルコイ」(国会会長~17100502没)
- 1709年-02:00|リトアニア/ポーランド| ||<譲位>ポーランド・リトアニア共和国王「スタニスワフ・レシチニスキ(スタニスワフ1世)」
- 1709年-02:00|ブルンジ| ||<即位>ブルンジ王国国王「ムウシ3世ンタレグシエ」(~1739年頃没)
- 1709年-02:00|リトアニア/ポーランド| ||<復位>ポーランド・リトアニア共和国王「アウグスト2世モツィ」(~17330201)
- 1709年-01:00|スペイン| ||<就任>アストurias公(スペイン国王の推定相続人)「ルイス・マルガリータ・テレザの姉マリー・テレザの曾孫、後のスペイン王ルイス1世」(~17240831死去)
- 1709年-01:00|スペイン| ||<就任>スペイン領セウラ総督「Gonzalo Chacon y Orellana Mendoza de Toledo Sandoval y Rojas」(~1715年)
- 1709年-01:00|フランス| ||<就任>ブルボン公「ルイ4世アンリ」(~1736年)
- 1709年-01:00|ポズニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| ||<就任>ポズニア総督「セファ・ハシヤ」⇒「カライン・アリ・ハシヤ」(~1711年)
- 1709年-01:00|ロシア| ||<即位>オスマン帝国フェザン・スルタン「アフマド1世」(~1767年)
- 1709年-01:00|コンゴ共和国/コンゴ民主共和国| ||コンゴのペドロ4世が王国を再統一
- 1709年-01:00|ドイツ| ||ロシアで大規模な飢饉となる
- 1709年-01:00|ドイツ| ||ベッガがマイセン城内に磁器製作所をつくる
- 1709年 00:00|セネガル| ||<就任>ワタ・ト・口統治者(デナケ・サイギ)「ブバ・カール・シレ」(1回目~1710年頃)
- 1709年 00:00|カナダ/ドイツ| ||<就任>プロシエン・ゴールドコースト司令官「ハーモン・ストックホルム」(~同年)⇒「フランス・ト・ラング」(~1710年)
- 1709年 04:00|マルティニーク/フランス| ||<死去>フランス領アンティル総督「Charles-Francois de Machault de Bellefont」
- 1709年 04:00|グレタ/フランス| ||<就任>グレタ総督「ローランド・ヴァレル」(~1710年)
- 1709年 05:00|パナマ/スペイン| ||<就任>パナマ大審問院総督・長官「ファン・ハウティスタ・デ・ウレタ・エ・イルスタ」(~1710年)
- 1709年 06:00|アメリカ/イギリス| ||<就任>イギリス領ニューヨークおよびニュージャージー総督「リチャード・インゴールズ・ヒール」(~1710年)
- 1709年 06:00|アメリカ/イギリス| ||<就任>イギリス領ベニヤン植民地総督「チャールズ・グッキン」(~1717年)

1710迄 (1555件)

- 1709年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領メキシコ植民地総督「エドワード・ロイド」(~1714年)
- 1709年 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>マヤ州総督「アントニオ・デ・モンフォル」(2回目~1712年)
- 1709年1月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Baltaci Mehmed Pasha」(~1710年)
- 1709年1月3日-09:00|日本|大分県杵築市|宝永5年11月23日|<交替>豊後杵築藩32000石「松平重栄」隠居⇒次男「松平重休」が継ぐ(⇒正徳5(1715)年8月10日、25歳で死去)
- 1709年1月7日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領アンティル総督「Gabriel Jean Nicolas de Gabaret」(2回目~1710年)
- 1709年1月7日-07:00|日本|愛媛県松山市|宝永5年11月27日|松山藩領三津浜大火、360軒余を焼失
- 1709年1月27日 04:00|リベリア/スペイン| |||<就任>リベリア総督「ファン・アントニオ・デ・ウスタリス・デ・ガエルティス・レア」(~17161223)
- 1709年1月31日-09:00|日本| ||宝永5年12月21日|<死去>安倍季尚(87歳) 雅楽家
- 1709年1月31日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|宝永5年12月21日|<死去>伊達宗利(75歳) 前伊予宇和島藩主
- 1709年2月-05:30|インド| |||<就任>サウジアラビア国統治者(サル・テ・サイ)「フォン・サウ2世」(~17380102没)
- 1709年2月-03:00|ペルー/ロシア| |||ミンスクがロシアに占領された(~1710年)
- 1709年2月8日-07:00|日本|大阪府大阪市|宝永5年12月29日|<大坂宝永5年の大火「道修町焼」>(~30日) 深夜、丑の刻(午前2時ごろ) 道修町筋淀屋橋南横町より出火、東堀へ飛び火し上町大川筋八軒屋へ延焼/東は天満橋お城際の馬場まで、南は鍵屋町あたりまで焼けた/船場北は過書町まで、西は淀屋橋筋を限り焦土となった/平野町、道修町、伏見町、高麗橋筋浮世小路、今橋筋、堺筋から東へ右側は東横堀まで、丑の刻過ぎから延焼し出し、翌日おみそかの夜半過ぎごろまでと、丸一昼夜焼けに焼けて鎮火/被害は65町、1501軒、世帯数にして7491軒、土蔵202か所、寺15か所、神社2か所、高麗橋、今橋、平野橋など橋3か所を焼いた
- 1709年2月10日-09:00|日本| ||宝永6年|<刊行>儒学者・貝原益軒「大和本草」
- 1709年2月10日-09:00|日本| ||宝永6年|この年、河井乙州が松尾芭蕉の紀行文「笈(おい)の小文」刊行
- 1709年2月10日-08:00|中国| ||清・康熙48年|<死去>ハミ郡ハン「ウハ・イトゥラー」
- 1709年2月10日-08:00|中国| ||清・康熙48年|<即位>ハミ郡ハン「コハ・ベグ」(~1711年、死去)
- 1709年2月15日-01:00|アンゴラ/コンゴ 共和国/コンゴ 民主共和国/ガボン| ||年末|<即位>コンゴ 王国マニコンゴ「ヒョートル4世」ム・ムンバ」再統一(~17180221没)
- 1709年2月19日-09:00|日本|東京都千代田区|宝永6年1月10日|<死去>江戸幕府第5代将軍・徳川綱吉が、はしかの不養生により(正室信子に刺し殺されたとの説もある)/64歳(誕生:正保3(1646)0108) 生類憐みの令のため犬公方と言われた
- 1709年2月19日-09:00|日本|東京都千代田区|宝永6年1月10日|<就任>老中「小笠原長重」(~宝永7年5月18日)
- 1709年2月19日-09:00|日本|東京都千代田区|宝永6年1月10日|<就任>老中「本多正永」(~宝永8年4月2日)
- 1709年2月22日-09:00|日本|兵庫県たつの市|宝永6年1月13日|<交替>播磨龍野藩53000石「脇坂安照」隠居⇒長男「脇坂安清」が継ぐ(弟「安利」に2000石分与し51000石⇒享保7(1722)年2月9日、死去)
- 1709年2月26日-09:00|日本| ||宝永6年1月17日|幕府が宝永通宝10文銭の鑄造を停止
- 1709年2月27日-09:00|日本|岐阜県海津市|宝永6年1月18日|<死去>美濃今尾藩3万石「竹腰正映」(21歳) 尾張藩家老⇒3月22日、養子「竹腰正武」が継ぐ(⇒宝暦9(1759)年12月8日、死去)
- 1709年3月-05:45|ネパール| |||<死去>リタプラー王「ジヤエントラマ」
- 1709年3月-05:45|ネパール| |||<即位>リタプラー王「ジヤヤハントラマ」(1回目)⇒「ジヤヤヒララシンハマラ」⇒「ジヤヤハントラマ」(2回目~17150121)
- 1709年3月1日-09:00|日本| ||宝永6年1月20日|幕府が生類憐みの令を廃止
- 1709年3月6日-01:00|イタリア| |||<死去>ヴェネツィア共和国トージエ(元首)「アルヴィゼ・モチェニコ2世」
- 1709年3月9日 00:00|イギリス| |||<死去>初代モンギュー公・初代モンサマー侯「ラルフ・モンギュー」
- 1709年3月9日 00:00|イギリス| |||<就任>2代モンギュー公・2代モンサマー侯「ジョン・モンギュー」(~17490705死去爵位廃絶)
- 1709年3月11日-09:00|日本|兵庫県豊岡市|宝永6年2月1日|<死去>京極高盛(60歳) 前但馬豊岡藩主
- 1709年3月26日-09:00|日本|石川県加賀市|宝永6年2月16日|<改易>加賀大聖寺新田藩1万石「前田利昌」大和柳本藩主織田秀親を殺害(18日、切腹)
- 1709年3月26日-09:00|日本|奈良県天理市|宝永6年2月16日|<死去>大和柳本藩1万石「織田秀親」加賀大聖寺新田藩主「前田利昌」に殺害された(48歳)⇒4月12日、弟「織田成純」が継ぐ(⇒享保9(1724)年12月3日、隠居)
- 1709年3月28日-09:00|日本|石川県加賀市|宝永6年2月18日|<死去>前田利昌、織田秀親を刺殺したため切腹(26歳) 元加賀大聖寺新田藩主
- 1709年4月1日-01:00|フランス| |||<死去>アンギャン公「アンリ1世」兼ギーズ公「アンリ3世」
- 1709年4月1日-01:00|フランス| |||<就任>アンギャン公「ルイ1世」兼ギーズ公「ルイ2世」(~17100304死去)
- 1709年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャン・ジヤコモ・アンジェリ」「フランチェスコ・ジャンジ」
- 1709年4月8日-09:00|日本| ||宝永6年2月29日|幕府、流罪となった赤穂浪士の遺族たちを赦免
- 1709年4月10日-09:00|日本| ||宝永6年3月1日|家宣が、幕府高官への贈り物禁止令を出す
- 1709年4月10日-09:00|日本|山口県下関市|宝永6年3月1日|<死去>長門長府藩5万石「毛利綱元」(60歳)⇒嫡孫「毛利元朝」が継ぐ(⇒正徳2(1712)年10月23日、宗家長州藩嗣子となる)
- 1709年4月11日-09:00|日本| ||宝永6年3月2日|幕府が、歌舞伎役者が外出時に帯刀し、紗綾・縮緬を着用することを禁じる
- 1709年4月16日 00:00|カナリア諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カナリア諸島総司令官「Fernando Chacon Medina y Salazar」(~1713年)
- 1709年4月19日 00:00|サントメ・プリンシペ/フランス| |||<就任>サントメ植民地総督「Parent」フランス司令官(~5. 15)
- 1709年4月19日 00:00|サントメ・プリンシペ/フランス| |||フランスがサントメを占領(~5. 15)

1710迄 (1555件)

- 1709年4月21日-04:30|アガニスタン| |||<即位>ホーネー朝首長「ミールワイ・ホーク」サアビ朝から独立(~1715.11死去)
- 1709年4月21日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿「ウートン男爵トマス・ウートン」(~17110703)
- 1709年4月30日-09:00|日本|奈良県奈良市|宝永6年3月21日|東大寺大仏殿再建
- 1709年5月-07:00|タイ| |||<死去>アユタヤ王朝第32代国王「サンハット8世スリエンターテイホーデー」
- 1709年5月-07:00|タイ| |||<即位>アユタヤ王朝第33代国王「サンハット9世プーミンターチャー」(~17321209死去)
- 1709年5月2日-04:00|ジョージア| |||<即位>カトリ王「レヴァン」(~7月)
- 1709年5月2日-09:00|日本|三重県亀山市|宝永6年3月23日|<死去>伊勢亀山藩5万石「板倉重冬」(38歳)⇒長男「板倉重治」が継ぐ(⇒宝永7(1710)年1月26日、志摩鳥羽藩に移封)
- 1709年5月3日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦:1709/4/22|イギリスの新旧東インド会社が合併し合同東インド会社設立
- 1709年5月4日 05:00|エカトル/イギリス| |||イギリスの私掠船ウィリアム・ダンピアとウッズ・ロジャースがグアヤキルを攻撃し、略奪
- 1709年5月6日-01:00|イタリヤ| |||<死去>ヴェネツィア共和国トージェ第110代「アルヴィゼー・モエネーゴ」2世
- 1709年5月6日-09:00|日本|大分県中津市|宝永6年3月27日|<死去>小笠原長胤(42歳)元豊前中津藩主
- 1709年5月15日-09:00|日本|群馬県高崎市|宝永6年4月6日|<拝領>上野吉井藩1万石「松平(鷹司)信清」(⇒享保9(1724)年5月19日、36歳で死去)
- 1709年5月16日 04:00|日本|福島県会津若松市|宝永6年4月7日|<会津若松宝永6年の大火>屋九つ半時(13時ごろ)、馬場二町にある長右衛門宅から出火、各所で燃え上がった/大町から馬場町、甲賀町、六日町、槻木町へ、愛宕町から鳥井町、屋敷町、横町、浄光寺町へ、台之町から阿弥陀町、天寧寺町、徒/町、御菜園、宿屋敷町講所へと城下各町々を灰とした/そのほか願成就院、浄光寺、法林寺、井上浄光寺、明光寺、延寿院、一乗寺、正教寺、宝蔵院、正福寺など寺々が全焼/夕七時半時(17時半ごろ)鎮火/被災したのは、町屋829軒、御家人屋敷270軒、寺院は上記10軒が全焼、半焼7軒、消火のための漬家13軒
- 1709年5月22日-01:00|イタリヤ| |||<就任>ヴェネツィア共和国トージェ(元首)「ジョヴァンニ・コルネーリ」2世(~17220812死去)
- 1709年5月25日-09:00|日本|東京都千代田区|宝永6年4月16日|<就任>老中格「(御用人)間部詮房」/1万石加増⇒3万石
- 1709年5月26日-09:00|日本|奈良県大和郡山市|宝永6年4月17日|<死去>大和国郡山藩12万石「本多忠常」(49歳)⇒甥「本多忠直」が継ぐ(⇒享保2(1717)年5月8日、48歳で死去)
- 1709年6月 00:00|サントメ・プリンシパル/ポルトガル| |||<就任>サントメ植民地総督「政府委員会」(~17150624)
- 1709年6月3日-09:00|日本|愛知県刈谷市|宝永6年4月25日|<交替>三河刈谷藩16000石「阿部正春」隠居⇒六男「阿部正鎮」が継ぐ(⇒翌年5月25日、上総佐貫16000石へ移封)
- 1709年6月8日-09:00|日本| ||宝永6年5月|熊沢蕃山の政経論書「集義外書」刊行
- 1709年6月8日-09:00|日本| ||宝永6年5月|幕府が現糸割符法を停止
- 1709年6月8日-09:00|日本|東京都千代田区|宝永6年5月1日|<就任>第6代征夷大将軍「徳川家宣」綱吉の悪政から解放されると、一身に期待を集める(~正徳2(1712)年10月14日)
- 1709年6月12日-09:00|日本| ||宝永6年5月5日|<死去>三井高富(56歳)豪商
- 1709年6月17日 00:00|フェロ諸島/デンマーク| |||<就任>フェロ諸島領土執行使(トスハウ)「Jorgen Christian Klein」(~17150724)
- 1709年6月17日 00:00|フェロ諸島/デンマーク| |||フェロ諸島はデンマーク王が再び所有権を取得
- 1709年6月25日-01:00|ドイツ| |||<死去>ハノーファー領辺境伯「フリートリヒ」7世
- 1709年6月25日-01:00|ドイツ| |||<就任>ハノーファー領辺境伯「カール3世グエイルヘルム」(~17380512死去)
- 1709年7月-04:00|ジョージア| |||<即位>カトリ王「カイホロ・ハーン」(~17111008没)
- 1709年7月5日-09:00|日本|山梨県甲府市|宝永6年5月28日|<交替>甲斐甲府藩15万1200石「柳沢吉保」隠居⇒6月3日、長男「柳沢吉里」が継ぐ(⇒享保9(1724)年3月11日、大和国郡山藩へ移封)
- 1709年7月8日-02:00|ウクライナ/スウェーデン/ロシア| |||<ホルヴァアの戦い>東ウクライナのホルヴァアでカール・グスタフ・レーンスケルト率いるスウェーデン軍と、ピョートル1世率いるロシア軍が交戦し、ロシア軍が勝利
- 1709年7月9日-09:00|日本|東京都千代田区|宝永6年6月3日|<解任>大老「柳沢吉保」
- 1709年7月9日-09:00|日本|山梨県甲府市|宝永6年6月3日|<立藩>甲府新田藩1万石「柳沢経隆」(⇒享保9(1724)年間4月28日、越後黒川藩に移封)
- 1709年7月9日-09:00|日本|山梨県甲府市|宝永6年6月3日|<立藩>甲府新田藩1万石「柳沢時睦」甲府藩より分与(⇒享保9(1724)年3月11日、越後三日市藩へ移封)
- 1709年7月11日-09:00|日本|福島県相馬市|宝永6年6月5日|<交替>陸奥中村藩6万石「相馬叙胤」隠居⇒養子「相馬尊胤」が継ぐ(⇒明和2(1765)年5月21日、隠居)
- 1709年7月13日 00:00|カナダ/フランス| |||<就任>フランス領コロニー=コスタ総裁「エイトリアン・ビュティエ」(~17110316在任中死去)
- 1709年7月15日 04:00|BES諸島/フランス| |||<就任>セント・ユスティウス島司令官「Isaac Lamont」(2期目~11.25)
- 1709年7月16日-04:00|ロシア| |||<就任>全ロシア首相「ガラフ・ガウリル・イワノヴィッチ・ゴロフキン」(~17340131)
- 1709年7月23日-01:00|ベルギー| |||<就任>ベルギー行政官(リンブルク+リエージュ総督)「ヨハン・ウエンツェル・グラーフ・フォン・カラス」(~17100225)
- 1709年7月24日-09:00|日本|茨城県古河市|宝永6年6月18日|<交替>下総古河藩7万石「松平信輝」隠居⇒長男「松平信祝」が継ぐ(⇒正徳2(1712)年7月12日、三河吉田藩7万石に移封)
- 1709年7月27日-09:00|日本|京都府京都市|宝永6年6月21日|<就任>摂政「近衛家熙」(~正徳2年8月28日)
- 1709年7月27日-09:00|日本|京都府京都市|宝永6年6月21日|<譲位>113代「東山天皇」
- 1709年7月27日-09:00|日本|京都府京都市|宝永6年6月21日|<踐祚>114代「中御門天皇」/宝永7年11月11日即位式
- 1709年8月8日-01:00|ポーランド/リトアニア| |||<退位>ポーランド王・リトアニア大公「スタニスワフ」1世

1710迄 (1555件)

- 1709年8月8日-01:00|ポ-ランド/リトニア| |||<復位>ポ-ランド 王・リトニア大公「アウグスタス2世強健王」(2回目~17330201死去62歳)
- 1709年8月10日-09:00|日本|福岡県北九州市|宝永6年7月5日|<死去>小倉新田藩(篠崎屋敷)1万石「小笠原真方」小豆島沖において暴風雨で船が遭難し溺死(58歳)⇒甥「小笠原貞通」が継ぐ(⇒延享4(1747)年正月5日、死去)
- 1709年8月18日-09:00|日本|沖縄県|宝永6年7月13日|<死去>琉球国王「尚貞」
- 1709年8月25日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<死去>スペイン領フィリピン諸島総督「トミンゴ・サハルブル・デ・エフェバリ」
- 1709年8月25日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン諸島総督「マルティン・デ・ウルスア」(~17150204死去)
- 1709年8月28日-05:30|インド| |||<就任>マニラ国ラジャ「ガリア・ナズ・ハムヘバ」(~1747年没)
- 1709年9月-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(ヨロモ朝)対立皇帝「アマタ・セヨ」(~同月)⇒「ネハ-ン・ヨハネ」(~1710年7月)
- 1709年9月1日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事「Juan Antonio Pimentel」(~17201121)
- 1709年9月3日 06:00|アメリカ| |||カライバ領主がスイスとドイツ移民に1万3500エーカーを下付
- 1709年9月3日-09:00|日本|広島県竹原市|宝永6年7月29日|賀茂郡下市村新町出火, 126軒焼失
- 1709年9月4日-09:00|日本| |||宝永6年8月|貝原益軒の本草書「大和本草」刊行
- 1709年9月4日-09:00|日本|岐阜県山県市|宝永6年8月|<藩庁移転>美濃岩滝藩1万石「本庄道章」⇒美濃高富藩1万石(⇒享保10(1725)年7月27日、43歳で死去)
- 1709年9月10日-04:00|レユニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島司令官「Francois Michel Marschalck des Bordes」(~17100324)
- 1709年9月11日-01:00|ベルギー/フランス| |||マルバラの戦い/マルバラ公ジョン・チャーチル率いる同盟軍が、スペイン領ネーデルラントでフランス軍を破る
- 1709年9月14日-01:00|イタリヤ| |||<就任>ジェノヴァ共和国トージェ「ウー・インセンゾ・デ・ユラツ」(~17110914)
- 1709年9月19日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿代行判事「リチャード・フリーマン(17101120まで)/リチャード・インゴルスビー/アーサー大司教カシサ・マシュ(17101128-17110122)/コンスタンティン・フィップス卿(17110122から)」(~17110703)
- 1709年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジヨヴァンニ・アントニオ・ベッリツィ」「ジヨヴァンニ・アントニオ・ファットーリ」
- 1709年10月3日-09:00|日本|東京都|宝永6年9月|絵師英一蝶が赦免され, 三宅島から江戸に帰る
- 1709年10月4日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「アントニオ・デ・サルダニャ・デ・アルバカーキ・カストロ・エ・リハリア」(~17130222)
- 1709年10月9日 00:00|イギリス| |||<死去>初代クレーヴランド 女公「ハ-バ-ラ-ハ-マー」
- 1709年10月9日 00:00|イギリス| |||<就任>2代クレーヴランド 公「チャールズ・フィッツロイ」初代サンプトン公・初代チェスター伯(~17300909死去)
- 1709年10月14日-08:00|中国| |||寧夏、中衛地震/M7. 5、死者2, 000人
- 1709年10月15日-09:00|日本|新潟県村上|宝永6年9月13日|<死去>越後村上藩15万石「本多忠孝」(12歳)⇒21日、養子「本多忠良」が継ぐ(⇒宝永7(1710)年5月25日、三河刈谷藩5万石に減移封)
- 1709年10月17日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督代行「イヴァン・ブフス」(2回目~17100125)
- 1709年10月17日 00:00|サントメ・プリンセ/ポルトガル| |||<就任>サントメ植民地総督「Vicente Dinis Pinheiro」(~1710. 6死去)
- 1709年10月20日-09:00|日本|島根県浜田市|宝永6年9月18日|<交替>石見浜田藩5万石「松平康員」隠居⇒養子「松平康豊」が継ぐ(⇒享保20(1735)12月5日、死去)
- 1709年10月23日-02:00|エストニア| |||<就任>エストニア総督「カール・グスタフ・グリーヴ・ニエロト」(~17101010)
- 1709年10月28日-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「モラル・イブラヒム・ハシヤ」(~1710年8月、解雇後、スルタンによって投獄され、追放された)
- 1709年10月30日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>オランダ 領東インド 総督「アブラハム・van Riebeeck」(~17131117死去)
- 1709年10月31日 00:00|イギリス| |||<死去>2代クレンドン伯「ヘンリー・ハイト」
- 1709年10月31日 00:00|イギリス| |||<就任>3代クレンドン伯「エドワード・ハイト」(~17230331死去)
- 1709年11月 00:00|ポルトガル| |||ポルトガルがブラジル移民を制限する政令を發布
- 1709年11月4日-02:00|ラトヴィア/ポ-ランド| |||<就任>ポ-ランド・リヴォニア総督「ヨゼフ・ミコワジ・コス」(~1713年2月)
- 1709年11月23日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ポ-トランド 伯「ウィリアム・ベントンク」
- 1709年11月23日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ポ-トランド 伯「ヘンリー・ベントンク」(⇒17160706初代ポ-トランド 公~17260704死去)
- 1709年11月25日 04:00|BES諸島/フランス| |||<就任>セント・ユースタティウス島フランス司令官「Philippe Plessis」(~12. 1)
- 1709年11月25日 04:00|BES諸島/フランス| |||セント・ユースタティウス島をフランスの民間人占領(~12. 1)
- 1709年11月26日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領サカライバ植民地総督「エドワード・テイント」(~17100626)
- 1709年11月29日 00:00|イギリス| |||<死去>2代カーナヴァン伯「チャールズ・トーマ」断絶
- 1709年12月1日 04:00|BES諸島/フランス| |||<就任>セント・ユースタティウス島司令官「Isaac Lamont」(3期目~同月)⇒「Jan Si monsen Doncker」(3期目~17130124)
- 1709年12月1日-09:00|日本|沖縄県|宝永6年冬|翌年にかけて琉球で大飢饉。2000人余餓死
- 1709年12月1日-09:00|日本|福井県福井市|宝永6年11月|福井の浄光院, 運正寺と改称
- 1709年12月1日-09:00|日本|京都府京都市|宝永6年11月1日|<死去>初代坂田藤十郎(63歳)歌舞伎役者
- 1709年12月10日 00:00|イギリス| |||<死去>サフォーク伯「ヘンリー・ハワード」
- 1709年12月10日 00:00|イギリス| |||<就任>サフォーク伯「ヘンリー・ハワード」ピントン伯(~17180919死去)
- 1709年12月15日-09:00|日本|島根県益田市|宝永6年11月15日|<死去>松平綱近(51歳)元出雲松江藩主
- 1709年12月19日-09:00|日本|佐賀県鹿島市|宝永6年11月19日|<死去>鍋島直朝(88歳)前肥前鹿島藩主

1710迄 (1555件)

- 1709年12月20日-09:00|日本|福井県越前市|宝永6年11月20日|<死去>越前高森藩2万石「松平(本庄)宗長」(23歳)
⇒弟「松平宗胡」が嗣ぐ(⇒正徳元(1711)年11月25日、死去無嗣断絶)
- 1709年12月31日-09:00|日本|群馬県館林市|宝永6年12月|<加増>上野国館林藩24000石「松平清武」+1万石⇒34000石(⇒正徳2(1712)年12月、2万石加増され54000石)
- 1710年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| ||<就任>ティモール知事「マヌエル・デ・ソト・マイオール(ソット市長)」(~1714年)
- 1710年-08:00|インドネシア/イギリス| ||<就任>ベンケレン副総督(マドラス総督に従属)「Jeremiah Harrison -Supervisor」(~同年)⇒「アンソニー・Ettricke」(~1711年死去)
- 1710年-08:00|インドネシア/オランダ| ||<就任>モルッカ諸島オランダ総督「デヴィット・van Petersom」(~1715年)
- 1710年-08:00|フィリピン| ||<即位>スール王国スルタン「Sultan Mustafa Shafi ud-Din」(~1718年)
- 1710年-08:00|ブルネイ| ||<即位>ブルネイ・スルタン「フシ・カマルディン」(1回目~1730年)
- 1710年-08:00|インドネシア| ||<就任>パタニア市役所を建て替え/この建物は現存(現ジャカルダ歴史博物館)
- 1710年-07:00|カンボジア| ||<即位>カンボジア王国国王「アン・ム」(~1722年)
- 1710年-07:00|タイ| ||<即位>パタニ王国第13代国王ラジャ・デウィ(~1719年)
- 1710年-07:00|カンボジア/ベトナム| ||カンボジアはベトナムの家臣(~1720年)
- 1710年-05:30|インド| ||<就任>アカット国支配者「モハマト・サダトゥッラー・カーン1世」(~1732年没)
- 1710年-05:30|インド| ||<就任>カチャリ国ラジャ「スラタム・ナヤン」(~1730年)
- 1710年-05:30|インド| ||<就任>コト・カアラ国支配者「スカ・シン」(~1731年没)
- 1710年-05:30|インド| ||<就任>コルハール国統治者(ラジャ・チャトラパティ)「シヴァージー-1世(元サタラ統治者)」建国(~17140802)
- 1710年-05:30|インド| ||<就任>ラムナト国ラジャ「ムトゥ・ウイジャヤラガナタ・セトゥパティ」(~1725年)
- 1710年-05:30|インド| ||<即位>カナータ太守「サアダトゥッラー・ハーン」(~1732年死去)
- 1710年-05:30|インド| ||<退位>カナータ太守「ダーウード・ハーン・ハルニー」
- 1710年-05:00|パキスタン| ||<就任>フンザ国ミル・タム「シハブ・カーン」(~1740年)
- 1710年-05:00|ウズベキスタン| ||<即位>コーカンド(フェルガナ)ベク「Shah Rukh Biy」(~1721年死去)
- 1710年-05:00|パキスタン| ||<即位>パルティスタン国王「モハマト・ラフィ」(~1745年)
- 1710年-05:00|ウズベキスタン| ||フェルガナでシャー・ルフがコーカンド・ハン国を樹立
- 1710年-04:00|ジョージア| ||<就任>ミンゲレリア公「シヨルジ4世パルティアニ」(2回目~1714年)
- 1710年-04:00|ロシア/中国| ||中国(満州)がサハリヤン(サハリン)に遠征隊を派遣
- 1710年-04:00|ロシア/トルコ| ||オスマン朝がスウェーデン軍を支援し、バルトでロシア軍と戦闘
- 1710年-04:00|モリシャス/オランダ| ||オランダがモリシャス諸島の領有を放棄
- 1710年-03:00|クウェート| ||<設立>クウェート市
- 1710年-03:00|エチオピア| ||<即位>カファ帝国カフィ・アティオ「ガキ・ガチヨ」(~1742年)
- 1710年-03:00|ウガンダ| ||<即位>ブニョロキタ王「Olimi 3世 Isamna」(~1731年死去)
- 1710年-03:00|マダガスカル| ||<即位>メリナ王国君主「King Andriantsimitoviaminiandriana Andriandrazaka」(~1730年)
- 1710年-02:00|ザンビア| ||<就任>カゼンバ統治者(ムワ・カゼンバ)「カゼンバ・インガナ・レロンダ」建国(~1740年頃)
- 1710年-02:00|フィンランド/ロシア| ||北方戦争でフィンランド全土をロシアが占領
- 1710年-01:00|オランダ| ||<就任>ベルゲン・オブ・ズーム総督「コラート・ウイラムファン・デ・テム」(~1714年没)
- 1710年-01:00|ドイツ| ||<就任>ロイスローベッシュタイン伯「Heinrich15世」(~1739年)
- 1710年-01:00|クロアチア| ||<即位>ホルツァ大公「イワン・パリッチ」(~1712年)
- 1710年-01:00|アルジェリア| ||アンハ(ホーン)はアルジェに併合される
- 1710年-01:00|スペイン/バオア| ||スペイン人がカリソ諸島を発見し上陸
- 1710年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| ||<就任>カチュ司令官「マヌエル・ロペス・ロホ」(~1712年)
- 1710年 00:00|セカール| ||<就任>フクトーロ統治者「デナンク・サティギ」 「ジェラホ・ジ・キ」(~1718年頃)
- 1710年 00:00|カナダ/ドイツ| ||<就任>プロイセン・ゴールド=コスト司令官「ニコラス・デュホア」(~1716年)
- 1710年 00:00|セカール/フランス| ||<就任>ルアン社セカール局長「ギヨーム・ジョセフ・ムステリエ」(~17110815没)
- 1710年 04:00|モントセラト/イギリス| ||<就任>イギリス植民地モントセラト副総督「John Pearney」(~1713年)
- 1710年 04:00|バルバドス/イギリス| ||<就任>イギリス領バルバドス総督代理「George Lillington」(~1711年)
- 1710年 04:00|マルティニーク/フランス| ||<就任>フランス領アンティル総督「Raymond Balthazar de Phelipeaux du Verger」(~1713.10死去)
- 1710年 05:00|パナマ/スペイン| ||<就任>パナマ大審問院総督・長官「ファン・デ・ラ・ラニエタ・イ・ベラ」(~1711年)
- 1710年 05:00|ハイチ/フランス| ||<就任>フランスのサント・ミゴ総督「ジャン・ピエール・ド・シャリット」(2回目~17110207)
- 1710年 06:00|アメリカ/イギリス| ||<就任>イギリス領ニューヨークおよびニュージャージー総督「ロバート・ハンター」(~1720年)
- 1710年 06:00|エルサルバドル/スペイン| ||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル、サン・ビセンテ州暫定市長兼副司令官「フランシスコ・ド・リケス・フランコ」(~1715年)
- 1710年1月10日 00:00|イギリス| ||<死去>エセックス伯「アルジャーノン・カール」
- 1710年1月10日 00:00|イギリス| ||<就任>エセックス伯「ウィリアム・カール」(~17430108死去)
- 1710年1月10日-09:00|日本|京都府京都市|宝永6年12月11日|幕府が禁裏御所方火消を新たに設け、京都定火消を再置
- 1710年1月16日-09:00|日本|京都府京都市|宝永6年12月17日|<死去>113代「東山天皇」天然痘のため(35歳、延宝3(1675)0903生)
- 1710年1月19日 03:00|スリナム/オランダ| ||<就任>オランダ領スリナム(オランダ西インド会社)総督「ヨハント・ゴイジエ」(~17150728)

1710迄 (1555件)

)

- 1710年1月25日-02:00|ル=マニア| |||<就任>モルダウイア総督「ニコラエ・アレクサンドル・マウロロダット」(1回目~11.23)
- 1710年1月30日-09:00|日本| ||宝永7年|この年、貝原益軒の「和俗童子訓」刊行
- 1710年1月30日-09:00|日本| 沖縄県|宝永7年|<即位>琉球国王「尚益」(~17120816死去)
- 1710年1月30日-09:00|日本| ||宝永7年1月|<死去>2代志水甚五(91歳)装剣金工
- 1710年2月15日-08:00|マレーシア| |||<死去>ケダ・スルタン国スルタン「アマト・タジュティン・ハリム・シャー」1世・イブニ・アル=マルフム・スルタン・アブドラー=アル=ムアッザム・シャー
- 1710年2月15日-08:00|マレーシア| |||<即位>ケダ・スルタン国スルタン「ムハンマド・シワザイナル・アジリン・ムアッザム・シャー」2世イブニ・アル=マルフム・スルタン・アブドラー=アル=ムアッザム・シャー(~17780923没)
- 1710年2月15日-01:00|フランス| |||<即位>アンジュー公「ルイ4世」兼フランス王太子/ブルゴニユ公ルイとマリー・アデライード・ド・サヴォワの三男(~17150901~17740510死去64歳)
- 1710年2月17日-04:00|モリシヤス/オランダ| |||オランダがモリシヤス植民地放棄
- 1710年2月22日-01:00|ノルウェー/デンマーク| |||<就任>ノルウェー総督代行「ハンス・エルスト・フォン・トリツェラー」(~8.26)
- 1710年2月24日-09:00|日本| 三重県亀山市|宝永7年1月26日|<移封>志摩鳥羽藩6万石「松平乗邑」⇒伊勢国亀山藩6万石(⇒享保2(1717)年12月、山城国淀藩6万石に移封)
- 1710年2月24日-09:00|日本| 三重県鳥羽市|宝永7年1月26日|<移封>伊勢亀山藩5万石「板倉重治」⇒志摩鳥羽藩5万石(⇒享保2(1717)年11月、伊勢亀山藩へ再移封)
- 1710年2月25日-01:00|ベルギー-| |||<就任>ベルギー-行政官(リンブルク+リエージュ総督)「フランツ・アドルフ・フライヘル・フォン・ジンザーリンゲン」(~17131027)
- 1710年3月-01:00|アルジェリア| |||<就任>アルジェのデイ「テリ・イブラヒム2世」(~6.17)
- 1710年3月4日-01:00|フランス| |||<死去>アンギャン公「ルイ1世」兼キース公「ルイ2世」
- 1710年3月4日-01:00|フランス| |||<就任>アンギャン公「ルイ2世アンリ」兼キース公「ルイ3世アンリ」(~17400127死去)
- 1710年3月8日 00:00|イギリス| |||<死去>4代ケリー伯「アレクザンダー・アースキン」
- 1710年3月8日 00:00|イギリス| |||<就任>5代ケリー伯「アレクザンダー・アースキン」(~17560403死去)
- 1710年3月11日 03:00|ブラジル| |||オランダのエンゼーニヨは2千の兵を動員しレシフェを封鎖/マスカット戦争/1年後に本国の介入により収拾
- 1710年3月15日-09:00|日本| 山形県新庄市|宝永7年2月16日|<隠居>出羽新庄藩68200石「戸沢正誠」⇒養子「戸沢正庸」が継ぐ(⇒元文2(1737)年12月6日、隠居)
- 1710年3月27日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントトマス島・セントジョン島総督「Michel Knudsen Crone」(~17160808死去)
- 1710年3月27日-09:00|日本| 大分県竹田市|宝永7年2月28日|<死去>豊後岡藩70440石「中川久通」(48歳)⇒三男「中川久忠」が継ぐ(⇒寛保2年10月13日(17421109)死去)
- 1710年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョヴァンニ・シオニニ」 「メルキオール・ハンマース」
- 1710年4月19日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ダンモア伯「チャールズ・マレー」
- 1710年4月19日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ダンモア伯「ジョン・マレー」先代の息子(~17520418死去)
- 1710年4月19日-09:00|日本| ||宝永7年3月21日|<死去>土佐光成(65歳)絵師
- 1710年4月22日-04:00|リュネオン/フランス| |||<就任>ブルボン島司令官「Pierre Antoine Parat de Chaillenest」(~17151114)
- 1710年4月22日 05:00|ベル=ス=ペ=イン| |||<就任>ベル=副王「大審問院大統領ミゲル・ヌニェス・サプリア」(2回目~9.14)
- 1710年4月24日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「李訶」(~9.10)
- 1710年4月28日 00:00|イギリス| |||昇格>初代ケント侯「ヘンリー・ケレイ」⇒初代ケント公(~17400605死去廃絶)
- 1710年5月-05:30|インド| |||バンダ率いるシク教徒がムガル朝の支配に対して反乱
- 1710年5月-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ヴァリス「ダマト・ヌマン・パシャ」(1回目~6.16)
- 1710年5月2日-02:00|ル=マニア| |||<死去>トランシルヴァニア総督「ステイヴン・ハラ・ハルコイ」
- 1710年5月2日-02:00|ル=マニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「イシュトヴァーン・ハロウ・ヴェツェレニイ・ハダティ」(1回目~17130701)
- 1710年5月3日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領ブラジル総督「ロレンス・アルマダ」(~17111014)
- 1710年5月10日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督代理「ジョージ・Lillington」(~17110622)
- 1710年5月13日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン=レムヒルト公「ハインリヒ」
- 1710年5月13日-09:00|日本| ||宝永7年4月15日|幕府が金貨改鋳を行う(宝永小判)
- 1710年5月13日-09:00|日本| ||宝永7年4月15日|幕府新井白石草する所の武家諸法度を頒つ、又別に其句解を作りて之を並び行なわしむ
- 1710年5月15日-09:00|日本| 栃木県那須烏山市|宝永7年4月17日|<死去>下野烏山藩3万石「稲垣重富」(38歳)⇒長男「稲垣昭賢」が継ぐ(⇒享保10(1725)年10月18日、志摩鳥羽藩3万石に移封)
- 1710年5月17日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国秘密評議会議長「オットー・クラッペ・ティル・エグホルム・ホルムコール」(~17170708)
- 1710年6月 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<死去>サントメ植民地総督「Vicente Dinis Pinheiro」
- 1710年6月 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領サカワイ植民地総督「ロバート・ギブズ」(~17120319)
- 1710年6月6日-01:00|ドイツ| |||ドイツ、マイン磁器工房設立
- 1710年6月14日-09:00|日本| 埼玉県さいたま市岩槻区|宝永7年5月18日|<交替>武蔵岩槻藩6万石「小笠原長重」隠居⇒嫡男「小笠原長熙」が継ぐ(⇒翌年2月11日、遠江掛川藩6万石に転封)
- 1710年6月14日-09:00|日本| 東京都千代田区|宝永7年5月18日|<解任>老中「小笠原長重」

1710迄 (1555件)

- 1710年6月16日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ケプルーリュ・ヌマン・パシャ」(~8.18)
- 1710年6月16日-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ウァリス「アブドラー・パシャ」(~1711年6月)
- 1710年6月17日-01:00|アルジェリア| |||<就任>アルジェのデイ「アリ2世シャグ・シュハバ・アリ・チャウシュ」(~17180404)
- 1710年6月18日-09:00|日本|長崎県壱岐市|宝永7年5月22日|<死去>河合曾良。壱岐にて病死(62歳)俳諧師
- 1710年6月19日-09:00|日本|愛知県刈谷市|宝永7年5月23日|<減移封>越後村上藩15万石「本多忠良」⇒三河刈谷藩5万石(⇒正徳2(1712)年7月12日、下総古河藩5万石に移封)
- 1710年6月19日-09:00|日本|群馬県高崎市|宝永7年5月23日|<加増移封>相模厚木藩1万石「間部詮房」⇒上野国高崎藩5万石(⇒享保2(1717)年2月11日、越後村上藩へ移封)
- 1710年6月19日-09:00|日本|千葉県富津市|宝永7年5月23日|<移封>三河刈谷藩16000石「阿部正鎮」⇒上総佐貫16000石(⇒宝暦元(1751)年11月4日、死去)
- 1710年6月19日-09:00|日本|新潟県村上市|宝永7年5月23日|<移封>上野高崎藩72000石「松平輝貞」⇒越後村上藩72000石(⇒享保2(1717)年2月11日、上野高崎藩72000石に移封)
- 1710年6月30日-09:00|日本| ||宝永7年6月4日|<死去>理子女王(20歳)徳川吉宗の正室、伏見宮貞致親王の王女。死産の後に産褥死
- 1710年7月14日-09:00|日本|東京都|宝永7年6月18日|江戸近辺で鳥を殺傷することが禁止される
- 1710年7月15日-02:00|ロシア/ロシア| |||リガ市がロシア軍に降伏。スウェーデン領リガニアはロシアに併合され自治が保証された
- 1710年7月27日-01:00|オランダ| |||<就任>ベルゲン・オブ・ズーム辺境伯「マリー・アンヌ アンリエット・レホルデーヌ」(~17280728没)、摂政「マリー・アン・フォン・アレンベルク」(~1722年)
- 1710年7月30日-09:00|日本|福井県福井市|宝永7年7月5日|<交替>越前福井藩25万石「松平吉品」隠居⇒甥「松平吉邦」が継ぐ(⇒享保6(1721)年12月4日、41歳で死去)
- 1710年8月-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「コセ・ハリル・パシャ」(~17110730、地元のペイによって打倒された)
- 1710年8月7日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「ベンジャミン・ブッチャー」(~17140708)
- 1710年8月11日 00:00|イギリス| |||<就任>グレートブリテン連合王国国庫財務実行主席弁務官「ホーレット伯爵ジョン・ホーレット」(~17110329) Tor
- 1710年8月18日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「バルタチ・メフメト・パシャ」(2期目~17111120)
- 1710年8月19日 00:00|イギリス| |||ユリウス暦8月8日|イギリスで、ホイッグ党政府が退陣し、トリー党政府が成立
- 1710年8月20日 00:00|イギリス| |||<死去>コヴェントリー伯「トマス・コヴェントリー」
- 1710年8月20日 00:00|イギリス| |||<就任>コヴェントリー伯「トマス・コヴェントリー」(~17120128死去)
- 1710年8月20日-09:00|日本|滋賀県彦根市|宝永7年7月26日|<死去>近江彦根藩30万石「井伊直通」(22歳)⇒8月12日、弟「井伊直恒」が継ぐ(⇒同年10月5日、18歳で死去)
- 1710年8月26日-01:00|ルウェーテンマーク| |||<就任>ルウェー総督「ウルリク・フレデリク・ヴァルデマル・フリハレ・レーヴェンタル」(~17120430)
- 1710年8月26日-09:00|日本|宮崎県児湯郡高鍋町|宝永7年8月2日|宮崎県児湯郡高鍋町<交替>日向高鍋藩27000石「秋月種政」隠居⇒長男「秋月種弘」が継ぐ(⇒享保19(1734)年12月7日隠居)
- 1710年9月3日 05:00|ロシア/スペイン| |||<就任>スペイン「ガブリエル」暫定大統領・総督・総司令官「サンタフェ大司教フランシスコ・ゴシオ・イ・オテロ」(~17110602)
- 1710年9月9日-01:00|スペイン| |||<死去>ペラガア公「ペドロ・マヌエル・コロン・デ・ホルタガール・イ・テ・ラウケバ」
- 1710年9月9日-01:00|スペイン| |||<就任>ペラガア公「ペドロ・マヌエル・ヌーニョ・コロン・デ・ホルタガール・イ・アヤラ」先代の子(~1733年没)
- 1710年9月11日-09:00|日本|兵庫県尼崎市|宝永7年8月18日|<死去>摂津尼崎藩48000石「青山幸督」病死(46歳)⇒10月16日、長男「青山幸秀」が継ぐ(⇒宝永8(1711)年2月11日、信濃飯山藩に移封)
- 1710年9月14日 05:00|ベルギー/スペイン| |||<就任>ベルギー副王「トシコ教デイエコ・ラトロン・デ・ゲバラ」(~17160302)
- 1710年9月18日 00:00|イギリス| |||<死去>4代アングルー伯「ジョン・アンズリー」
- 1710年9月18日 00:00|イギリス| |||<就任>5代アングルー伯「アーサー・アンズリー」先代の弟(~17370331死去)
- 1710年9月23日-02:00|フィンランド/スウェーデン| |||<就任>スウェーデン王領フィンランド 総督「カール・グスタフ・グレーブ・ニーロス」(~17120125没)
- 1710年9月23日-09:00|日本| ||宝永7年間8月|<移封>三河伊保「本多忠晴」⇒遠江相良1万5千石/以後忠通、忠如と続く(~延享3年陸奥泉へ)
- 1710年9月26日-02:00|エストニア/ロシア| |||エーセルの首都アレンブルク市(クレスラー)がロシア軍に降伏。エーセル(サレマ)の占領完了(17210910、スウェーデンからロシアに正式に割譲)
- 1710年10月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Damad Ibrahim Pasha」(~1711年)
- 1710年10月 00:00|イギリス| |||<死去>5代ダラムジー伯「ウィリアム・ラムゼイ」
- 1710年10月 00:00|イギリス| |||<就任>6代ダラムジー伯「ウィリアム・ラムゼイ」(~17391208死去)
- 1710年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フランチェスコ・マッジョーニ」「ピエトロ・フランチェーニ」
- 1710年10月3日 05:00|日本| ||宝永7年間8月11日|<宝永7年因伯美地震>未の刻(14時ごろ)、伯耆国と美作国にマグニチュード6.5クラスの地震/伯耆国の河村、久米両郡で被害が大きく、山が崩れ人家を押しつぶした/倉吉では土蔵が損壊し30cmほどの地割れが生じた/八橋で60余戸倒壊したのを始め伯耆国での被害は75人死亡、人家倒壊1092軒、土蔵損壊9カ所、山崩れ492カ所/美作国では2人死亡、民家倒壊及び損傷200軒余、山崩れ90カ所
- 1710年10月7日-09:00|日本|栃木県宇都宮市|宝永7年間8月15日|<移封>越後高田藩67850石「戸田忠真」⇒下野宇都宮藩67850石(⇒享保3(1718)年、1万石加増され77850石)

1710迄 (1555件)

- 1710年10月7日-09:00|日本|新潟県上越市|宝永7年閏8月15日|<移封>伊勢国桑名藩11万石「松平定重」⇒越後高田藩113000石(⇒正徳2(1712)年9月7日、隠居)
- 1710年10月7日-09:00|日本|広島県福山市|宝永7年閏8月15日|<移封>下野宇都宮藩10万石「阿部正邦」⇒備後福山藩10万石(⇒正徳5年1月27日(17150302)死去)
- 1710年10月7日-09:00|日本|三重県桑名市|宝永7年閏8月15日|<移封>備後福山藩10万石「松平忠雅」⇒伊勢桑名藩10万石(⇒延享3(1746)年6月20日、死去)
- 1710年10月10日-02:00|エストニア/ロシア| |||<就任>ロシア・エストニア暫定総督「ルト・ル・フェリックス・バウアー」(~1711年3月)
- 1710年10月13日 06:00|カナダ/イギリス/フランス| |||<ホートワイルの戦い>カナダのフランス入植地ホートワイルがイギリスに奪取される
- 1710年10月22日-09:00|日本|愛媛県|宝永7年9月|大山為起の『日本書紀』全巻の注釈書『味酒講記』が完成
- 1710年10月22日-09:00|日本|静岡県牧之原市|宝永7年9月|<移封>三河伊保藩15000石「本多忠晴」⇒遠江国相良藩15000石(⇒正徳5(1715)年4月12日、死去)
- 1710年10月23日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|宝永7年9月2日|<死去>山城淀藩6万石「石川義孝」(52歳)⇒養子「石川総慶」が継ぐ(⇒宝永8(1711)年2月、備中松山藩6万石に移封)
- 1710年11月-06:30|ミャンマー| |||<即位>ムラウケウ国王「サタウイサヤ」篡奪者(~1731年4月)
- 1710年11月 03:00|ブラジル| |||ブラジルのペルナンブーコでマスカ戦争が勃発
- 1710年11月8日-05:30|インド/オランダ| |||<就任>オランダ領インド総督「ダニエル・ヘルナル・ギリアムス」(~1716年)
- 1710年11月12日-09:00|日本|奈良県大和郡山市|宝永7年9月22日|<死去>大和小泉藩11129石「片桐貞房」(69歳)⇒甥「片桐貞起」が継ぐ(⇒寛保元(1741)年4月1日、死去)
- 1710年11月23日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督代行「イヴァン・ツシュ・ルセツ」(~12.10)
- 1710年11月23日-01:00|ロシア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国トリホリアニア・ヘルベイル「イスマイル・村」(~17110120)
- 1710年11月25日-09:00|日本|滋賀県彦根市|宝永7年10月5日|<死去>近江彦根藩30万石「井伊直恒」(18歳)⇒父「井伊直興(直該)」が再任(⇒正徳4(1714)年2月23日、隠居)
- 1710年11月30日-09:00|日本|東京都大田区|宝永7年10月10日|池上本門寺から出火し、本堂・祖師堂・本坊などが焼失
- 1710年12月4日-09:00|日本|愛媛県今治市|宝永7年10月14日|宝永5年閏1月9日に今治藩領越智郡下弓削村土生の農民騒動をおこした庄右衛門ら8人斬首となる
- 1710年12月7日 04:00|アンティグア・バブーバ/イギリス| |||<就任>リワード・カビ-諸島総司令官・総督代行「ジョン・イマンス」(~同月)⇒「ウォルター・ハミルトン」(1回目~17110710)
- 1710年12月8日-09:00|日本|青森県弘前市|宝永7年10月18日|<死去>陸奥弘前藩47000石「津軽信政」(65歳)⇒次男「津軽信寿」が継ぐ(1000石分知し46000石⇒享保16(1731)年5月16日、隠居)
- 1710年12月10日-05:30|インド| |||<就任>タタール国統治者(マハラ)「サングラム・シン2世」(~17340111没)
- 1710年12月10日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「デ・イミトリー・カンテミル」(~17110711)
- 1710年12月15日-01:00|ドイツ| |||<死去>シュヴァルツブルク=ルードルシュタット侯「アルブレヒト・アントン」
- 1710年12月15日-01:00|ドイツ| |||<就任>シュヴァルツブルク=ルードルシュタット侯「ルートヴィヒ・フリードリヒ1世」(~17180624死去)
- 1710年12月19日-09:00|日本|福岡県朝倉市|宝永7年10月29日|<死去>筑前秋月藩5万石「黒田長重」(52歳)⇒長男「黒田長軌」が継ぐ(⇒正徳5(1715)年11月4日、死去)
- 1710年12月22日-09:00|日本|奈良県葛城市|宝永7年11月3日|<交替>大和新庄藩1万石「永井直圓」隠居⇒次男「永井直亮」が継ぐ(⇒元文2(1737)年6月27日、死去)